

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAa203		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科2年次の必修専門科目である。生涯発達領域における「発達心理学概論」を基礎とし、「児童期の心理学」「青年期の心理学」と関連する。

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。また、生物学的な基盤をもったヒトが、世界に出会い人として歩み始める劇的な時期が乳幼児期であるともいえる。本講義では、身体・認知・情緒などの諸側面から乳幼児期の発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深めることを通じて、生涯発達の中での乳幼児期の位置づけについても考察する。

授業の方法（ALを含む）

講義形式の授業を行う。毎回コメントシートを課し、授業内容の理解度を確認する。コメントシートは採点し翌週以降返却する。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 乳幼児期の発達の過程における基本的な理論や知識を身につけ、乳幼児に対する理解を深める。
2. 乳幼児期の心のあり方や発達を研究する方法を理解する。
3. 社会や文化において乳幼児がどのような存在であり、人の一生の中で乳幼児期がどのような時期なのかについて考察を深める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解
- 2分析的思考
- 3課題発見・解決

内容

1	乳幼児期とは
2	乳幼児研究の方法【リアクションペーパー】

3	赤ちゃんの不思議【リアクションペーパー】
4	認知発達 【リアクションペーパー】
5	認知発達 【リアクションペーパー】
6	身体と運動の発達【リアクションペーパー】
7	自己の発達【リアクションペーパー】
8	親子関係の発達 【リアクションペーパー】
9	親子関係の発達 【リアクションペーパー】
10	社会性の発達【リアクションペーパー】
11	言葉の発達【リアクションペーパー】
12	読み書き能力とコミュニケーションの発達【リアクションペーパー】
13	遊びの発達と集団生活【リアクションペーパー】
14	発達の個人差【リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎回次回講義の予告をするので内容に関して自分なりに考えたりキーワードを調べたりしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する。また、疑問点について調べたり考察を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業内での課題（30%）、期末試験（70%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

到達目標1 授業内での課題（10/30） 期末試験（30/70）

到達目標2 授業内での課題（10/30） 期末試験（30/70）

到達目標3 授業内での課題（10/30） 期末試験（10/70）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 使用しない

[推薦書] 内田伸子編 よくわかる乳幼児心理学 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

発達の諸側面ごとに学ぶが、乳幼児期は変化が大きい時期なので、プロセスの全体像をイメージしながら授業を受けることが望まれる。

科目名	児童期の心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAa204		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目の生涯発達領域に配置される。同領域の「乳幼児期の心理学」や「青年期の心理学」「中高年期の心理学」などと関連が深い。

本科目は「こどもサポーター(こころの支援)」資格要件科目です。

科目の概要

児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面から捉えると共に、学童期の最も重要な側面として社会性育成の視点について理解を深める。また同時に、児童虐待や発達障害など、児童期の子どもたちに特徴的な問題についても取り上げ、児童への幅広い考察をねらいとする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心に、各授業回において学生の知識定着を図るため感想や疑問点等の記入を求め、翌週にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

到達目標

生涯発達の中の児童期の位置づけることができる。

児童期の発達と心理について基本的な理論と知識を理解できる。

学生自身の子ども観を再認識し、子どもに関する理解を深めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1- 基本的理念・概念の理解、2- 実証的・科学的思考、3- 興味・関心、主体的な姿勢

内容

この授業は講義を基本に、必要に応じてグループワークを取り入れながら、学びを深めていく。

1	イントロダクション～児童期の特徴【リアクションペーパー】
2	児童期を取り巻く発達理論【リアクションペーパー】
3	児童の心の理解 言葉の発達【リアクションペーパー】

4	児童の心の理解 認知の発達【リアクションペーパー】
5	児童の心の理解 自己意識と自尊感情【リアクションペーパー】
6	児童の心の理解 セルフコントロールとレジリエンス【リアクションペーパー】
7	児童の心の理解 道徳性の発達【リアクションペーパー】
8	児童の心の理解 仲間関係の発達【リアクションペーパー】
9	児童の心の理解 社会的行動の発達【リアクションペーパー】
10	児童の心の理解 性役割の獲得とアイデンティティ【リアクションペーパー】
11	児童期を取り巻く問題 児童虐待とは【リアクションペーパー】
12	児童期を取り巻く問題 発達障害の理解【リアクションペーパー】
13	児童期を取り巻く問題 不登校とは何か【リアクションペーパー】
14	児童期を取り巻く問題 児童への援助～子どもに寄り添うとは【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前にキーワードを調べておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回授業で学んだことや関連科目とのつながりを整理し、まとめておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への取り組みおよび課題(30%)、筆記試験(70%)、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(25%)

到達目標2．授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(35%)

到達目標3．授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(10%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】桜井茂男[ほか]著『子どものこころ 児童心理学入門 新版』有斐閣アルマ 2014

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

生涯発達科目群との関連が深い講義です。関連やつながりを意識して講義を受講しましょう。

合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

科目名	青年期の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAa205		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の生涯発達科目の中の必修科目であり、人間の発達段階の内の青年期について心理学的特徴を理解し、基本的な知識を学修する。1年次の発達心理学概論が基礎となる。乳幼児期の心理学、児童期の心理学とあわせて学習することで人間が成人するまでの発達段階を詳しく理解することができる。

科目の概要

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、急激な身体的変化や認知能力の発達によって、多くの者が、それまで気がつかなかった自分自身のことや、人間関係、社会との関わりについて深く考え、ときに思い悩むようになる。青年期には何が起ころのか、青年期とは私たちにとってどのような意味を持っているのか。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。

授業の方法 (ALを含む)

講義による解説を中心として、グループによるディスカッション、授業内容に関連する心理尺度の実習等を取り入れた授業を行う。毎回リアクションペーパーを配付し講義内容についての理解を確認し、質問には翌週の授業で回答する。【討議・討論】【実技】【リアクションペーパー】【ミニテスト】

到達目標

1. 青年心理学における理論や研究知見に関する基礎知識を身につけている
2. 青年期の心理学的特徴を理解し、説明することができる
3. 青年期の諸問題を、自分自身の問題と照らして考え自己理解を深める

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解
- 2分析的思考

内容

授業は講義形式で行い、グループワークなどを入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス：授業の概要【リアクションペーパー】
2	青年期とは【リアクションペーパー】
3	青年心理学の成立【リアクションペーパー】
4	青年心理学の研究手法【リアクションペーパー】
5	大人になること【討議・討論】【リアクションペーパー】
6	青年期の身体的変化【リアクションペーパー】
7	青年期の自己(1)自己理解・自尊感情【リアクションペーパー】
8	青年期の自己(2)アイデンティティ【実技】【リアクションペーパー】
9	性役割【実技】【リアクションペーパー】
10	まとめ【ミニテスト】
11	将来決定(1)：職業興味検査【実技】【リアクションペーパー】
12	将来決定(2)：進路決定と職業【討議・討論】【リアクションペーパー】
13	青年期の人間関係【リアクションペーパー】
14	青年期の感情【リアクションペーパー】
15	まとめ【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。(30分)

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。(60分)

評価方法および評価の基準

期末テスト60%+中間テスト30%+授業内の課題10%とする。【フィードバック】リアクションペーパーの質問には回答する。中間テスト、授業内での課題は採点の上、返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

60点以上を合格とし、合格点に到達しない場合再試験を行う。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	小川 まどか		
ナンバリング	KAa406		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の必修科目として、中高年期・高齢期の人々が直面し得る加齢に伴う心理的・社会的・身体的な課題や生活ニーズを総合的に理解することを目的とする。

科目の概要

今日、中高年期・高齢期の人口は全人口の半数を超えている。今は若年である多くの学生もいずれ当事者となるであろう。本科目では、中高年期・高齢期の心理を中核としながら、加齢に伴う生物学的な変化や特徴、社会からみた中高年期・高齢期、心理学的な加齢理論、中高年期・高齢期の認知機能等について取り扱うことを通して、中高年期・高齢期の人々を取り巻く状況だけでなく、直面し得る課題や生活ニーズを理解する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心とし、講義後に授業内容で得た考え方や感想、疑問点を記入したリアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーのなかから教員がフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

到達目標

本科目では、中高年期・老年期の人々を取り巻く諸側面の基礎的な理解を目標とする。

- ・加齢とともに生じる変化を心理的、身体的および社会的側面からからとらえ、中高年期・高齢期に特徴的な変化を記述できる
- ・中高年期・高齢期に生じる課題や生活ニーズを理解できるようになる
- ・超高齢社会における社会的な課題を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2分析的思考、 -1興味・関心、主体的な姿勢、 -2知識・理解を活用する意欲

内容

予定する講義内容は以下のとおりである。

講義は、教員が用意する資料を基本に進め、適宜質疑応答をしながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション：高齢者の実態と老化のとらえ方
2	中高年期と身体的側面：身体疾患と生活機能

3	中高年期と身体的側面 : 感覚の特徴
4	中高年期と社会的側面 : エイジズム
5	中高年期と社会的側面 : 社会生活と対人関係
6	中高年期と心理的側面 : 実行機能と注意
7	中高年期と心理的側面 : 記憶・学習
8	中高年期と心理的側面 : パーソナリティ
9	中高年期と心理的側面 : 知能と創造性
10	中高年期と心理的側面 : 情動・感情と幸福感
11	中高年期と心理的側面 : サクセスフル・エイジング
12	中高年期と心理的側面 : 認知症の理解
13	中高年期と心理的側面 : 認知症の理解
14	中高年期と心理的側面 : 死と死にゆく過程
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に推薦図書に目を通し、キーワードを調べておくこと。(各授業に対して60分程度)

【事後学修】講義資料や参考資料を読み直したり、自分でまとめたりしてください。(各授業に対して60分程度)

評価方法および評価の基準

- ・加齢とともに生じる変化を心理的、身体的および社会的側面からからとらえ、中高年期・高齢期に特徴的な変化を記述できる(平常点10%、期末試験30%)
- ・中高年期・高齢期に生じる課題や生活ニーズを理解できるようになる(平常点10%、期末試験20%)
- ・超高齢社会における社会的な課題を説明できる(平常点10%、期末試験20%)

平常点40%、期末試験60%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の最初に、前回のリアクションペーパーで印象的なコメントや疑問点に回答し、自らの考えを深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】佐藤眞一・権藤恭之編著『よくわかる高齢者心理学』ミネルヴァ書房

【推薦書】松田修編著『最新老年心理学』ワールドプランニング

その他、授業内で適宜紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理学基礎論		
担当教員名			
ナンバリング	KAa208		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の選択専門科目である。

心理学の幅広い領域の関連性に重点をおいた科目である。

科目の概要

心理学には幅広い領域があり、社会における様々な場面で活用されている。日本心理学諸学会連合は、多くの領域をわかりやすくまとめた10領域からなる「心理学検定」を年1回実施している。10領域のなかでも、基礎的なA領域のうち3科目において、各領域で何を学ぶかを理解し、知識と理解を深める。取り上げる科目は、「認知・学習」「社会・感情・性格」「臨床・障害」の3科目である。各領域における重要なキーワードを学び、模擬問題に取り組みながら、心理学検定2級合格をめざす。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心に、テキスト内や配布資料の課題を受講者が取り組むことを取り入れながらすすめる。【ミニテスト】

到達目標

- 1.心理学における基本的な領域がどのようなものかを説明できる
- 2.各領域における基礎的な知識を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解
- 1興味・関心、主体的な姿勢

内容

1	ガイダンス：心理学における領域とは（担当教員全員）
2	認知（池田）【ミニテスト】
3	認知（池田）【ミニテスト】
4	臨床（伊藤）【ミニテスト】

5	臨床（伊藤）【ミニテスト】
6	社会（風間）【ミニテスト】
7	社会（風間）【ミニテスト】
8	中間まとめ（担当教員全員）
9	学習（池田）【ミニテスト】
10	学習（池田）【ミニテスト】
11	障害（伊藤）【ミニテスト】
12	障害（伊藤）【ミニテスト】
13	感情・性格（風間）【ミニテスト】
14	感情・性格（風間）【ミニテスト】
15	まとめ（担当教員全員）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指定された模擬問題への回答をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】キーワードや概念をノートに整理しまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度10% 中間試験45% 期末試験45%とし、総合評価60点以上を合格とする。

1. 授業への参加度（5/10） 中間試験（10/45） 期末試験（10/45）

2. 授業への参加度（5/10） 中間試験（35/45） 期末試験（35/45）

【フィードバック】試験は採点して授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】心理学検定 公式問題集 日本心理学諸学会連合心理学検定局

【推薦書】心理学検定 基本キーワード 日本心理学諸学会連合心理学検定局

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

受講者には原則心理学検定を受検してもらいます。

科目名	精神保健		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAb313		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床現場での精神保健にかかわる実践を教授する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する全般的な知識を得ることを目的とします。特に人間発達心理学科のディプロマポリシーの「専門教育で習得した理論・概念・知識・技能により、生活支援能力や身体のケア能力を身につける」ことを目指す

科目の概要

「心の健康と病理とは一体何か」を大きな問いにしながら、現代社会における心の病について考えていきます。各心の病についての知識を深めるとともに、実際の臨床現場でそのような知識をどのように生かしていくのかを具体的な事例と共に学んでいきたいと思えます。

授業の方法（ALを含む）

基本的には講義を行い、その上で毎回学生同士でディスカッションを行ってもらい、最後に教員と学生との対話を行う。

到達目標

精神保健の対象について縦断的および横断的に理解し、学生が各メンタルヘルスの問題について、専門用語を理解できることを目指す。その上で、学生が授業で学んだ内容について、自分なりの活かし方を理解できるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 2 分析的思考
- 1 興味・関心、主体的な姿勢

内容

この授業では、アクティブラーニングの要素を取り入れるために、トピックの変わり目ごとにグループワークを取り入れ、ディスカッションを促す。

1	イントロダクション 授業の取り決め
2	精神保健とは
3	うつ
4	いじめ
5	非行
6	心因性の問題神経症
7	不登校
8	発達障害
9	A D H D
10	L D
11	虐待
12	精神保健を実践する
13	精神保健を実践する
14	精神保健を実践する
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】発表を行う者は事例のまとめ。それ以外のものは次の授業のテーマについての文献に触れてくる（各授業につき60分）。

【事後学修】授業中に呈示した関連文献を読んでくる（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

各回のレポートが20点、テストが80点とし、総合評価60点以上を合格とする。

ただし、事例発表を行った者には30点を予め付与する。

【フィードバック】毎授業末にリアクションペーパーと、Google formを用いて質問や意見などを受付、双方向的な講義を実践する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特になし。適宜推薦する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	乳幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師・言語聴覚士・臨床心理士・臨床発達心理士として、発達・心理相談等の実務経験があります。これらの実務経験から得られた事例に基づき、実際の問題や対応に関して、受講生とともに考えながら、学習を進めていきます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

1. 科目の性格：

本科目は、これまで学んできた発達心理学や教育心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。

2. 科目の目標：

乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。

授業の方法 (ALを含む)

乳幼児期の心理臨床における基本的な理論や概念を講義するとともに、視聴覚教材を活用し、乳幼児の心の健康を保持するために、生活の中で活用する方法を主体的に考えられるように、働きかけながら授業を進めていきます。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題について理解する。
- (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題を理解する。
- (3) 発達の支援に関して理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的な理念・概念の理解。
- 4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解。
- 1 実証的・科学的思考。

内容

1. オリエンテーション
2. 発達とは 発達の課題とは 【リアクションペーパー】【グループワーク】
3. 発達の基礎理論 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4. 胎生期～周産期の心理臨床 【リアクションペーパー】【グループワーク】

5. 新生児期の心理臨床 【リアクションペーパー】【グループワーク】
6. 乳児期の心理臨床 (1) 【リアクションペーパー】【グループワーク】
7. 乳児期の心理臨床 (2) 【リアクションペーパー】【グループワーク】
8. 幼児期の心理臨床 (1) 【リアクションペーパー】【グループワーク】
9. 幼児期の心理臨床 (2) 【リアクションペーパー】【グループワーク】
10. 幼児期の心理臨床 (3) 【リアクションペーパー】【グループワーク】
11. グループ発表 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
12. グループ発表 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
13. グループ発表 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
14. 発達の支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読み、キーワードを心理学事典等で調べてA41枚にまとめてください（各講義に対して60分）。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に対して、教科書及び心理学事典等を活用し、義の復習をしてください（各講義に対して60分）。

評価方法および評価の基準

100点満点中、授業への参加度（課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など）40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが100点満点中60点に満たない場合は、不合格とします。

- (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題について理解する。参加度10%・期末テスト20%
- (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題を理解する。参加度10%・期末テスト20%
- (3) 発達の支援に関して理解する。参加度20%・期末テスト20%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業における質疑に返答し、学習理解が深められるようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著（2015）『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで学んできた知識や技能を実際の発達支援に、どのように生かすかを考えながら、受講してください。

期末テストが60点未満の場合でも、再試験は実施しません。

科目名	児童期から青年期の心理臨床		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAb315		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

カウンセラーとして教育現場に従事していた経験をもとに、子どもに対する心理臨床の理論や技法について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目の心理臨床領域に配置される。主に、児童・青年期における精神面の発達上の問題（問題行動や不適応、精神的疾患など）について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援方法などを深める。「児童期の心理学」「青年期の心理学」などに関わりが深い。

ピアヘルパー取得要件科目（領域）にあたる。

科目の概要

心身の変化が大きい児童期から青年期という時期に、子どもたちがどのような心理的状态にあり、どのような問題に直面するのかについて学ぶ。また、問題行動や症状を呈している子どもおよびその家族に対して、専門的な知識をもちかつ訓練を受けた者がどのように関わりを重視しつつ支援活動を行うのかということについても学んでいく。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義による解説を中心として、グループによる作業やディスカッションを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

児童期・青年期の子どもたちが直面するさまざまな心理的問題に関心を寄せることができる。

に関して、心理臨床的な知識や理論をもとにした支援方法について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1- 心理学の理論・概念・技能の活用の理解、2- 分析的思考、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	はじめに：こころの発達と健康
2	大人になる」ことのむずかしさ?： 永遠の「中2病」【討議・討論】

3	心が病むときとは？【討議・討論】
4	非行の心理臨床? : 大人になるための「つまづき」と「怒り」【討議・討論】
5	不登校とその支援? : 「学校」は行かなければいけない?【討議・討論】
6	依存とその理解 : やめられないとならない【討議・討論】
7	ひきこもりと支援? : 家族との格闘【討議・討論】
8	発達障碍と支援 : 片づけられない女たち【討議・討論】
9	もしかしてデートDV?!? : 愛がゆがまないために【討議・討論】
10	ボディイメージと自己? : なりたい「ボディ」と今の「ワタシ」【討議・討論】
11	メディアとコミュニケーション? : SNSと「ワタシ」の価値【討議・討論】
12	児童期・青年期の心理臨床 : 男性の場合【グループワーク】
13	児童期・青年期の心理臨床 : 女性の場合【グループワーク】
14	児童期・青年期の心理療法 : 遊びの中で心を癒す方法【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習テーマに関する記事やデータを調べて講義にのぞむこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直しておくこと。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への取り組みおよび課題(40%)、筆記試験(60%)、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 . 授業への取り組みと課題(20%)、筆記試験(25%)

到達目標2 . 授業への取り組みと課題(20%)、筆記試験(35%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない

【推薦書】「思春期・青年期臨床心理学(朝倉心理学講座16)」伊藤美奈子編著 朝倉書店 2006

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

・講義で紹介した映像資料などについて、自己学習を推奨します。

・グループワークなどへの参加態度も評価の対象とします。まじめに取り組まましょう。

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	高橋 彩		
ナンバリング	KAb416		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門選択科目として、中高年期の人々の心理的・社会的・身体的な課題やニーズを実感的に理解し、その現状や背景を分析・考察できる思考力を醸成する。

科目の概要

中高年期の心理的特徴と課題を理解し、それに伴う様々な問題について多面的・包括的に考察する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、リアクションペーパーを取り入れた授業を行う。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 中高年期の人々が直面する課題とそれらの背景や特徴を理解できる。
2. 世代を超えた関係性について考察できる。
3. 自身の生涯発達についても深い考えを持てるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解 -2 分析的思考 -2 知識・理解を活用する意欲

内容

1	オリエンテーション（中高年期のイメージ）
2	中高年期の理解 ： 人生の移行期【リアクションペーパー】
3	中高年期の理解 ： 中年期が抱える心理的課題【リアクションペーパー】
4	中高年期の理解 ： 高年期が抱える心理的課題【リアクションペーパー】
5	中高年期の課題 ： 働く場における問題と課題【リアクションペーパー】
6	中高年期の課題 ： 中高年期のこころの病【リアクションペーパー】
7	中高年期の課題 ： 中高年期の心理的ケア【リアクションペーパー】

8	中高年期の課題 : 認知症と家族の支援【リアクションペーパー】
9	中高年期の課題 : 死と向き合う【リアクションペーパー】
10	映画から考える老い【リアクションペーパー】
11	世代間交流による相互発達【リアクションペーパー】
12	職場における世代間の関わり【リアクションペーパー】
13	人生100年時代をどう生きるか【リアクションペーパー】
14	中高年期を見据えた今の自分・将来の自分を考える
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回 【事前準備】自分がもっている中高年期の人のイメージをA41枚にまとめる。[60分] 【事後学習】授業時に解説した内容をA41枚にまとめる。[60分]

2~13回 【事前準備】各授業の最後に指示する事柄について、事前に調べてA41枚にまとめる。[60分] 【事後学習】授業内で扱ったキーワードについて調べ、A41枚にまとめる。[60分]

14~15回 【事前準備】ここまでの授業で示した重要キーワードを復習してA41枚にまとめる。[60分] 【事後学習】授業中に指示したテーマを元に、授業の総まとめの内容をA42枚にまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー40%、筆記試験60%

1. 中高年期の人々が直面する課題とそれらの背景や特徴を理解できる(リアクションペーパー20%、筆記試験20%)
2. 世代を超えた関係性について考察できる(リアクションペーパー10%、筆記試験20%)
3. 自身の生涯発達についても深い考えを持てるようになる(リアクションペーパー10%、筆記試験20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【参考図書】齋藤高雅・高橋正雄『中高年の心理臨床』放送大学教材

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業はパワーポイントを使用するが、パワーポイント資料は配布しないため、授業内容は自身でノートにまとめること。

科目名	障害児・者の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb417		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師・言語聴覚士・臨床心理士・臨床発達心理士として、発達・心理相談等の実務経験があります。これらの実務経験から得られた事例に基づき、実際の問題や対応に関して、受講生とともに考えながら、学習を進めていきます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

心理臨床における基本的な理論や概念を講義するとともに、視聴覚教材を活用し、障害児・者の心の健康を保持するために、生活の中で活用する方法を主体的に考えられるように働きかけながら授業を進めていきます。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標：

- 1．障害の理解。
- 2．各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
- 3．上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的な理念・概念の理解。
- 4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解。
- 2 知識・理解を活用する意欲。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 3 自閉スペクトラム症児・者の心理学的特徴と支援（1） 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 4 自閉スペクトラム症児・者の心理学的特徴と支援（2） 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】

- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 12 グループ発表(1) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 13 グループ発表(2) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 14 グループ発表(3) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 15 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読み、キーワードを心理学事典等で調べてA41枚にまとめてください(各講義に対して60分)。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に対して、教科書及び心理学事典等を活用し、義の復習をしてください(各講義に対して60分)。

評価方法および評価の基準

100点満点中、日常点(課題提出・小テスト・授業態度・発表など)40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

- (1) 障害について理解する。参加度10%・期末テスト20%
- (2) 各障害の診断基準及び心理学的特徴について理解する。参加度10%・期末テスト20%
- (3) 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援に関して理解する。参加度20%・期末テスト20%

【フィードバック】 毎授業の最初に前回授業における質疑に返答し、学習理解が深められるようにします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで学んできた知識や技能を実際の支援に、どのように生かすかを考えながら、受講してください。
期末テストが60点未満の場合でも、再試験は実施しません。

科目名	心理療法		
担当教員名	堀川 聡司		
ナンバリング	KAb418		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

本科目は、講義形式を基本としつつ、学生自身の積極的な参加も求められる授業である (各自の自習、学生間の意見交換) 。それによって、「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができること」ならびに「心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につけること」が目指される。

科目の概要

今日「心理療法」と名づけられる心理療法は数えきれないほどある。これほど多様な心理療法が生まれることになった理由は、実践現場におけるニーズに従ったからに他ならない。本科目では、そのように多様化した心理療法の世界を、事例を通して概観し、現場でどのような取り組みがなされているのかを学ぶことを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

毎回、講師がその療法に関する事例素材を提示する。それについて受講者で討議、意見発表をし、講師より理論や背景の詳細な解説を行う。

【討議・討論】【プレゼンテーション】【グループワーク】。、

到達目標

心理療法という実践がどのようなものか、その概観を掴み、自身が関心を持った心理療法 (少なくとも一つ以上) について、その理解を深める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 問題解決のための実践方法 -3 論理的思考 -3 課題発見

内容	
1	イントロダクション
2	アセスメントと見立て
3	精神分析的心理療法 (1) 設定と契約
4	精神分析的心理療法 (2) 反復と転移

5	精神分析的心理療法（3）投影同一化と逆転移
6	絵画療法（1）バウムテストと風景構成法
7	絵画療法（2）その他の技法
8	箱庭療法（1）その成り立ち
9	箱庭療法（2）その読み取り
10	行動療法と認知療法（1）摂食障害
11	行動療法と認知療法（2）うつ病
12	行動療法と認知療法（3）加害者支援
13	支持的心理療法（1）親面接
14	支持的心理療法（2）セクシュアルマイノリティの支援
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】推薦図書に挙げた著書など、各心理療法に関して書かれた書籍の該当箇所を一読しておくこと。（各セッションにつき90分程度）

【事後学修】関心をもった心理療法について、授業で紹介した文献を読み、さらに学習を進めること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

「授業に対する意欲・関心・態度」を30点、期末レポート70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】乾(2005)『心理療法ハンドブック』（創元社）、東畑(2015)『野の医者には笑う』（誠信書房）

【参考図書】堀川（2016）『精神分析と昇華』（岩崎学術出版社）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

事例素材に出てくる患者・クライアントになったつもりで向き合うと、より理解が深くなると思われます。

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名			
ナンバリング	KAb419		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師・言語聴覚士・臨床心理士・臨床発達心理士として、発達・心理相談等の実務経験があります。これらの実務経験から得られた事例に基づき、実際の問題や対応に関して、受講生とともに考えながら、学習を進めていきます。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

科目の性格

本科目は、専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知見を基礎として、「心理学」が社会のさまざまな場で、どのように役立っているのかを実習を通して具体的に理解する科目です。

科目の概要

いくつかの臨床現場（医療・保健の施設や機関、学校教育および関連する施設や機関、社会福祉関連の施設や機関）に向いて見学させていただくとともに、現場で従事されている専門家の方からのお話をうかがいます。事前のガイダンスと事後のまとめを見学ごとに行います。

授業の方法（ALを含む）

老人福祉施設、特別支援学校、子育て支援施設、児童相談所等での観察実習を通して、これまで学んできた心理臨床の各領域における知識・技能を用いて、日常生活における課題の解決に臨む意欲をもてるよう、進めていきます。【実習】

到達目標

1. 知識として学んできた発達心理学や臨床心理学などが現場でどう生きているかを理解します。
2. 現場で「心理学を活かすこと」にどのような難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深めます。
3. 受講生が自分の将来の道を考える上での「心理学を活かす」という視点を実質化します。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4：心理学の理論・概念・技能の活用理解、 - 1：興味関心・主体的な姿勢、 - 2：知識・理解を活用する意欲

内容

1. 現場（社会福祉関連の施設や機関を予定）への見学実習に対する事前ガイダンス
2. 現場（医療・保健関連、学校教育関連、社会福祉関連の施設や機関を予定）への見学実習に対する事前ガイダンス
- 3～5. 高齢者施設等の社会福祉施設見学実習。【実習】
- 6～8. 子育て支援施設等の社会福祉施設見学実習。【実習】
- 9～11. 特別支援学校等の学校教育関連施設見学実習。【実習】
- 12～14. 児童相談所もしくは病院等の医療・保健関連、社会福祉関連施設見学実習。【実習】
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】見学予定の施設に関して厚生労働省や文部科学省などのホームページを参照し、施設の概要などを事前に十分学習し、見学の視点を明確にしておいてください（各実習ごとに2～3時間）。

【事後学修】見学で学んだ各施設の機能や役割、課題等を整理し、心理学的観点から分析し、最終的にレポートを作成してください。（各実習ごとに2～3時間）。

評価方法および評価の基準

100点満点中、実習態度得点（積極性やことば使いなど）20％と、見学ごとのレポート得点80％（100点×施設数）にて評価し、総合評価60点以上を合格とします。

到達目標1．実習態度得点(10%)、レポート(30%)

到達目標2．実習態度得点(5%)、レポート(30%)

到達目標3．実習態度得点(5%)、レポート(20%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。

【推薦書】事前ガイダンスにて、お伝えします。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- 1．見学にかかる経費（交通費など）は受講生の自己負担となります。
- 2．見学を実施する時期は、通常の授業が行われない日程となります（例えば集中講義期間、春期休業期間）。
- 3．現場見学を行うために、受講生の人数（上限）を設定します。
- 4．見学先、時期、受講制限などについては、学科オリエンテーションにて説明します。

科目名	発達臨床心理学（発達心理学）		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb173		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師・言語聴覚士・臨床心理士・臨床発達心理士として、発達・心理相談等の実務経験があります。これらの実務経験から得られた事例に基づき、実際の問題や対応に関して、受講生とともに考えながら、学習を進めていきます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

本科目は、これまで学んできた発達理論、発達研究を実際の発達支援に生かすための応用力を培うための科目です。

科目の概要：

出生前から高齢期にいたる各ライフステージにおける発達とその支援について学習します。また、精神疾患の基礎知識、発達障害の基礎知識などについて受講者とともに考えていく予定です。

授業の方法（ALを含む）

心理臨床における基本的な理論や概念を講義するとともに、視聴覚教材を活用し、自らおよび周囲の人々の心の健康を保持するために、生活の中で活用する方法を主体的に考えられるように働きかけながら授業を進めていきます。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- 1．各ライフステージにおける発達とその支援について理解する。
- 2．精神疾患の基礎知識を得る。
- 3．発達障害の基礎知識を得る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的な理念・概念の理解。
- 4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解。
- 2 知識・理解を活用する意欲。

内容

- 1.オリエンテーション
- 2.発達臨床心理学とは 【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
- 3.胎生期～新生児期における発達とその支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 5.幼児期における発達とその支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 6.児童期における発達とその支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 7.青年期における発達とその支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 8.成人期における発達とその支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】

9. 高齢期における発達とその支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
10. 精神疾患 (1)障害とは (2)精神疾患とは 【リアクションペーパー】【グループワーク】
11. 発達障害 (1)発達障害とは (2)代表的な発達障害 【リアクションペーパー】【グループワーク】
12. グループ発表(1) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
13. グループ発表(2) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
14. グループ発表(3) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読み、キーワードを心理学事典等で調べてA41枚にまとめてください（各講義に対して60分）。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に対して、教科書及び心理学事典等を活用し、講義の復習をしてください（各講義に対して60分）。

評価方法および評価の基準

100点満点中、授業への参加度（課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など）40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが100点満点中60点に満たない場合は、不合格とします。

到達目標 1：参加度20%・期末テスト40%

到達目標 2：参加度10%・期末テスト10%

到達目標 3：参加度10%・期末テスト10%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業における質疑に返答し、学習理解が深められるようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで学んできた知識や技能を実際の発達支援に、どのように生かすかを考えながら、受講してください。

期末テストが60点未満の場合、再試験は実施しません。

科目名	障害者・障害児心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAb474		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師・言語聴覚士・臨床心理士・臨床発達心理士として、発達・心理相談等の実務経験があります。これらの実務経験から得られた事例に基づき、実際の問題や対応に関して、受講生とともに考えながら、学習を進めていきます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

障害の状態にある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：

各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

心理臨床における基本的な理論や概念を講義するとともに、視聴覚教材を活用し、障害児・者の心の健康を保持するために、生活の中で活用する方法を主体的に考えられるように働きかけながら授業を進めていきます。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標：

- 1．障害の理解。
- 2．各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
- 3．上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的な理念・概念の理解。
- 4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解。
- 2 知識・理解を活用する意欲。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 障害とは 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 3 自閉スペクトラム症児・者の心理学的特徴と支援（1） 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 4 自閉スペクトラム症児・者の心理学的特徴と支援（2） 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 5 限局性学習症児・者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】

- 6 注意欠如/多動症児・者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 7 知的発達症児・者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 8 視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 11 各障害児・者の心理学的特徴と支援のまとめ 【リアクションペーパー】【グループワーク】
- 12 グループ発表(1) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 13 グループ発表(2) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 14 グループ発表(3) 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
- 15 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義予定に該当する教科書部分を予め読み、キーワードを心理学事典等で調べてA41枚にまとめてください(各講義に対して60分)。

【事後学修】毎回の講義終了時に出す課題に対して、教科書及び心理学事典等を活用し、義の復習をしてください(各講義に対して60分)。

評価方法および評価の基準

100点満点中、日常点(課題提出・小テスト・授業態度・発表など)40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とし、60点以上を合格とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

- (1) 障害について理解する。参加度10%・期末テスト20%
- (2) 各障害の診断基準及び心理学的特徴について理解する。参加度10%・期末テスト20%
- (3) 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援に関して理解する。参加度20%・期末テスト20%

【フィードバック】 毎授業の最初に前回授業における質疑に返答し、学習理解が深められるようにします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】伊藤恵子著(2015)『教育・保育・子育て支援のための発達臨床心理学』文化書房博文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで学んできた知識や技能を実際の支援に、どのように生かすかを考えながら、受講してください。
期末テストが60点未満の場合でも、再試験は実施しません。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ、綿井 雅康、伊藤 恵子、永作 稔		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科専門科目「研究法・実習科目」領域に配置された必修科目である。各学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その理解を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互による学びを深める。心理学の専門性を主体的に高めていく演習形式による学修の導入科目に相当する。したがって、演習という学修方法それ自体を修得することも目標の一つである。

科目の概要

1年次の学科専門科目で学修した事項をもとに、心理学の主要領域（発達・臨床・教育・人格・社会等）を扱った専門書の講読を行う。各学生が、個別の概念・理論・研究事例をテーマを取り上げ、より具体的かつ詳細に理解し、それらの説明・報告と受講生間での質疑応答から、心理学的な思考力や判断力の形成に資する知識や態度の形成を目指す。

対象学年の受講生は4班に分かれ、各班ごとに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学の領域は若干異なるが、授業時の進め方は基本的には同一である。

授業の方法（ALを含む）

発表を担当する学生が、予め講読したテーマについて、予め作成した要約資料を配布および視覚提示しながら、説明し報告する。受講者は説明・報告内容について質疑応答を行い、全員で討論を行う。必要に応じて、担当教員が補足解説を行うことがある。【プレゼンテーション・図解】

到達目標

到達目標1.心理学的な知見に興味をもち主体的に調べようとする態度を備える

到達目標2.心理学的な知見を客観的かつ論理的に表現することができる

到達目標3.心理学的知見を具体的な心の動きや行動の特徴に結びつけて説明できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：基本的理論・概念の理解、
- 1：興味関心主体的な姿勢、
- 2：知識・理解を活用する意欲

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ

D. 日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

1回 既に学修した心理学的知見のうち、興味・関心のある領域やテーマを明確にしておく [20分]

2回～14回 報告担当前は、担当箇所の精読と他資料の参照を踏まえ、テーマに対する主体的・具体的な理解を形成し、聞き手の知識形成という視点から配布・提示資料を作成しつつ口頭報告の準備を行う [120分]。それ以外の授業回においては、報告テーマについて、自らの体験や興味関心を具体的に喚起しておくこと [20分]。

15回 本科目での学修を振り返り、獲得した知識や考え方を確認しておく [90分]。

【事後学修】

2～14回 授業内で扱われたテーマに関して、人々の心の動きや行動の特徴に適用し、説明し分析することを試みる。また必要に応じて学修内容をまとめる [40分]。

15回 本科目で学び得たものを振り返る [20分]。

評価方法および評価の基準

報告課題への取り組み(60%)、毎回の課題への取り組み(20%)、まとめの課題(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 報告課題(30% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 2 . 報告課題(20% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 3 . 報告課題(10% / 60%)、毎回課題(10% / 20%)、まとめ課題(10% / 20%)

【フィードバック】報告課題については授業内でコメントする。その他の課題については、以降の授業内でコメントを返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ、永作 稔、綿井 雅康、伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科専門科目「研究法・実習科目」領域に配置された必修科目である。各学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その理解を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互による学びを深める。心理学の専門性を主体的に高めていく演習形式による学修の導入科目に相当する。したがって、演習という学修方法それ自体を修得することも目標の一つである。

科目の概要

1年次の学科専門科目で学修した事項をもとに、心理学の主要領域（発達・臨床・教育・人格・社会等）を扱った専門書の講読を行う。各学生が、個別の概念・理論・研究事例をテーマを取り上げ、より具体的かつ詳細に理解し、それらの説明・報告と受講生間での質疑応答から、心理学的な思考力や判断力の形成に資する知識や態度の形成を目指す。

対象学年の受講生は4班に分かれ、各班ごとに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学の領域は若干異なるが、授業時の進め方は基本的には同一である。

授業の方法（ALを含む）

発表を担当する学生が、予め講読したテーマについて、予め作成した要約資料を配布および視覚提示しながら、説明し報告する。受講者は説明・報告内容について質疑応答を行い、全員で討論を行う。必要に応じて、担当教員が補足解説を行うことがある。【プレゼンテーション・図解】

到達目標

到達目標1.心理学的な知見に興味をもち主体的に調べようとする態度を備える

到達目標2.心理学的な知見を客観的かつ論理的に表現することができる

到達目標3.心理学的知見を具体的な心の動きや行動の特徴に結びつけて説明できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：基本的理論・概念の理解、
- 1：興味関心主体的な姿勢、
- 2：知識・理解を活用する意欲

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ

D. 日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

1回 既に学修した心理学的知見のうち、興味・関心のある領域やテーマを明確にしておく [20分]

2回～14回 報告担当前は、担当箇所の精読と他資料の参照を踏まえ、テーマに対する主体的・具体的な理解を形成し、聞き手の知識形成という視点から配布・提示資料を作成しつつ口頭報告の準備を行う [120分]。それ以外の授業回においては、報告テーマについて、自らの体験や興味関心を具体的に喚起しておくこと [20分]。

15回 本科目での学修を振り返り、獲得した知識や考え方を確認しておく [90分]。

【事後学修】

2～14回 授業内で扱われたテーマに関して、人々の心の動きや行動の特徴に適用し、説明し分析することを試みる。また必要に応じて学修内容をまとめる [40分]。

15回 本科目で学び得たものを振り返る [20分]。

評価方法および評価の基準

報告課題への取り組み(60%)、毎回の課題への取り組み(20%)、まとめの課題(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 報告課題(30% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 2 . 報告課題(20% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 3 . 報告課題(10% / 60%)、毎回課題(10% / 20%)、まとめ課題(10% / 20%)

【フィードバック】報告課題については授業内でコメントする。その他の課題については、以降の授業内でコメントを返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ、伊藤 恵子、綿井 雅康、永作 稔		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科専門科目「研究法・実習科目」領域に配置された必修科目である。各学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その理解を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互による学びを深める。心理学の専門性を主体的に高めていく演習形式による学修の導入科目に相当する。したがって、演習という学修方法それ自体を修得することも目標の一つである。

科目の概要

1年次の学科専門科目で学修した事項をもとに、心理学の主要領域（発達・臨床・教育・人格・社会等）を扱った専門書の講読を行う。各学生が、個別の概念・理論・研究事例をテーマを取り上げ、より具体的かつ詳細に理解し、それらの説明・報告と受講生間での質疑応答から、心理学的な思考力や判断力の形成に資する知識や態度の形成を目指す。

対象学年の受講生は4班に分かれ、各班ごとに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学の領域は若干異なるが、授業時の進め方は基本的には同一である。

授業の方法（ALを含む）

発表を担当する学生が、予め講読したテーマについて、予め作成した要約資料を配布および視覚提示しながら、説明し報告する。受講者は説明・報告内容について質疑応答を行い、全員で討論を行う。必要に応じて、担当教員が補足解説を行うことがある。【プレゼンテーション・図解】

到達目標

到達目標1.心理学的な知見に興味をもち主体的に調べようとする態度を備える

到達目標2.心理学的な知見を客観的かつ論理的に表現することができる

到達目標3.心理学的知見を具体的な心の動きや行動の特徴に結びつけて説明できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：基本的理論・概念の理解、
- 1：興味関心主体的な姿勢、
- 2：知識・理解を活用する意欲

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ

D. 日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

1回 既に学修した心理学的知見のうち、興味・関心のある領域やテーマを明確にしておく [20分]

2回～14回 報告担当前は、担当箇所の精読と他資料の参照を踏まえ、テーマに対する主体的・具体的な理解を形成し、聞き手の知識形成という視点から配布・提示資料を作成しつつ口頭報告の準備を行う [120分]。それ以外の授業回においては、報告テーマについて、自らの体験や興味関心を具体的に喚起しておくこと [20分]。

15回 本科目での学修を振り返り、獲得した知識や考え方を確認しておく [90分]。

【事後学修】

2～14回 授業内で扱われたテーマに関して、人々の心の動きや行動の特徴に適用し、説明し分析することを試みる。また必要に応じて学修内容をまとめる [40分]。

15回 本科目で学び得たものを振り返る [20分]。

評価方法および評価の基準

報告課題への取り組み(60%)、毎回の課題への取り組み(20%)、まとめの課題(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 報告課題(30% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 2 . 報告課題(20% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 3 . 報告課題(10% / 60%)、毎回課題(10% / 20%)、まとめ課題(10% / 20%)

【フィードバック】報告課題については授業内でコメントする。その他の課題については、以降の授業内でコメントを返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ、綿井 雅康、伊藤 恵子、永作 稔		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科専門科目「研究法・実習科目」領域に配置された必修科目である。各学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その理解を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互による学びを深める。心理学の専門性を主体的に高めていく演習形式による学修の導入科目に相当する。したがって、演習という学修方法それ自体を修得することも目標の一つである。

科目の概要

1年次の学科専門科目で学修した事項をもとに、心理学の主要領域（発達・臨床・教育・人格・社会等）を扱った専門書の講読を行う。各学生が、個別の概念・理論・研究事例をテーマを取り上げ、より具体的かつ詳細に理解し、それらの説明・報告と受講生間での質疑応答から、心理学的な思考力や判断力の形成に資する知識や態度の形成を目指す。

対象学年の受講生は4班に分かれ、各班ごとに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学の領域は若干異なるが、授業時の進め方は基本的には同一である。

授業の方法（ALを含む）

発表を担当する学生が、予め講読したテーマについて、予め作成した要約資料を配布および視覚提示しながら、説明し報告する。受講者は説明・報告内容について質疑応答を行い、全員で討論を行う。必要に応じて、担当教員が補足解説を行うことがある。【プレゼンテーション・図解】

到達目標

到達目標1.心理学的な知見に興味をもち主体的に調べようとする態度を備える

到達目標2.心理学的な知見を客観的かつ論理的に表現することができる

到達目標3.心理学的知見を具体的な心の動きや行動の特徴に結びつけて説明できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：基本的理論・概念の理解、
- 1：興味関心主体的な姿勢、
- 2：知識・理解を活用する意欲

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ

D. 日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

1回 既に学修した心理学的知見のうち、興味・関心のある領域やテーマを明確にしておく [20分]

2回～14回 報告担当前は、担当箇所の精読と他資料の参照を踏まえ、テーマに対する主体的・具体的な理解を形成し、聞き手の知識形成という視点から配布・提示資料を作成しつつ口頭報告の準備を行う [120分]。それ以外の授業回においては、報告テーマについて、自らの体験や興味関心を具体的に喚起しておくこと [20分]。

15回 本科目での学修を振り返り、獲得した知識や考え方を確認しておく [90分]。

【事後学修】

2～14回 授業内で扱われたテーマに関して、人々の心の動きや行動の特徴に適用し、説明し分析することを試みる。また必要に応じて学修内容をまとめる [40分]。

15回 本科目で学び得たものを振り返る [20分]。

評価方法および評価の基準

報告課題への取り組み(60%)、毎回の課題への取り組み(20%)、まとめの課題(20%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 報告課題(30% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 2 . 報告課題(20% / 60%)、毎回課題(5% / 20%)、まとめ課題(5% / 20%)

到達目標 3 . 報告課題(10% / 60%)、毎回課題(10% / 20%)、まとめ課題(10% / 20%)

【フィードバック】報告課題については授業内でコメントする。その他の課題については、以降の授業内でコメントを返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間発達演習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法 (ALを含む)

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法 (ALを含む)

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc321		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、これまでの学科の専門科目の学びを活かしながら、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

授業の方法 (ALを含む)

ゼミナール形式の授業であり、口頭発表、グループディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。【討論・討議】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めることができる
2. 取り上げた課題の解決に向けた研究方法を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・論理的解釈 -3客観的・科学的な解釈 -2知識・理解を活用する意欲

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【註：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員の指示する学習内容について積極的に文献、図書等で調べてくること(各授業に対して60分)

【事後学修】レジュメの発表、ゼミでの討論を踏まえ、卒業研究の計画を立案し、準備を進めること(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業内での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)(70%)および研究レポートの内容(30%)に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

1. 授業内での学習活動(40/70) 研究レポート(15/30)
2. 授業内での学習活動(20/70) 研究レポート(15/30)

【フィードバック】 口頭発表、研究実習、グループワーク等、学生の学習活動に対して、教員が適宜評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的な参加が望まれる。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc222		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の選択専門科目であり、人間発達心理学科の学位授与方針1に該当する。発達心理学や臨床心理学の基礎を理解したうえで心理学に関する英語文献を精読する必要があるので、「発達心理学概論」「臨床心理学概論」などの科目を履修済であることがもとめられる。

科目の内容

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を知ることができる。

授業の方法 (ALを含む)

毎回指定された箇所の英文を受講生がレジюмеにまとめてきて発表し、内容の理解を共有し、討論を行う。初回はオリエンテーションであり、どのような英文を読むか紹介し、短い文章を和訳する。第二回は教員がレジюмеを作成し発表する。第三～十四までレジюме作成発表を行う。第十五回にまとめを行う。【プレゼンテーション】【討論・討議】

到達目標

1. 英語文献の要点を読みとることができる。
2. 英語文献の内容を理解し、文章で説明することができる。
3. 英語文献を読むことを通し、様々な文化の中での発達の様子、諸外国における心理学研究の動向に対して関心を持って知り、内容について討論することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解
- 1実証的・科学的思考
- 1興味・関心、主体的な姿勢

内容

15回の授業を通して、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。文献は担当者が用意する。

- ・発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。
- ・臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

授業は受講者が毎回指定箇所の内容をレジюмеにして発表することを中心とした演習形式の授業である。教員は受講者の発表にその場でフィードバックをし、全員で英語文献を読み進めることを通じて理解を深めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】当該箇所を事前に訳し、レジюмеにまとめてくる。（各授業に対して90分）

【事後学修】授業内での発表に対する教員のコメントを確認し、レジюмеの加筆・修正を行う。また、専門用語の定訳を整理しノートにまとめる。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

毎回のレジюме作成・発表（50%）、期末試験（50%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

到達目標 毎回のレジюме作成・発表（20/50）期末試験（35/50）

到達目標 毎回のレジюме作成・発表（20/50）期末試験（10/50）

到達目標 毎回のレジюме作成・発表（10/50）期末試験（5/50）

授業内でレジюме・発表の内容について講評を行う。期末試験は採点して個別に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。M.Cole「the development of children」, 「Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology」などから抜粋して読む予定。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

受講生が自身で英文を読む授業なので、積極的な参加が必要です。また、大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生には受講をすすめます。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

心理学には普段の生活で感じる「心についての疑問」を、系統だてて調べる方法が確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説・実習し、受講生が多様な研究法を遂行できることを目標とする。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について解説する。

主に卒業研究を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて仮説をたて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

授業の方法（ALを含む）

純粋な講義ではなく、ワークシートに取り組みながら、講義内容について考え、理解を深めていく。

毎回リアクションペーパーの提出を求める。

観察、調査法、実験それぞれでグループワークや討論を盛り込む。

また調査法では、選択した構成概念についての尺度を作成する。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【PBL】

到達目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

自らが抱く「心についての疑問」を見つけ、それに答えを得るための相応しい方法を選択できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2実証的研究方法の理解、
- 1実証的・科学的思考、
- 2知識・理解を活用する意欲

内容

講義を中心とするが。随時、課題を設け、個人・集団で取り組みながら学びを深める。

12回までの講義では、毎回【リアクションペーパー】を課す。

なお、リアクションペーパーでは、講義内容に即した課題への回答を求める【PBL】。

予定講義内容

- 1：イントロダクション。心は構成概念。因果関係と相関関係
- 2：心理学の歴史。哲学から精神物理学，近代心理学まで
- 3：質的研究その1。観察，面接，フィールドワークの概要
- 4：質的研究その2。時間見本法の実践【グループワーク】
- 5：質問紙調査その1。長所と短所。妥当性【討議・討論】
- 6：質問紙調査その2。回答法の選択。尺度の4水準。信頼性
- 7：質問紙調査その3。測定誤差を減らす。質問項目の吟味【討議・討論】
- 8：質問紙調査その4。質問紙データの解析。妥当性と信頼性の検討
- 9：心理学実験その1。独立変数と従属変数。参加者内/間比較
- 10：心理学実験その2。要因と水準。統制条件。Fittsの法則実験の実習【グループワーク】
- 11：心理学実験その3。統計検定。帰無仮説とタイプ1・2エラー
- 12：心理学実験その4。数字から言葉の世界へ。統計解析の考察
- 13：振り返り1。仮説をたてる。仮説に見合った研究法の選択
- 14：振り返り2。仮説に見合った観察・調査・実験の詳細な計画
- 15：まとめ。構成概念である心の測定は可能なのか？

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを予め配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく [各授業について15分各授業について15分]。

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を文章としてまとめる練習をする [各授業について15分]。

評価方法および評価の基準

毎回の授業でエッセイの提出を求める。到達目標について、主にエッセイで評価する。筆記試験にも1問、疑問を見つけ、それに接近するための方法選択についての問題を設ける。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、総合評価合計で60%以上を合格とする。【フィードバック】エッセイにはコメントを付け、次回の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

合格点に満たない場合、再試験を行うことがある。

科目名	心理学研究法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc223		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

心理学には普段の生活で感じる「心についての疑問」を、系統だてて調べる方法が確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説・実習し、受講生が多様な研究法を遂行できることを目標とする。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について解説する。

主に卒業研究を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて仮説をたて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

授業の方法（ALを含む）

純粋な講義ではなく、ワークシートに取り組みながら、講義内容について考え、理解を深めていく。

毎回リアクションペーパーの提出を求める。

観察、調査法、実験それぞれでグループワークや討論を盛り込む。

また調査法では、選択した構成概念についての尺度を作成する。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【PBL】

到達目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

自らが抱く「心についての疑問」を見つけ、それに答えを得るための相応しい方法を選択できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2実証的研究方法の理解、
- 1実証的・科学的思考、
- 2知識・理解を活用する意欲

内容

講義を中心とするが。随時、課題を設け、個人・集団で取り組みながら学びを深める。

12回までの講義では、毎回【リアクションペーパー】を課す。

なお、リアクションペーパーでは、講義内容に即した課題への回答を求める【PBL】。

予定講義内容

- 1：イントロダクション。心は構成概念。因果関係と相関関係
- 2：心理学の歴史。哲学から精神物理学，近代心理学まで
- 3：質的研究その1。観察，面接，フィールドワークの概要
- 4：質的研究その2。時間見本法の実践【グループワーク】
- 5：質問紙調査その1。長所と短所。妥当性【討議・討論】
- 6：質問紙調査その2。回答法の選択。尺度の4水準。信頼性
- 7：質問紙調査その3。測定誤差を減らす。質問項目の吟味【討議・討論】
- 8：質問紙調査その4。質問紙データの解析。妥当性と信頼性の検討
- 9：心理学実験その1。独立変数と従属変数。参加者内/間比較
- 10：心理学実験その2。要因と水準。統制条件。Fittsの法則実験の実習【グループワーク】
- 11：心理学実験その3。統計検定。帰無仮説とタイプ1・2エラー
- 12：心理学実験その4。数字から言葉の世界へ。統計解析の考察
- 13：振り返り1。仮説をたてる。仮説に見合った研究法の選択
- 14：振り返り2。仮説に見合った観察・調査・実験の詳細な計画
- 15：まとめ。構成概念である心の測定は可能なのか？

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを予め配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく [各授業について15分各授業について15分]。

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を文章としてまとめる練習をする [各授業について15分]。

評価方法および評価の基準

毎回の授業でエッセイの提出を求める。到達目標について、主にエッセイで評価する。筆記試験にも1問、疑問を見つけ、それに接近するための方法選択についての問題を設ける。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、総合評価合計で60%以上を合格とする。【フィードバック】エッセイにはコメントを付け、次回の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で、随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

合格点に満たない場合、再試験を行うことがある。

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc428		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の研究法・実習科目の中の選択科目であり、統計解析専用ソフトSPSSを使って、データ解析の考え方と方法を理解し、実践的な知識と技能を学習する。履修にあたり、統計の基礎知識がもとめられるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

科目の概要

統計解析ソフトSPSSの使い方、実験や調査で収集されたデータの集計・解析方法を学習する。2検定、t検定、相関係数、一要因分散分析の他、心理尺度の処理、信頼性の検討などの方法を取り上げる。また統計解析専門ソフトの特性を活かしたより複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。

授業の方法 (ALを含む)

統計的な分析方法とSPSSの操作方法について解説をした後に、練習問題を使った実習に受講生自身が取り組み、分析スキルの習得を目指す。なお、PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

【実技】【ミニテスト】【レポート(知識)】

到達目標

1. SPSSを操作して基本的な統計解析を実行することができる
2. SPSSで出力された分析結果を的確に読み取り、解釈することができる
3. データの性質や分析の目的に応じた適切な分析方法を選択することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2実証的研究方法の理解
- 1実証的・科学的思考
- 3客観的・科学的解釈

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいか

して実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作【実技】
- (2) データファイルの作成とエクセルデータの読み込み【実技】
- (3) データの整理・要約（平均値と標準偏差）【実技】
- (4) 質的データの集計（単純集計・クロス集計）【実技】
- (5) 新しい変数の生成【実技】
- (6) 統計的検定：質的データの検定（ χ^2 検定）【実技】
- (7) 2つの平均値の差の検定（t検定）【実技】
- (8) 相関係数【実技】
- (9) 分散分析【実技】
- (10) まとめ【実技】【ミニテスト】
- (11) 心理尺度の処理：逆転項目の処理と尺度得点の算出【実技】
- (12) 心理尺度の処理：実践課題【実技】
- (13) 多変量解析（因子分析）【実技】
- (14) 多変量解析（因子分析）【実技】
- (15) まとめ【実技】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストを使って調べ予習をしてくる。（60分）
- 【事後学修】授業で実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。（60分）

評価方法および評価の基準

期末レポート50点（到達目標1～3を評価する）、中間テスト30点（到達目標1～3を評価する）、授業内の課題10点（到達目標1を評価する）、平常点10点（到達目標1～3を評価する）により評価を行う。60点以上を合格とする。

【フィードバック】中間テスト、授業内の課題は添削の上返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】使用しない。資料を配布する。
- 【参考図書】小塩真司（2018）.「SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析」第3版 東京図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	データ解析法		
担当教員名	中江 須美子		
ナンバリング	KAc428		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の研究法・実習科目の中の選択科目であり、統計解析専用ソフトSPSSを使ってデータ解析の考え方と方法を理解し、実践的な知識と技能を習得する。履修にあたり、統計の基礎知識がもとめられるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

科目の概要

統計解析ソフトSPSSの使い方、実践や調査で収集されたデータの集計・解析方法を学習する。X²検定、t検定、相関係数、一要因分散分析の他、心理尺度の処理、信頼性の検討などの方法を探り上げる。また、統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。

授業の方法 (ALを含む)

統計的な分析方法とSPSSの操作方法について解説をした後に、練習問題を使った実習に受講生自身が取り組み、分析スキルの習得を目指す。なお、PC自習室を利用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。【実技】【ミニテスト】【レポート(知識)】

到達目標

1. SPSSを操作して、基本的な統計解析を実行することができる
2. SPSSで出力された分析結果を的確に読み取り、解釈することができる。
3. データの性質や分析の目的に応じた適切な分析方法を選択することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2実証的研究方法の理解
- 1実証的・科学的思考
- 3客観的・科学的解釈

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいか

して実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作【実技】
- (2) データファイルの作成とエクセルデータの読み込み【実技】
- (3) データの整理・要約（平均値と標準偏差）【実技】
- (4) 質的データの集計（単純集計・クロス集計）【実技】
- (5) 新しい変数の生成【実技】
- (6) 統計的検定：質的データの検定（ χ^2 検定）【実技】
- (7) 2つの平均値の差の検定（t検定）【実技】
- (8) 相関係数【実技】
- (9) 分散分析【実技】
- (10) まとめ【実技】【ミニテスト】
- (11) 心理尺度の処理：逆転項目の処理と尺度得点の算出【実技】
- (12) 心理尺度の処理：実践課題【実技】
- (13) 多変量解析（因子分析）【実技】
- (14) 多変量解析（因子分析）【実技】
- (15) まとめ【実技】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業でとりあげる統計手法に関して、心理統計法のテキストなどを使って調べ予習をしてくる。（各授業に対して60分）

【事後学修】実習した統計手法について課題を出すので、それを行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

期末レポート50点（到達目標1～3を評価する）、中間テスト30点（到達目標1～3を評価する）、授業内の課題10点（到達目標1を評価する）、平常点10点（到達目標1～3を評価する）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】中間テスト、授業内の課題は添削の上返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。資料を配布する。

【参考図書】小塩真司（2018）「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」第3版 東京図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理学実験演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc329		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

日本陸上競技連盟で行った小学生の長距離走のランクづけに用いた近似の手法を実験データに応用する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

知りたいことを明確に定め、心理学実験に落とし込む手法を実習する。

具体的には仮説の設定から、実験計画とその遂行、データの解析と解釈を通じて、実験により「心」を理解する手続きを体得する。

科目の概要

5週を単位に3種類の実験を行う。

それぞれについて仮説をたて、データを取り、統計解析してデータを読み取り、考察までをレポートにまとめる。

授業の方法 (ALを含む)

実験を通して知りたいことと仮説を定め、実験計画を確定する。

そして簡単なプログラミングを通じて実験を行い、データを得る。

得られたデータを統計解析し、「何が分かったのか」を深く考察し、報告書にまとめる。

【討議・討論】【PBL】【レポート(表現)】

到達目標

- 仮説づくりから始まる「心理学実験」の手法を体得する
- データを解析し、それを読み取る力を身につける
- 知りたいことに見合った実験をデザインする力を養う
- 分かったことと分からなかったことを客観的に報告する力を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2実証的研究方法の理解、
- 3客観的・科学的な解釈
- 2知識・理解を活用する意欲

内容

本演習では、自らが実験者および実験参加者となり、体験を通して、心のメカニズムを考えます。

受講者および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは変更になることがあります。

- 01．心理学実験について ガイダンス
- 02．視知覚に関する実験：解説【PBL】
- 03．視知覚に関する実験：測定
- 04．視知覚に関する実験：解析【討議・討論】
- 05．注意に関する実験：解説【PBL】
- 06．注意に関する実験：測定
- 07．注意に関する実験：解析【討議・討論】
- 08．視知覚と注意に関する実験のまとめ（グループでの発表）【レポート（表現）】
- 09．デザインと印象評定：解説【PBL】
- 10．デザインと印象評定：測定
- 11．デザインと印象評定：解析【討議・討論】
- 12．記憶に関する実験：解説【PBL】
- 13．記憶に関する実験：測定
- 14．記憶に関する実験：解析【討議・討論】
- 15．印象評定と記憶に関する実験のまとめ（グループでの発表）【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前回実習での要点を復習し、続く実習での展開に備える（約30分）

【事後学修】進度に応じた課題を出すので、自らの力で取り組む（約40分）

評価方法および評価の基準

到達目標について、授業時の小課題でa)とc)を、レポートと口頭発表でb)とd)とを評価する。小課題30点、レポート課題50点、口頭発表20点の計100点で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。授業ごとに配布プリントを用意する。

更なる学びに有用な推薦書は授業時に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	調査法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理心理学科の選択必修科目であり、心理学的な質問紙調査の実施方法を理解し、4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を学修する。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、心理尺度の作成、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれてテキストの講読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】

到達目標

1. 質問紙調査の方法を理解し技法を習得する。
2. 心理尺度の作成を通して、抽象的な心理学的概念の測定について理解する。
3. 質問紙調査研究に基づく論文作成の仕方を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -2実証的研究方法の理解 -3 客観的・科学的な解釈

内容

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

1	ガイダンス
2	質問紙調査法の概要
3	テキスト発表(1)質問紙調査法の特徴【プレゼンテーション】【討議・討論】
4	テキスト発表(2)標本抽出の方法【プレゼンテーション】【討議・討論】
5	テキスト発表(3)心理尺度の作成と信頼性・妥当性【プレゼンテーション】【討議・討論】
6	実習(1)研究テーマの検討【グループワーク】【討議・討論】【実技】
7	実習(2)研究仮説の設定【グループワーク】【討議・討論】【実技】
8	実習(3)質問項目の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
9	実習(4)心理尺度の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
10	実習(5)心理尺度の完成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
11	実習(6)調査用紙の完成・印刷【グループワーク】【討議・討論】【実技】
12	実習(7)調査実施～実施後の処理・データファイルの作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
13	実習(8)データ分析 項目分析・心理尺度の得点化【グループワーク】【討議・討論】【実技】
14	実習(9)データ分析 尺度の妥当性の検討・仮説の検証【グループワーク】【討議・討論】【実技】
15	実習(10)データ分析 結果のまとめ レポート作成ガイダンス【グループワーク】【討議・討論】【実技】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)

【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

最終レポート60%(到達目標1～3を評価する)+授業への参加状況40%(到達目標1と2を評価する)で評価し、60点以上を合格とする。

実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

科目名	調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理心理学科の選択必修科目であり、心理学的な質問紙調査の実施方法を理解し、4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を学修する。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、心理尺度の作成、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれてテキストの講読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】

到達目標

1. 質問紙調査の方法を理解し技法を習得する。
2. 心理尺度の作成を通して、抽象的な心理学的概念の測定について理解する。
3. 質問紙調査研究に基づく論文作成の仕方を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -2実証的研究方法の理解 -3 客観的・科学的な解釈

内容

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

1	ガイダンス
2	質問紙調査法の概要
3	テキスト発表(1)質問紙調査法の特徴【プレゼンテーション】【討議・討論】
4	テキスト発表(2)標本抽出の方法【プレゼンテーション】【討議・討論】
5	テキスト発表(3)心理尺度の作成と信頼性・妥当性【プレゼンテーション】【討議・討論】
6	実習(1)研究テーマの検討【グループワーク】【討議・討論】【実技】
7	実習(2)研究仮説の設定【グループワーク】【討議・討論】【実技】
8	実習(3)質問項目の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
9	実習(4)心理尺度の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
10	実習(5)心理尺度の完成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
11	実習(6)調査用紙の完成・印刷【グループワーク】【討議・討論】【実技】
12	実習(7)調査実施～実施後の処理・データファイルの作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
13	実習(8)データ分析 項目分析・心理尺度の得点化【グループワーク】【討議・討論】【実技】
14	実習(9)データ分析 尺度の妥当性の検討・仮説の検証【グループワーク】【討議・討論】【実技】
15	実習(10)データ分析 結果のまとめ レポート作成ガイダンス【グループワーク】【討議・討論】【実技】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)

【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

最終レポート60%(到達目標1～3を評価する)+授業への参加状況40%(到達目標1と2を評価する)で評価し、60点以上を合格とする。

実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

科目名	調査法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理心理学科の選択必修科目であり、心理学的な質問紙調査の実施方法を理解し、4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を学修する。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、心理尺度の作成、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれてテキストの講読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】

到達目標

1. 質問紙調査の方法を理解し技法を習得する。
2. 心理尺度の作成を通して、抽象的な心理学的概念の測定について理解する。
3. 質問紙調査研究に基づく論文作成の仕方を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -2実証的研究方法の理解 -3 客観的・科学的な解釈

内容

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

1	ガイダンス
2	質問紙調査法の概要
3	テキスト発表(1)質問紙調査法の特徴【プレゼンテーション】【討議・討論】
4	テキスト発表(2)標本抽出の方法【プレゼンテーション】【討議・討論】
5	テキスト発表(3)心理尺度の作成と信頼性・妥当性【プレゼンテーション】【討議・討論】
6	実習(1)研究テーマの検討【グループワーク】【討議・討論】【実技】
7	実習(2)研究仮説の設定【グループワーク】【討議・討論】【実技】
8	実習(3)質問項目の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
9	実習(4)心理尺度の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
10	実習(5)心理尺度の完成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
11	実習(6)調査用紙の完成・印刷【グループワーク】【討議・討論】【実技】
12	実習(7)調査実施～実施後の処理・データファイルの作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
13	実習(8)データ分析 項目分析・心理尺度の得点化【グループワーク】【討議・討論】【実技】
14	実習(9)データ分析 尺度の妥当性の検討・仮説の検証【グループワーク】【討議・討論】【実技】
15	実習(10)データ分析 結果のまとめ レポート作成ガイダンス【グループワーク】【討議・討論】【実技】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)

【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

最終レポート60%(到達目標1～3を評価する)+授業への参加状況40%(到達目標1と2を評価する)で評価し、60点以上を合格とする。

実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

科目名	調査法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理心理学科の選択必修科目であり、心理学的な質問紙調査の実施方法を理解し、4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を学修する。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、心理尺度の作成、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれてテキストの講読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】

到達目標

1. 質問紙調査の方法を理解し技法を習得する。
2. 心理尺度の作成を通して、抽象的な心理学的概念の測定について理解する。
3. 質問紙調査研究に基づく論文作成の仕方を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -2実証的研究方法の理解 -3 客観的・科学的な解釈

内容

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

1	ガイダンス
2	質問紙調査法の概要
3	テキスト発表(1)質問紙調査法の特徴【プレゼンテーション】【討議・討論】
4	テキスト発表(2)標本抽出の方法【プレゼンテーション】【討議・討論】
5	テキスト発表(3)心理尺度の作成と信頼性・妥当性【プレゼンテーション】【討議・討論】
6	実習(1)研究テーマの検討【グループワーク】【討議・討論】【実技】
7	実習(2)研究仮説の設定【グループワーク】【討議・討論】【実技】
8	実習(3)質問項目の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
9	実習(4)心理尺度の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
10	実習(5)心理尺度の完成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
11	実習(6)調査用紙の完成・印刷【グループワーク】【討議・討論】【実技】
12	実習(7)調査実施～実施後の処理・データファイルの作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
13	実習(8)データ分析 項目分析・心理尺度の得点化【グループワーク】【討議・討論】【実技】
14	実習(9)データ分析 尺度の妥当性の検討・仮説の検証【グループワーク】【討議・討論】【実技】
15	実習(10)データ分析 結果のまとめ レポート作成ガイダンス【グループワーク】【討議・討論】【実技】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)

【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

最終レポート60%(到達目標1～3を評価する)+授業への参加状況40%(到達目標1と2を評価する)で評価し、60点以上を合格とする。

実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

科目名	調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理心理学科の選択必修科目であり、心理学的な質問紙調査の実施方法を理解し、4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を学修する。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、心理尺度の作成、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれてテキストの講読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】

到達目標

1. 質問紙調査の方法を理解し技法を習得する。
2. 心理尺度の作成を通して、抽象的な心理学的概念の測定について理解する。
3. 質問紙調査研究に基づく論文作成の仕方を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -2実証的研究方法の理解 -3 客観的・科学的な解釈

内容

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

1	ガイダンス
2	質問紙調査法の概要
3	テキスト発表(1)質問紙調査法の特徴【プレゼンテーション】【討議・討論】
4	テキスト発表(2)標本抽出の方法【プレゼンテーション】【討議・討論】
5	テキスト発表(3)心理尺度の作成と信頼性・妥当性【プレゼンテーション】【討議・討論】
6	実習(1)研究テーマの検討【グループワーク】【討議・討論】【実技】
7	実習(2)研究仮説の設定【グループワーク】【討議・討論】【実技】
8	実習(3)質問項目の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
9	実習(4)心理尺度の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
10	実習(5)心理尺度の完成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
11	実習(6)調査用紙の完成・印刷【グループワーク】【討議・討論】【実技】
12	実習(7)調査実施～実施後の処理・データファイルの作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
13	実習(8)データ分析 項目分析・心理尺度の得点化【グループワーク】【討議・討論】【実技】
14	実習(9)データ分析 尺度の妥当性の検討・仮説の検証【グループワーク】【討議・討論】【実技】
15	実習(10)データ分析 結果のまとめ レポート作成ガイダンス【グループワーク】【討議・討論】【実技】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)

【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

最終レポート60%(到達目標1～3を評価する)+授業への参加状況40%(到達目標1と2を評価する)で評価し、60点以上を合格とする。

実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

科目名	調査法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc330		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理心理学科の選択必修科目であり、心理学的な質問紙調査の実施方法を理解し、4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を学修する。

科目の概要

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習では、小グループに分かれて、調査テーマの設定、心理尺度の作成、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、その習得を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに基づく演習と心理尺度を含む調査用紙作成の実習を並行して行なう。小グループに分かれてテキストの講読発表をした後、グループごとに調査テーマを設定し、それを測定する尺度項目、調査用紙を作成の上、実際に調査を実施し、得られたデータを分析する。【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】

到達目標

1. 質問紙調査の方法を理解し技法を習得する。
2. 心理尺度の作成を通して、抽象的な心理学的概念の測定について理解する。
3. 質問紙調査研究に基づく論文作成の仕方を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -2実証的研究方法の理解 -3 客観的・科学的な解釈

内容

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

1	ガイダンス
2	質問紙調査法の概要
3	テキスト発表(1)質問紙調査法の特徴【プレゼンテーション】【討議・討論】
4	テキスト発表(2)標本抽出の方法【プレゼンテーション】【討議・討論】
5	テキスト発表(3)心理尺度の作成と信頼性・妥当性【プレゼンテーション】【討議・討論】
6	実習(1)研究テーマの検討【グループワーク】【討議・討論】【実技】
7	実習(2)研究仮説の設定【グループワーク】【討議・討論】【実技】
8	実習(3)質問項目の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
9	実習(4)心理尺度の作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
10	実習(5)心理尺度の完成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
11	実習(6)調査用紙の完成・印刷【グループワーク】【討議・討論】【実技】
12	実習(7)調査実施～実施後の処理・データファイルの作成【グループワーク】【討議・討論】【実技】
13	実習(8)データ分析 項目分析・心理尺度の得点化【グループワーク】【討議・討論】【実技】
14	実習(9)データ分析 尺度の妥当性の検討・仮説の検証【グループワーク】【討議・討論】【実技】
15	実習(10)データ分析 結果のまとめ レポート作成ガイダンス【グループワーク】【討議・討論】【実技】【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】WordやExcel等の基本的な操作方法の確認を行なうこと。基本的に、統計的処理の基本は理解しているものとして授業を進めるため、心理統計法のテキストなどを復習してくること。(60分)

【事後学修】授業内で行なった作業(質問項目の選定、データセット作成等)について、次の授業の際に不足がないよう、授業資料や作成したファイルを振り返り、要点をまとめておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

最終レポート60%(到達目標1～3を評価する)+授業への参加状況40%(到達目標1と2を評価する)で評価し、60点以上を合格とする。

実習を含む授業なので、出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

【フィードバック】調査項目の設定、調査用紙の作成の仕方、データ分析のやり方について授業内で適否をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

* 受講者選考後、購入の方法については授業中に説明する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

科目名	面接法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

プレゼンテーションできる門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

授業の方法 (ALを含む)

調査的面接法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、インタビューの準備・実践・分析・結果発表までを学ぶ。【グループワーク】【実技】【プレゼンテーション】

到達目標

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解できる。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1- 実証的研究方法の理解、2- 客観的・科学的な解釈、3- 知識・理解を活用する意欲

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類【グループワーク】
3	調査的面接法のデザイン【グループワーク】
4	調査的面接に必要な技法【グループワーク】
5	調査的面接の実施手順とガイドライン【グループワーク】
6	面接法におけるデータ整理方法【グループワーク】
7	面接法における倫理的配慮【グループワーク】
8	調査テーマの設定【実技】
9	シナリオの作成、調査準備【実技】
10	面接調査の実施【実技】
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト【実技】
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理【実技】
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証【実技】
14	分析結果の発表【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 参加態度や提出物(10%)、発表内容(20%)

到達目標 2 . 参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

到達目標 3 . 参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

科目名	面接法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

プレゼンテーションできる門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

授業の方法 (ALを含む)

調査的面接法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、インタビューの準備・実践・分析・結果発表までを学ぶ。【グループワーク】【実技】【プレゼンテーション】

到達目標

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解できる。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1- 実証的研究方法の理解、2- 客観的・科学的な解釈、3- 知識・理解を活用する意欲

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類【グループワーク】
3	調査的面接法のデザイン【グループワーク】
4	調査的面接に必要な技法【グループワーク】
5	調査的面接法の実施手順とガイドライン【グループワーク】
6	面接法におけるデータ整理方法【グループワーク】
7	面接法における倫理的配慮【グループワーク】
8	調査テーマの設定【実技】
9	シナリオの作成、調査準備【実技】
10	面接調査の実施【実技】
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト【実技】
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理【実技】
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証【実技】
14	分析結果の発表【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．参加態度や提出物(10%)、発表内容(20%)

到達目標2．参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

到達目標3．参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

科目名	面接法		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

プレゼンテーションできる門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

授業の方法 (ALを含む)

調査的面接法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、インタビューの準備・実践・分析・結果発表までを学ぶ。【グループワーク】【実技】【プレゼンテーション】

到達目標

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解できる。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1- 実証的研究方法の理解、2- 客観的・科学的な解釈、3- 知識・理解を活用する意欲

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類【グループワーク】
3	調査的面接法のデザイン【グループワーク】
4	調査的面接に必要な技法【グループワーク】
5	調査的面接法の実施手順とガイドライン【グループワーク】
6	面接法におけるデータ整理方法【グループワーク】
7	面接法における倫理的配慮【グループワーク】
8	調査テーマの設定【実技】
9	シナリオの作成、調査準備【実技】
10	面接調査の実施【実技】
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト【実技】
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理【実技】
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証【実技】
14	分析結果の発表【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 参加態度や提出物(10%)、発表内容(20%)

到達目標 2 . 参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

到達目標 3 . 参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

科目名	面接法		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAc331		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目における研究法・実習科目の科目である。本科目は心理学的研究法の1つである面接法について、文献や実習体験をもとに理解や知識を身につける。「心理学研究法」「観察法」「実験計画法」「調査法」などと関連がある。

科目の概要

面接法には、臨床的面接法と調査的面接法があり、本科目はとくに後者の調査的面接法 (research interview) を取り上げ、他のデータ収集法と比較して、どのような特性があり、どのような利点と課題をもっているかを学ぶ。面接におけるデータとは、面接者から面接対象者への質問に対する回答およびそれらにかかわる情報のことである。このことを手がかりにして、4年次の卒業研究において各自の研究テーマにおける分析や方法の一つとして繋げていく科目でもある。

授業の方法 (ALを含む)

調査的面接法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、インタビューの準備・実践・分析・結果発表までを学ぶ。【グループワーク】【実技】【プレゼンテーション】

到達目標

面接法 (とくに「調査的面接法」) の持つ特徴や利点、課題について理解できる。

面接法に関する諸技法を理解し身につける。

調査テーマに関して、面接法を用いた研究計画を立案、実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1- 実証的研究方法の理解、2- 客観的・科学的な解釈、3- 知識・理解を活用する意欲

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
---	-----------

2	調査的面接法とはなにか / 調査的面接法の分類【グループワーク】
3	調査的面接法のデザイン【グループワーク】
4	調査的面接に必要な技法【グループワーク】
5	調査的面接の実施手順とガイドライン【グループワーク】
6	面接法におけるデータ整理方法【グループワーク】
7	面接法における倫理的配慮【グループワーク】
8	調査テーマの設定【実技】
9	シナリオの作成、調査準備【実技】
10	面接調査の実施【実技】
11	調査結果の分析(1)トランスクリプト【実技】
12	調査結果の分析(2)概念抽出と整理【実技】
13	調査結果の考察(3)内容分析、仮説の検証【実技】
14	分析結果の発表【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書（テキスト）をもとに、事前に指示した課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】自他の発表をフィードバックし、理解に対する「ふりかえり」を行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中の参加態度や提出物（40%）、発表内容（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 参加態度や提出物(10%)、発表内容(20%)

到達目標 2 . 参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

到達目標 3 . 参加態度や提出物(15%)、発表内容(20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鈴木淳子 調査的面接法の技法【第2版】 ナカニシヤ出版 2002

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

科目名	観察法		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師・言語聴覚士・臨床心理士・臨床発達心理士として、発達・心理相談等の実務経験があります。これらの実務経験から得られた事例に基づき、実際の問題や対応に関して、受講生とともに考えながら、学習を進めていきます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

授業の方法 (ALを含む)

観察法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、ビデオ映像の対人相互作用場面を視聴し、その場面の登場人物の行動の記述・行動の分析を行い、その結果発表までを実施し、観察法の基本を身につけます。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 行動観察の基本を身につけます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことができます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 2 実証的な研究方法の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

1	オリエンテーション
2	観察の基本を学ぶ(1) 【実技】【グループワーク】
3	観察の基本を学ぶ(2) 【実技】【グループワーク】

4	観察の基本を学ぶ(3) 【実技】【グループワーク】
5	映像の行動観察の記述を行う(1) 【実技】【グループワーク】
6	映像の行動観察の記述を行う(2) 【実技】【グループワーク】
7	観察法を用いて、行動の分析を行う(1) 【実技】【グループワーク】
8	観察法を用いて、行動の分析を行う(2) 【実技】【グループワーク】
9	映像の行動観察の記述を行う(3) 【実技】【グループワーク】
10	映像の行動観察の記述を行う(4) 【実技】【グループワーク】
11	観察法を用いて、行動の分析を行う(3) 【実技】【グループワーク】
12	観察法を用いて、行動の分析を行う(4) 【実技】【グループワーク】
13	行動の分析結果の比較を行う 【実技】【グループワーク】
14	分析結果発表 【実技】【グループワーク】
15	まとめ 【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告(レポート)をまとめます(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各実習のレポート(60%)、期末レポート(30%)、平常点(10%)とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

到達目標1: レポート60% 平常点5%

到達目標2: レポート30% 平常点5%

【フィードバック】提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループワークと実技を主とした科目のため、休まず、積極的、主体的に受講してください。

科目名	観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

本科目は、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるようでいて、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

授業の方法 (ALを含む)

観察法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、ビデオ映像の対人相互作用場面を視聴し、その場面の登場人物の行動の記述・行動の分析を行い、その結果発表までを実施し、観察法の基本を身につけます。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 行動観察の基本を身につけます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことができます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 2 実証的な研究方法の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 観察の基本を学ぶ(1) 【実技】【グループワーク】
- 3 観察の基本を学ぶ(2) 【実技】【グループワーク】
- 4 観察の基本を学ぶ(3) 【実技】【グループワーク】
- 5 映像の行動観察の記述を行う(1) 【実技】【グループワーク】
- 6 映像の行動観察の記述を行う(2) 【実技】【グループワーク】

- 7 観察法を用いて、行動の分析を行う(1) 【実技】【グループワーク】
- 8 観察法を用いて、行動の分析を行う(2) 【実技】【グループワーク】
- 9 映像の行動観察の記述を行う(3) 【実技】【グループワーク】
- 10 映像の行動観察の記述を行う(4) 【実技】【グループワーク】
- 11 観察法を用いて、行動の分析を行う(3) 【実技】【グループワーク】
- 12 観察法を用いて、行動の分析を行う(4) 【実技】【グループワーク】
- 13 行動の分析結果の比較を行う 【実技】【グループワーク】
- 14 分析結果発表 【実技】【グループワーク】
- 15 まとめ 【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告(レポート)をまとめます(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各実習のレポート(60%)、期末レポート(30%)、平常点(10%)とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

到達目標1: レポート60% 平常点5%

到達目標2: レポート30% 平常点5%

【フィードバック】提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループワークと実技を主とした科目のため、休まず、積極的、主体的に受講してください。

科目名	観察法		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師・言語聴覚士・臨床心理士・臨床発達心理士として、発達・心理相談等の実務経験があります。これらの実務経験から得られた事例に基づき、実際の問題や対応に関して、受講生とともに考えながら、学習を進めていきます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

授業の方法 (ALを含む)

観察法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、ビデオ映像の対人相互作用場面を視聴し、その場面の登場人物の行動の記述・行動の分析を行い、その結果発表までを実施し、観察法の基本を身につけます。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 行動観察の基本を身につけます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことができます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 2 実証的な研究方法の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 観察の基本を学ぶ(1) 【実技】【グループワーク】
- 3 観察の基本を学ぶ(2) 【実技】【グループワーク】
- 4 観察の基本を学ぶ(3) 【実技】【グループワーク】

- 5 映像の行動観察の記述を行う(1) 【実技】【グループワーク】
- 6 映像の行動観察の記述を行う(2) 【実技】【グループワーク】
- 7 観察法を用いて、行動の分析を行う(1) 【実技】【グループワーク】
- 8 観察法を用いて、行動の分析を行う(2) 【実技】【グループワーク】
- 9 映像の行動観察の記述を行う(3) 【実技】【グループワーク】
- 10 映像の行動観察の記述を行う(4) 【実技】【グループワーク】
- 11 観察法を用いて、行動の分析を行う(3) 【実技】【グループワーク】
- 12 観察法を用いて、行動の分析を行う(4) 【実技】【グループワーク】
- 13 行動の分析結果の比較を行う 【実技】【グループワーク】
- 14 分析結果発表 【実技】【グループワーク】
- 15 まとめ 【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告(レポート)をまとめます(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各実習のレポート(60%)、期末レポート(30%)、平常点(10%)とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

到達目標1: レポート60% 平常点5%

到達目標2: レポート30% 平常点5%

【フィードバック】提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループワークと実技を主とした科目のため、休まず、積極的、主体的に受講してください。

科目名	観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAc332		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、研究法、実習科目における選択必修科目の一つです。4年次の卒業研究で活用可能な研究技法を身につける専門科目です。

科目の概要

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つです。行動観察法は人の行動の意味、人と人との関係、発達の過程その他を知るために、心理学の多くの領域で使われる方法です。人の行動を観察するというのは、誰でもできるようでいて、実はしっかりした訓練がないとうまくできません。この技法の基礎を実習を通して学びます。授業や卒業研究にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指します。

授業の方法 (ALを含む)

観察法に関する知識を深めるとともに、いくつかの小グループに分かれて、ビデオ映像の対人相互作用場面を視聴し、その場面の登場人物の行動の記述・行動の分析を行い、その結果発表までを実施し、観察法の基本を身につけます。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 行動観察の基本を身につけます。
- (2) 観察法を用いて行動の分析を行うことができます。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 2 実証的な研究方法の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 観察の基本を学ぶ(1) 【実技】【グループワーク】
- 3 観察の基本を学ぶ(2) 【実技】【グループワーク】
- 4 観察の基本を学ぶ(3) 【実技】【グループワーク】
- 5 映像の行動観察の記述を行う(1) 【実技】【グループワーク】
- 6 映像の行動観察の記述を行う(2) 【実技】【グループワーク】

- 7 観察法を用いて、行動の分析を行う(1) 【実技】【グループワーク】
- 8 観察法を用いて、行動の分析を行う(2) 【実技】【グループワーク】
- 9 映像の行動観察の記述を行う(3) 【実技】【グループワーク】
- 10 映像の行動観察の記述を行う(4) 【実技】【グループワーク】
- 11 観察法を用いて、行動の分析を行う(3) 【実技】【グループワーク】
- 12 観察法を用いて、行動の分析を行う(4) 【実技】【グループワーク】
- 13 行動の分析結果の比較を行う 【実技】【グループワーク】
- 14 分析結果発表 【実技】【グループワーク】
- 15 まとめ 【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】課題でとりあげる観察手法の概要や手順を心理学事典等及び配布資料等において確認しておいてください(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で配布した資料をもとに、キーワード等を確実に理解し、課題として観察を行った結果を見直して報告(レポート)をまとめます(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各実習のレポート(60%)、期末レポート(30%)、平常点(10%)とし、100点換算で総合評価60点以上を合格とします。

到達目標1: レポート60% 平常点5%

到達目標2: レポート30% 平常点5%

【フィードバック】提出された各実習レポートに対し、毎回フィードバックを行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房
柴山真琴「子どもエスノグラフィー入門」新曜社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

グループワークと実技を主とした科目のため、休まず、積極的、主体的に受講してください。

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床現場での心理検査実践を教授する

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特に人間発達心理学科のディプロマポリシーの「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

毎回、心理検査についての体験を行ってもらい、それを解釈することを実際に行う。それについて学生同士で毎回ディスカッションを行いながら進めていく

到達目標

1. 学生がこころを理解する上での倫理的姿勢を理解できるようにする。
2. 心理検査の実施、結果の解釈の具体的な手続きを習得する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

1. 心理検査法とは何か イン트로ダクション
2. 問題歴インタビュー
3. 生育歴インタビューの方法

- 4 . 生育歴インタビューの解釈
- 5 . 認知症検査
- 6 . 箱庭療法の実際
- 7 . 箱庭療法の解釈
- 8 . 言語連想法の実際
- 9 . 言語連想法の解釈
- 10 . スクイグルゲームの実際
- 11 . スクイグルゲームの解釈
- 12 . 事例研究法の実際
- 13 . 事例研究法の解釈
- 14 . 全体での振り返りとディスカッション
- 15 . 臨床実践と心理検査法の関係

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる（各授業につき60分）

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業末にそれぞれ一人ずつに発言機会を与え、それに教員が応答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床現場での心理検査実践を教授する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特に人間発達心理学科のディプロマポリシーの「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

毎回、心理検査についての体験を行ってもらい、それを解釈することを実際に行う。それについて学生同士で毎回ディスカッションを行いながら進めていく

到達目標

1. 学生がこころを理解する上での倫理的姿勢を理解できるようにする。
2. 心理検査の実施、結果の解釈の具体的な手続きを習得する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

1. 心理検査法とは何か イン트로ダクション
2. 問題歴インタビュー
3. 生育歴インタビューの方法
4. 生育歴インタビューの解釈

- 5 . 認知症検査
- 6 . 箱庭療法の実際
- 7 . 箱庭療法の解釈
- 8 . 言語連想法の実際
- 9 . 言語連想法の解釈
- 10 . スクイグルゲームの実際
- 11 . スクイグルゲームの解釈
- 12 . 事例研究法の実際
- 13 . 事例研究法の解釈
- 14 . 全体での振り返りとディスカッション
- 15 . 臨床実践と心理検査法の関係

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる（各授業につき60分）
- 【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 【フィードバック】各授業末に一人ずつ発言機会を与え、教員が応答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床現場での心理検査実践を教授する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特に人間発達心理学科のディプロマポリシーの「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

毎回、心理検査についての体験を行ってもらい、それを解釈することを実際に行う。それについて学生同士で毎回ディスカッションを行いながら進めていく

到達目標

1. 学生がこころを理解する上での倫理的姿勢を理解できるようにする。
2. 心理検査の実施、結果の解釈の具体的な手続きを習得する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

1. 心理検査法とは何か イン트로ダクション
2. 問題歴インタビュー
3. 生育歴インタビューの方法
4. 生育歴インタビューの解釈

- 5 . 認知症検査
- 6 . 箱庭療法の実際
- 7 . 箱庭療法の解釈
- 8 . 言語連想法の実際
- 9 . 言語連想法の解釈
- 10 . スクイグルゲームの実際
- 11 . スクイグルゲームの解釈
- 12 . 事例研究法の実際
- 13 . 事例研究法の解釈
- 14 . 全体での振り返りとディスカッション
- 15 . 臨床実践と心理検査法の関係

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる（各授業につき60分）

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業末に全員に発言機会をもち、教員が応答する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理検査法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc333		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床現場での心理検査実践を教授する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

「研究法・実習科目」における選択必修科目の一つである。4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を身につけることが目標になる。

「臨床心理学概論」「青年期の心理臨床」と関連が強いため、その両方を履修して単位を取得してから、履修することを強く勧める。特に人間発達心理学科のディプロマポリシーの「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」ことが大きな目標となる。

科目の概要

こころの状態や問題について理解・介入を行うために、情報収集をする方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、倫理的配慮を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

毎回、心理検査についての体験を行ってもらい、それを解釈することを実際に行う。それについて学生同士で毎回ディスカッションを行いながら進めていく

到達目標

1. 学生がこころを理解する上での倫理的姿勢を理解できるようにする。
2. 心理検査の実施、結果の解釈の具体的な手続きを習得する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的・科学的思考

内容

1. 心理検査法とは何か イン트로ダクション
2. 問題歴インタビュー
3. 生育歴インタビューの方法
4. 生育歴インタビューの解釈

- 5 . 認知症検査
- 6 . 箱庭療法の実際
- 7 . 箱庭療法の解釈
- 8 . 言語連想法の実際
- 9 . 言語連想法の解釈
- 10 . スクイグルゲームの実際
- 11 . スクイグルゲームの解釈
- 12 . 事例研究法の実際
- 13 . 事例研究法の解釈
- 14 . 全体での振り返りとディスカッション
- 15 . 臨床実践と心理検査法の関係

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示された心理検査について実際に行ってくる（各授業につき60分）

【事後学修】心理検査についての解釈を行ってくる（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

討論への参加などの日常点を50点、最後のレポートを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業末に学生の発言機会を持ち、教員がそれに応答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	実験計画法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。

科目の概要

- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

授業の方法（ALを含む）

主に、下記の講義・演習（実験への参加・分析、レポート作成等）を通して理解を深める。

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する（実験計画、要因統制、材料と課題の設定）。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。
- ・ALとして「グループワーク」「ディスカッション」を適宜取り入れる。

到達目標

- ・心理学実験の参加者を自ら経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 実証的研究方法の理解
- 3 客観的・科学的な解釈
- 2 知識・理解を活用する意欲

内容

演習形式（実験への参加・分析、グループディスカッション、レポート作成等）を通して理解を深める。

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
4	参加者内1要因実験（2） 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
7	参加者間1要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
8	参加者間1要因実験（2） 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
11	混合2要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
12	混合2要因実験（2） 材料と課題の作成
13	混合2要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
15	まとめ【グループワーク】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み（30分程度）

【事後学修】授業内で行なった学習活動・理解を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認する（30分程度）

評価方法および評価の基準

【評価方法】授業時課題および実験レポート

【評価基準】評価方法において到達目標の配分を下記の通り設定し、総合評価60点以上を合格とする。

- ・心理学実験の参加者を自ら経験することで、実験の基本事項を理解する：25%
- ・仮説検証という考え方を身につける：25%
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ：25%
- ・実験データの解析技能を向上させる：25%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	実験計画法		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。

科目の概要

- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

授業の方法（ALを含む）

主に、下記の講義・演習（実験への参加・分析、レポート作成等）を通して理解を深める。

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する（実験計画、要因統制、材料と課題の設定）。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。
- ・ALとして「グループワーク」「ディスカッション」を適宜取り入れる。

到達目標

- ・心理学実験の参加者を自ら経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 実証的研究方法の理解
- 3 客観的・科学的な解釈
- 2 知識・理解を活用する意欲

内容

演習形式（実験への参加・分析、グループディスカッション、レポート作成等）を通して理解を深める。

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
4	参加者内1要因実験（2） 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
7	参加者間1要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
8	参加者間1要因実験（2） 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
11	混合2要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
12	混合2要因実験（2） 材料と課題の作成
13	混合2要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
15	まとめ【グループワーク】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み（30分程度）

【事後学修】授業内で行なった学習活動・理解を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認する（30分程度）

評価方法および評価の基準

【評価方法】授業時課題および実験レポート

【評価基準】評価方法において到達目標の配分を下記の通り設定し、総合評価60点以上を合格とする。

- ・心理学実験の参加者を自ら経験することで、実験の基本事項を理解する：25%
- ・仮説検証という考え方を身につける：25%
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ：25%
- ・実験データの解析技能を向上させる：25%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	実験計画法		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAc334		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・「研究法・実習科目」における選択必修科目の1つ。
- ・4年次の「卒業研究」で活用可能な研究技能を修得する。

科目の概要

- ・心理学研究法としての「実験」を作成する技法を身につける。
- ・技法の学習にとどまらず、実験デザインの立案について理解する。

授業の方法（ALを含む）

主に、下記の講義・演習（実験への参加・分析、レポート作成等）を通して理解を深める。

- ・履修学生自身が実験参加者となり、心理学実験を体験する。
- ・実験を作成する（実験計画、要因統制、材料と課題の設定）。
- ・実験を実施してデータを収集し、統計解析と考察を行う。
- ・ALとして「グループワーク」「ディスカッション」を適宜取り入れる。

到達目標

- ・心理学実験の参加者を自ら経験することで、実験の基本事項を理解する。
- ・仮説検証という考え方を身につける。
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ。
- ・実験データの解析技能を向上させる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 実証的研究方法の理解
- 3 客観的・科学的な解釈
- 2 知識・理解を活用する意欲

内容

演習形式（実験への参加・分析、グループディスカッション、レポート作成等）を通して理解を深める。

1	実験計画法とは
2	実験における変数・要因の統制
3	参加者内1要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
4	参加者内1要因実験（2） 材料と課題の作成
5	参加者内1要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
6	参加者内1要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
7	参加者間1要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
8	参加者間1要因実験（2） 材料と課題の作成
9	参加者間1要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
10	参加者間1要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
11	混合2要因実験（1） 要因計画の理解と体験【グループワーク】
12	混合2要因実験（2） 材料と課題の作成
13	混合2要因実験（3） 自作実験の実施とデータ集計
14	混合2要因実験（4） データ解析と考察【ディスカッション】
15	まとめ【グループワーク】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】PCソフトの基本操作の確認、統計処理の基本事項の復習、指示された課題への取り組み（30分程度）

【事後学修】授業内で行なった学習活動・理解を振り返り、次の授業の際に不足がないよう確認する（30分程度）

評価方法および評価の基準

【評価方法】授業時課題および実験レポート

【評価基準】評価方法において到達目標の配分を下記の通り設定し、総合評価60点以上を合格とする。

- ・心理学実験の参加者を自ら経験することで、実験の基本事項を理解する：25%
- ・仮説検証という考え方を身につける：25%
- ・要因統制としての実験計画法という視点をもつ：25%
- ・実験データの解析技能を向上させる：25%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	カウニング技法		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAc435		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床現場でのカウニング実践を教授する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「臨床心理学概論」を基礎としたうえで、「カウニング基礎」「カウニング基礎」の応用科目である。特にディプロマポリシー「心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける」を目指す。

科目の概要

実践的な演習を通して、カウニングの技法を習得することをねらいとしている。DVDによる映像教材及びロールプレイを行うことで、カウニング技法を復習する。その後、受講生同士がペアとなり、授業時間以外で試行カウニングを行う。録画したDVDと発話を逐語録にしたものをもとに、クラスでディスカッションを行う。したがって、授業時間外に2, 3時間の事前学習が必須である。

授業の方法 (ALを含む)

毎回ALとして学生が自分のカウニングを録画してきて、それを学生同士で毎回ディスカッションを行う。

到達目標

- ・カウニングの疑似的体験を通して、カウニング技法の理解を目指す。
- ・DVDや逐語録により、自分や他者のカウニング技法を客観的に分析し、改善点を見出す。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 5 客観的・論理的解釈
- 1 実証的科学的思考

内容

各回にそれぞれ学生が発表を行い、それに対して学生全員が発言を行い理解を深めていく。教員が最後にそれらを総括する。

1. イントロダクション 授業の説明
2. カウンセリング技法 - 聴く
3. カウンセリング技法 - 訊く
4. カウンセリング技法 - 考える
5. 試行カウンセリングの実践と討議 虐待ケース
6. 試行カウンセリングの実践と討議 スクールカウンセリングケース
7. 試行カウンセリングの実践と討議 医療機関ケース
8. 試行カウンセリングの実践と討議 福祉機関ケース
9. 試行カウンセリングの実践と討議 開業臨床ケース
10. 試行カウンセリングの実践と討議 司法臨床ケース
11. 試行カウンセリングの実践と討議 精神病ケース
12. 試行カウンセリングの実践と討議 パーソナリティー障害ケース
13. 試行カウンセリングの実践と討議 発達障害ケース
14. 試行カウンセリングの実践と討議 神経症ケース
15. まとめ 最後に全体ディスカッション

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】試行カウンセリングを行い、レジメを準備する（各授業について60分）

【事後学修】振り返りを行い、文献と突き合わせる（各授業について60分）

評価方法および評価の基準

各回のレポート提出が20点、提出物40点と期末レポート40点で総合評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業末にリアクションペーパーを実施し、教員が応答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業中に適宜指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	発達・教育相談		
担当教員名			
ナンバリング	KAc436		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

カウンセラーとして教育現場に従事していた経験をもとに、教育相談の理論や技法について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

公認心理師対応科目でもある。学校現場で生じる諸問題について、心理的援助の手順や対応方法について、具体的かつ実践的に学ぶ。「教育相談」「生徒指導」「心理療法」等と関連がある。

科目の概要

教育現場において生じる問題及びその背景について理解し、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。学校心理学に基づく心理教育的援助サービスについて講義し、教育相談やスクールカウンセリングなどの実践を行う際に必要となる理論や介入方法を紹介する。ワークなどを通じて学校における問題や課題、援助に関する理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心として、実際の事例を参考にしたロールプレイやグループ学習等を通して、学校現場における心理的援助の実際について学ぶ。また各授業回に感想や疑問点、要望等の提出を求め、次回にフィードバックを行う。【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】

到達目標

- ・教育現場において生じる問題およびその背景について理解し、説明することができる。
- ・教育現場における心理社会的課題および必要な支援について理解し、説明することができる。
- ・教育現場において心理支援を実践するために必要な、他者と信頼関係を構築する力を養う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 心理学の理論・概念・技能の活用の理解、2- 分析的思考、3- 知識・理解を活用する意欲

内容

本講義はグループワークやロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	イントロダクション：教育・学校心理学とは【リアクションペーパー】
2	子どもの発達課題への取り組みと理解【リアクションペーパー】
3	子どもの教育課題への取り組み援助【リアクションペーパー】

4	心理教育的援助サービス【リアクションペーパー】
5	スクールカウンセリングの枠組み【リアクションペーパー】
6	心理・教育的アセスメントの考え方と実際【リアクションペーパー】
7	学校内におけるチーム支援【リアクションペーパー】
8	発達障がいの理解と援助【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
9	不登校の理解と援助【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
10	いじめの理解と援助【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
11	非行の理解と援助【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
12	危機状態への解決的介入【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
13	学級づくりの援助【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
14	教育・学校心理学の実践【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に内容に即した事例や資料を調べておくことを推奨する。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをまとめる、関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組みおよび課題（30%）、筆記試験（70%）、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への取り組みと課題(5%)、筆記試験(15%)

到達目標2．授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(35%)

到達目標3．授業への取り組みと課題(15%)、筆記試験(20%)

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

菅野純 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

リアクションペーパーは毎回提出とし、理解度や疑問点の把握をします。

受講希望者は初回時に必ず出席してください。

合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目「研究法・実習科目」領域に配置された選択科目である。「生涯発達科目」「心理臨床科目」「研究法・実習科目」での科目学修を通して学んだ心理学的な知見・理論・技法に基づいて、社会・心理的な支援を必要とする対象者との関わりを実践する科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科 (大学) を窓口として、大学近隣の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと、活動に関する支援・相談を行っている。その他にも、市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、小中学校等で行う教育ボランティア、社会福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は に記した「現場」での活動を基本として、その前後に行う学修活動で展開する。したがって、学修活動そのものがサービスマニングである。さらに、活動を通じて得たことや振り返りを文章化するレポートにも取り組む。【実習】

到達目標

1. 学校や施設等の臨床場面において、心理学的専門性がどのように発揮されるのかを説明できる
2. 学習者自身が備える知識や技能を、社会・心理的支援を必要とする対象者との関わりの中で、適切に活用していく方法を選択し工夫できる。
3. 臨床場面における支援活動において、チームとして協働し連携する重要性を認識し、積極的に参加できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 : 分析的思考、
- 1 : 興味関心・主体的な姿勢、
- 2 : 知識・理解を活用する意欲

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 活動にあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点を十分にふまえ、学校長や責任者など要請側の要望や趣旨を十分に理解して、その目的に沿うように努めること。
3. 活動を通して学び理解したこと、大学で学修した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で

今後学習すべき課題は何かを、自省し文章にまとめること。

4. 活動期間の終了後には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

この授業は学外の機関・施設等におけるサービス・ラーニングの取り組み自体と、取り組みに基づいた主体的な気づきや学びを言語化する中で、学びを深化させていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識／態度／技能を活用できるようにしておく[毎回の活動前に30分]。

【事後学修】支援対象者との関わりの具体的・表面的な部分にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察し、文章化すること[毎回の活動後に90分]。

評価方法および評価の基準

活動記録(10%)と事後報告書(90%)で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 記録(5%/10%)、報告会(40%/90%)

到達目標2. 記録(5%/10%)、報告会(30%/90%)

到達目標3. 報告会(20%/90%)

【フィードバック】自己報告書についてはコメントを返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】学校教育ボランティアの場合:菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「誰かを助けたい」「人を支援したい」「困っている・悩んでいる人を助けたい」という入学前から抱いていた思いを、学修活動として実現するためには最適な科目(活動)だと考える。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAc337		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目「研究法・実習科目」領域に配置された選択科目である。「生涯発達科目」「心理臨床科目」「研究法・実習科目」での科目学修を通して学んだ心理学的な知見・理論・技法に基づいて、社会・心理的な支援を必要とする対象者との関わりを実践する科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科(大学)を窓口として、大学近隣の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと、活動に関する支援・相談を行っている。その他にも、市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、小中学校等で行う教育ボランティア、社会福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1)臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2)人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は に記した「現場」での活動を基本として、その前後に行う学修活動で展開する。したがって、学修活動そのものがサービスラーニングである。さらに、活動を通じて得たことや振り返りを文章化するレポートにも取り組む。【実習】

到達目標

1. 学校や施設等の臨床場面において、心理学的専門性がどのように発揮されるのかを説明できる
2. 学習者自身が備える知識や技能を、社会・心理的支援を必要とする対象者との関わりの中で、適切に活用していく方法を選択し工夫できる。
3. 臨床場面における支援活動において、チームとして協働し連携する重要性を認識し、積極的に参加できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 : 分析的思考、
- 1 : 興味関心・主体的な姿勢、
- 2 : 知識・理解を活用する意欲

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 活動にあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点を十分にふまえて、学校長や責任者など要請側の要望や趣旨を十分に理解して、その目的に沿うように努めること。
3. 活動を通して学び理解したこと、大学で学修した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で

今後学習すべき課題は何かを、自省し文章にまとめること。

4. 活動期間の終了後には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

この授業は学外の機関・施設等におけるサービス・ラーニングの取り組み自体と、取り組みに基づいた主体的な気づきや学びを言語化する中で、学びを深化させていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】それまで学科で学んだ心理学的な知識／態度／技能を活用できるようにしておく[毎回の活動前に30分]。

【事後学修】支援対象者との関わりの具体的・表面的な部分にとらわれることなく、本質的な課題、内面的な変化などを洞察し、文章化すること[毎回の活動後に90分]。

評価方法および評価の基準

活動記録(10%)と事後報告書(90%)で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 記録(5%/10%)、報告会(40%/90%)

到達目標2. 記録(5%/10%)、報告会(30%/90%)

到達目標3. 報告会(20%/90%)

【フィードバック】自己報告書についてはコメントを返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】学校教育ボランティアの場合:菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「誰かを助けたい」「人を支援したい」「困っている・悩んでいる人を助けたい」という入学前から抱いていた思いを、学修活動として実現するためには最適な科目(活動)だと考える。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	加藤 陽子、松葉 百合香		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床心理士・公認心理師有資格者として、教育臨床の現場に従事し、心理アセスメントを行っている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

授業の方法 (ALを含む)

数種類の心理アセスメントの実習を行い、レポートを作成する。【実習】

到達目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1基本的理念・概念の理解， -2分析的思考， -1興味・関心、主体的な姿勢

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理【実習】

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、
それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごとに担当した教官が講評を行う。

*それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

*グループに分かれて実習を行うため、取り扱うアセスメントの順番は班により異なる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

到達目標2．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

【フィードバック】課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習中の態度も評価に入ります。

心理アセスメントを扱う人間としてふさわしい態度で臨みましょう。

実習・演習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めません。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	伊藤 恵子、石田 有理		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床心理士・公認心理師有資格者として、教育臨床の現場に従事し、心理アセスメントを行っている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

授業の方法 (ALを含む)

数種類の心理アセスメントの実習を行い、レポートを作成する。【実習】

到達目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1基本的理念・概念の理解， -2分析的思考， -1興味・関心、主体的な姿勢

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理【実習】

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、
それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごとに担当した教官が講評を行う。

*それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

*グループに分かれて実習を行うため、取り扱うアセスメントの順番は班により異なる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

到達目標2．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

【フィードバック】課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習中の態度も評価に入ります。

心理アセスメントを扱う人間としてふさわしい態度で臨みましょう。

実習・演習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めません。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床心理士・公認心理師有資格者として、教育臨床の現場に従事し、心理アセスメントを行っている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

授業の方法 (ALを含む)

数種類の心理アセスメントの実習を行い、レポートを作成する。【実習】

到達目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1基本的理念・概念の理解, -2分析的思考, -1興味・関心、主体的な姿勢

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理【実習】

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、
それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごとに担当した教官が講評を行う。

*それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

*グループに分かれて実習を行うため、取り扱うアセスメントの順番は班により異なる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

到達目標2．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

【フィードバック】課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習中の態度も評価に入ります。

心理アセスメントを扱う人間としてふさわしい態度で臨みましょう。

実習・演習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めません。

科目名	心理アセスメント入門		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	Kac275		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床心理士・公認心理師有資格者として、教育臨床の現場に従事し、心理アセスメントを行っている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目に配置される。心理学の各分野における代表的な心理アセスメントを理解し、その技法を学ぶ。「面接法」「観察法」「心理検査法」などと関連が深い。

科目の概要

- (1) 心理アセスメントの作られ方、実際の使い方、使用上の注意点などについて理解する。
- (2) 実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。

なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。

授業の方法 (ALを含む)

数種類の心理アセスメントの実習を行い、レポートを作成する。【実習】

到達目標

- (1) アセスメントの目的と意味、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- (2) アセスメントから得られた結果の整理方法について、発達心理学や臨床心理学の基礎的な知見と関連させながら理解している。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1基本的理念・概念の理解， -2分析的思考， -1興味・関心、主体的な姿勢

内容

この授業は、グループワーク・演習形式を中心に学びを深めていく。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野のアセスメントについて学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

第1～2回：ガイダンス

心理アセスメントの基礎知識と実施における注意事項の確認

第3回～第14回：アセスメントの実施と結果の整理【実習】

知能検査、発達検査、作業検査、投影法などについて、
それぞれ実施方法と結果の整理方法について学ぶ。

第15回：まとめ

アセスメントごとに担当した教官が講評を行う。

*それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

*グループに分かれて実習を行うため、取り扱うアセスメントの順番は班により異なる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布された資料を用いて事前学習を行う（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回授業で学んだことを整理し直す（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

アセスメント毎の「課題レポート」70点と「毎回の授業への参加度(取組み)」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

到達目標2．課題レポート(35%)、授業への参加度(15%)

【フィードバック】課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習中の態度も評価に入ります。

心理アセスメントを扱う人間としてふさわしい態度で臨みましょう。

実習・演習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めません。

科目名	心理検査法応用		
担当教員名	木甲斐 智紀		
ナンバリング	KAc376		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択科目の一つである。「心理検査法」の発展的内容となり、より詳細に心理検査について理解し、またそれを活用するための知識および技能を学修する。

科目の概要

心の問題について理解し、介入するにあたり、心理検査は重要な役割を担う。本講義では、心理検査を単なる情報収集ではなく、問題改善への契機として活用できるよう、少数の心理検査を取り上げ、理論的学習、実践、所見の作成を行う。

授業の方法 (ALを含む)

教員と学生の間ならびに学生間で双方向性のある講義形式を取る。また、3つ程度の心理検査を取り上げ、一つ一つの検査を数回の講義に分けて学習する。理論的背景を学習したのち、当該検査を学生自身が実施、得られた情報を所見としてまとめる。その過程でグループワーク等を行い、検査の実施にあたって考慮すべきことや倫理的な問題への対応なども議論する。【リアクションペーパー】【グループワーク】【実技】【レポート (表現)】

到達目標

- ・各心理検査の理論上重要な概念について理解し、説明できる。
- ・心理学的および倫理的な配慮のもと、各心理検査を実施することができ、その結果を理論に照らして解釈することができる。
- ・心理検査の結果を、検査を受ける人の問題や人生と結びつけ、検査を役立てる具体的方法を案出できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2「知識・理解を活用する意欲」
- 3「課題発見・解決」
- 4「理論・概念・知識・技能の主体的活用」

内容

3つ程度の心理検査を取り上げるが、学生の希望や人数等を踏まえ、取り上げる心理検査および講義の進行の速度は適宜調整する。

各検査について、以下の5つの段階を基本として学習を進める。

理論および検査実施方法の学習

検査実施にあたっての諸注意点についての議論

学生自身による検査の実施

所見の作成，およびフィードバックにおける諸注意点についての議論

所見の作成とその検討

【リアクションペーパー】【グループワーク】【実技】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】講義内で提示する次回講義のテーマについて各自よく調べ，不明点を明確にすること（60分）。

【事後学修】講義の終わりに提示される当該検査の理論・技術の復習，検査の実施，検査結果の算出及び解釈等を行って行くこと（60分）。

評価方法および評価の基準

議論への参加などの講義中の取り組み（40％）と，各心理検査についてのレポート（所見を含む）（60％）にて評価するものとし，総合評価60点以上を合格とする。

各目標に対する評価は以下の通り。

- ・「各心理検査の理論上重要な概念について理解し，説明できる」（平常点10％，レポート20％）。
- ・「心理学的および倫理的な配慮のもと，各心理検査を実施することができ，その結果を理論に照らして解釈することができる」（平常点15％，レポート20％）。
- ・「心理検査の結果を，検査を受ける人の問題や人生と結びつけ，検査を役立てる具体的方法を案出できる」（平常点15％，レポート20％）。

【フィードバック】

提出された課題は，次回に評価を付して返却し，要点を全体に対してコメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。講義中にプリントを配布する。

【参考図書】「治療的アセスメントの理論と実践ークライアントの靴を履いてー」スティーブン・フィン著 金剛出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育・学校心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	Kac477		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

カウンセラーとして教育現場に従事していた経験をもとに、教育相談の理論や技法について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

公認心理師対応科目でもある。学校現場で生じる諸問題について、心理的援助の手順や対応方法について、具体的かつ実践的に学ぶ。「教育相談」「生徒指導」「心理療法」等と関連がある。

科目の概要

教育現場において生じる問題及びその背景について理解し、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。学校心理学に基づく心理教育的援助サービスについて講義し、教育相談やスクールカウンセリングなどの実践を行う際に必要となる理論や介入方法を紹介する。ワークなどを通じて学校における問題や課題、援助に関する理解を深める。

授業の方法 (ALを含む)

講義による解説を中心として、実際の事例を参考にしたロールプレイやグループ学習等を通して、学校現場における心理的援助の実際について学ぶ。また各授業回に感想や疑問点、要望等の提出を求め、次回にフィードバックを行う。【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】

到達目標

- ・教育現場において生じる問題およびその背景について理解し、説明することができる。
- ・教育現場における心理社会的課題および必要な支援について理解し、説明することができる。
- ・教育現場において心理支援を実践するために必要な、他者と信頼関係を構築する力を養う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 心理学の理論・概念・技能の活用の理解、2- 分析的思考、3- 知識・理解を活用する意欲

内容

1	イントロダクション：教育・学校心理学とは【リアクションペーパー】
2	子どもの発達課題への取り組みと理解【リアクションペーパー】
3	子どもの教育課題への取り組み援助【リアクションペーパー】

4	心理教育的援助サービス【リアクションペーパー】
5	スクールカウンセリングの枠組み【リアクションペーパー】
6	心理・教育的アセスメントの考え方と実際【リアクションペーパー】
7	学校内におけるチーム支援【リアクションペーパー】
8	発達障がい理解と援助【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
9	不登校理解と援助【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
10	いじめ理解と援助【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
11	非行理解と援助【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
12	危機状態への解決的介入【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
13	学級づくりの援助【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
14	教育・学校心理学の実践【ロールプレイング】【ケースメソッド】【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に内容に即した事例や資料を調べておくことを推奨する。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをまとめる、関連科目とのつながりをまとめることを推奨する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組みおよび課題（30%）、筆記試験（70%）、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への取り組みと課題(5%)、筆記試験(15%)

到達目標2．授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(35%)

到達目標3．授業への取り組みと課題(15%)、筆記試験(20%)

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

菅野純 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

リアクションペーパーは毎回提出とし、理解度や疑問点の把握をします。

受講希望者は初回時に必ず出席してください。

合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAd239		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

(一財) テクニカルコミュニケーター協会会長としてサービス・製品の使用説明における情報提供の質的向上に取り組んだ経験を、心理学的知見・理論の説明に取り入れる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門「社会科目領域」に配置された選択科目である。「社会科目領域」の科目学修にとって基礎的な位置づけであり、社会活動の基盤をなすコミュニケーションに対する心理学的な理解を獲得させることを目指す。

科目の概要

本科目では、人々が営むコミュニケーション行動に関して明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を扱う。授業では心理学的な知見を知識として獲得し、それを身の回りの出来事に当てはめ解釈する態度や力を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、少人数によるディスカッション、WEBを利用したミニ・レポート提出を取り入れた授業を行う。【ディスカッション、ミニ・レポート】

到達目標

1. コミュニケーションの仕組みに関する心理学的知見を説明できる
2. コミュニケーション行動に関する理論や法則性を日常生活での行動に適用して解釈・分析できる
3. 本科目での学修成果を用いて、円滑なコミュニケーションを実現しようと工夫する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 : 実証的・科学的思考、
- 2 : 分析的思考、
- 2 : 知識・理解を活用する意欲

内容

1	コミュニケーション行動と心理学
2	対人コミュニケーションの成立 【ディスカッション】
3	対人コミュニケーションの特徴 【ミニ・レポート】
4	言語とコミュニケーション
5	言語コミュニケーションの特質 【ミニ・レポート】
6	非言語メディアによるコミュニケーション 【ディスカッション】
7	自己開示の概念と領域
8	自己開示が果たす機能 【ミニ・レポート】

9	自己開示を規定する要因
10	自己呈示と社会的スキル 【ディスカッション】
11	防衛的自己呈示と主張的自己提示 【ミニ・レポート】
12	他者を動かすコミュニケーション（要請承諾・説得）
13	説得的コミュニケーションと態度変容 【ディスカッション】
14	要請技法と心理的効果
15	まとめ（全員）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1回：自らのコミュニケーションを振り返り素朴な疑問や課題を言語化しておく [20分]。 2～14回：テキストの各授業回の内容に該当する部分を読み理解できることを明確にする[30分]。 15回：本科目の到達目標に沿って授業内容を復習し説明や分析できるようにする [90分]。

【事後学修】1～3回：対人コミュニケーションを説明分析できるよう学修内容をまとめる [40分]。 4～6回：言語や非言語記号の役割や特性を日常場面でも説明分析できるよう学修内容をまとめる[40分]。 7～11回：自分を示すコミュニケーション活動の機能や特性を説明分析できるよう学修内容をまとめる[40分]。 12～14回：他者の態度を変容させることを心理学的な知見から説明できるように学修内容をまとめる[40分]。

評価方法および評価の基準

授業内で指示した課題への回答（25%）と筆記試験（75%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題回答(5% / 25%)、筆記試験(30% / 75%)

到達目標2．課題回答(10% / 25%)、筆記試験(20% / 75%)

到達目標3．課題回答(10% / 25%)、筆記試験(25% / 75%)

【フィードバック】課題への回答については授業内でコメントする。筆記試験については、模範解答を提示し事後学修での確認を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】深田博己著『インターパーソナルコミュニケーション』北大路書房 1998

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で解説された事項を自らの体験や考えと結びつけることを意識して下さい。

科目名	対人関係の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAd340		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。人間発達心理学科の選択専門科目である。

1年次の社会心理学概論で学習した対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心としているが、各授業内で2~3回、テーマに関連した課題について自分の考えをリアクションペーパーに書いてもらい、授業中に意見の共有を行なう。また、授業後にも感想や疑問点を書いてもらい、教員が次の授業でフィードバックを行なう。【リアクションペーパー】

到達目標

- (1)社会心理学における対人関係領域の知見に関する理解を深め、対人魅力に関する現象を客観的に説明することができる
- (2)対人魅力に関する研究例から心理学的研究の方法論を理解し、日常生活における疑問を解決するアイデアを提案することができる
- (3)学んだ知識を基に、日常生活においてよりよい人間関係を築く工夫を具体的に考えることができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -1「基本的理念・概念の理解」、 -1「実証的・科学的思考」、 -2「知識・理解を活用する意欲」

内容

この講義は講義を基本に、リアクションペーパーを活用した全体共有やディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス：対人魅力とは何か 【リアクションペーパー】
2	好意をどのようにして測定する？ 【リアクションペーパー】
3	側にいる人を好きになる？好きな人の側にいたい！ 【リアクションペーパー】
4	美しい人を好きになる！美しい人に幻滅する！ 【リアクションペーパー】
5	美しく装って魅力を高める - 被服・化粧と対人魅力 - 【リアクションペーパー】
6	自分と似た性格・態度を持つ人を好きになる！ 【リアクションペーパー】
7	能力が高い人は本当に好かれる？ 【リアクションペーパー】
8	中間まとめ（ミニテスト）
9	魅力を高める自己開示・自己呈示 【リアクションペーパー】
10	傷ついた時に側にいてくれる人を好きになる？ 【リアクションペーパー】
11	相手から好かれることの効果 【リアクションペーパー】
12	環境条件と魅力の関連 【リアクションペーパー】
13	対人関係の親密化～魅力が力を発揮する時 【リアクションペーパー】
14	対人関係のダークサイド 【リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業のキーワードについて、これまでの授業で学んだこと、新聞や雑誌の記事等を調べて予習してくる（各授業につき30分）

【事後学修】学習内容についてノートを整理し、自らの日常生活を振り返りながら復習する（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

【到達目標の評価方法】

- (1)社会心理学における対人関係領域の知見に関する理解を深め、対人魅力に関する現象を客観的に説明することができる（ミニテスト15%、期末テスト30%、平常点5%）
- (2)対人魅力に関する研究例から心理学的研究の方法論を理解し、日常生活における疑問を解決するアイデアを提案することができる（ミニテスト10%、期末テスト10%、平常点5%）
- (3)学んだ知識を基に、日常生活においてよりよい人間関係を築く工夫を具体的に考えることができる（ミニテスト10%、期末テスト10%、平常点5%）

総じて、期末テスト50%、中間テスト35%、平常点15%により評価を行い、60点以上を合格とする。満たさない場合には、単位は取得できない。

【フィードバック】毎回、リアクションペーパーについてコメントし、学習理解を深める。中間テストについては試験終了時に答え合わせをする。成績については期末テストまでにフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

* 人の「好き・嫌い」に関する講義なので、内容としては身近なテーマで理解しやすいが、社会心理学の専門的な知識に基づいて説明するため、社会心理学概論の内容をある程度理解していることが望ましい

* 再試験はしない

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAd341		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の社会科学の中での選択科目であり、社会心理学における集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

科目の概要

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

授業の方法 (ALを含む)

講義による解説を中心として、グループワークや授業内容に関連する課題、映画の視聴などを取り入れた授業を行う。毎回の授業でリアクションペーパーへの記入を求め理解度を確認し、質問には翌週の授業で回答する。【グループワーク】【レポート(表現)】【実技】【ミニテスト】【リアクションペーパー】

到達目標

1. グループダイナミクス領域の理論や研究知見に関する基礎的な知識を身につける
2. グループダイナミクスの研究方法を理解し、実験計画や手続きなどを説明できる
3. 集団状況下での人間の心理や行動について心理学的な視点から説明できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解
- 2分析的思考
- 1興味・関心、主体的な姿勢

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

1	ガイダンス【リアクションペーパー】
2	集団とは何か【リアクションペーパー】
3	集団の構造を把握する【実技】【リアクションペーパー】
4	集団の形成と発達過程【リアクションペーパー】
5	集団規範の発生【リアクションペーパー】
6	集団規範の測定：リターンポテンシャルモデル【リアクションペーパー】
7	集団凝集性【リアクションペーパー】
8	リーダーシップ(1)：特性論からスタイル論へ【リアクションペーパー】
9	リーダーシップ(2)：PM理論【リアクションペーパー】
10	リーダーシップ(3)：条件即応モデル【リアクションペーパー】
11	少数派の影響(1)【リアクションペーパー】
12	少数派の影響(2)【レポート(表現)】【リアクションペーパー】
13	集団意志決定【グループワーク】
14	集団と個人【リアクションペーパー】
15	まとめ【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次の授業でとりあげるキーワードについて調べ、ノートにまとめる。(30分)

【事後学修】授業時のノートと配付資料を基に、理解した内容をノートに整理する。(60分)

評価方法および評価の基準

期末テスト80%(到達目標1～3を評価する)+授業内の課題20%(到達目標1～3を評価する)とし、総合評価60点以上を合格とする

【フィードバック】リアクションペーパーの質問には回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	職場のメンタルヘルス		
担当教員名	尾崎 健一		
ナンバリング	KAd443		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

会社員、人事担当、組織でのメンタルヘルス対応の経験があり、職場のメンタルヘルスに関して実例を交えながら、講義・演習を進める。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

労働者のストレス、メンタルヘルスについて学び、働く人のストレスとその現状を理解し、自らストレスケアできることを到達目標とする。「健康心理学」や「産業・組織心理学」との関連が強い。

科目の概要

労働者を取り巻く社会の現状、ストレスが心身に及ぼす影響、ストレスとの付き合い方について学ぶ。「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」資格試験に合格する知識と実際のセルフケアスキルを身につけることができる。

授業の方法 (ALを含む)

講義のみならず、事例検討、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを活用し、能動的気づきに結び付く学修を目指す。

到達目標

- 1.働く人の多様なストレスを知り、その悪影響を述べることができる
- 2.場でのストレス場面を具体的にイメージし、自分でも実践できる
- 3.メンタルヘルス・マネジメント検定 種の合格レベルの基礎知識を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

-1基本的理念・概念の理解、 -2分析的思考、 -1興味・関心、主体的な姿勢

内容

講義方針：各回に事例、課題を提示し、個人ワーク、グループワークにより理解を深める。

1	オリエンテーション～労働者のストレスの現状	
2	職場・産業組織分野の制度・法律	【レポート(知識)】
3	産業組織分野の倫理/労働者の作業改善・安全衛生	【討議】
4	職業性ストレスとメンタルヘルス、過労・バーンアウトの防止	【グループワーク】

5	人事・ヒューマンリソースマネジメント	
6	キャリア形成、職業選択、ワークライフバランス	【レポート（表現）】
7	産業組織分野における心理学的アセスメント・ストレスチェック	【レポート（知識）】
8	産業カウンセリング、職場のストレス予防とストレスマネジメント	【討議】
9	職場のダイナミクス、チームワーク、コミュニケーション	【グループワーク】
10	リーダーシップとメンバーの心理、ワークモチベーション、職場適応	【グループワーク】
11	メンタルヘルスケアの意義とそのために必要なこと	【レポート（知識）】
12	セルフケアの実践、気づきと対処、自発的相談、活用できる資源	
13	産業カウンセリングの実際	【レポート（表現）】
14	メンタルヘルス・マネジメント検定対策	【レポート（知識）】
15	まとめ	【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義で扱うテキストの該当ページを読んで、重要と思われるキーワードをノートに書きだしておく（60分）。疑問があれば講義中に解決すること。

【事後学修】その回の講義内容とテキスト該当部分を振り返り、講義中に出される課題の答えをまとめる（60分）。次回講義ではその答えを検討材料とする。

評価方法および評価の基準

出席および平常点（20%）、講義内で提示する課題の結果（30%）、筆記試験（50%）で評価し、総合評価の60点以上を合格とする。

到達目標1. 平常点（10%/20%）、課題の結果（10%/30%）、筆記試験（20%/50%）

到達目標2. 平常点（5%/20%）、課題の結果（10%/30%）、筆記試験（10%/50%）

到達目標3. 平常点（5%/20%）、課題の結果（10%/30%）、筆記試験（20%/50%）

【フィードバック】各前回の質問について、講義内で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

・大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース（第4版）」中央経済社

・春日未歩子著「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース 過去問題集（2019年度版）」中央経済社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

上記2冊の教科書をもとに講義、グループワークを進める。事前にフジシヨップまたは書店にて購入し、必ず持参すること。（手元にないと演習・ワークができません）

科目名	社会行動の心理学		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd444		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、消費場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

科目の概要

なぜ人々はブランド物を選ぶのか、どのようにすれば購買や消費を促進できるのか、どのような広告が効果的かなどが消費者行動の心理学として扱われてきたテーマである。本科目では、隣接学問分野にも配慮しつつ、社会心理学的手法を用いて明らかにされてきた研究を紹介し、消費者行動に注目しながら社会的な行動を科学的に理解することを目的とする。

授業の方法 (ALを含む)

3回に1回程度の頻度でリアクションペーパーを用いて、授業に関する感想・疑問点等の把握を行い、必要に応じて授業内容の補足説明を行う。【リアクションペーパー】

到達目標

- 1.消費行動を例に、社会行動の生起過程を説明できる。
- 2.価格判断のプロセスを理解し、消費行動から社会的行動が環境的な要因の影響を受けることを説明することができる。
- 3.社会心理学などを主とした心理学からの知見が広告・宣伝活動などの場面にどのように応用されているか説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4心理学の理論・概念・技能の活用の理解、 -2分析的思考、 -2知識・理解を活用する意欲

内容

講義は、下に示す内容に沿って、パワーポイント資料をスクリーンに提示し、解説を加え進行する。

なお、提示するパワーポイント資料をもとに作成するノート用配布資料も毎回の講義時に配布する。

また、3回に1回程度、リアクションペーパーを活用して理解度の確認を行いつつ授業内容の補足説明や全体共有を図りつつ、学びを深めていく。

また、両資料については、LiveCampusの授業共有ファイルとして、受講生の復習用資料として供する。

1	消費者行動からみる社会的な行動
2	消費者行動のプロセス

3	消費者行動のプロセス 【リアクションペーパー】
4	消費者の知覚(価格判断のプロセス)
5	消費者の知覚(価格判断のプロセス)
6	店舗内の消費行動(計画購買と非計画購買) 【リアクションペーパー】
7	店舗内の消費行動(計画購買と非計画購買)
8	同調と流行
9	ライフスタイルの違いと消費行動【リアクションペーパー】
10	口コミとクチコミと購買意思決定
11	口コミとクチコミと購買意思決定
12	販売の訴求テクニック・広告活動 【リアクションペーパー】
13	販売の訴求テクニック・広告活動
14	地域性を考慮した広告の効果
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。(各授業について[30分])

【事後学修】学習内容について授業資料を整理し復習をする。(各授業について[60分])

評価方法および評価の基準

3回に1回程度で求めるリアクションペーパー(計40点)、期末試験(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.リアクションペーパー(15%/40%)期末試験(20%/60%)

到達目標2.リアクションペーパー(10%/40%)期末試験(20%/60%)

到達目標3.リアクションペーパー(15%/40%)期末試験(20%/60%)

【フィードバック】期末試験については、講義の成績評価をもって代える。授業時に求めるリアクションペーパーについては、代表的な意見や興味深い指摘をとりあげ、授業の中で返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。

【推薦書】竹村和久(編)「消費行動の社会心理学」北大路書房
杉本徹雄(編)「新・消費者理解のための心理学」福村出版
杉本徹雄「マーケティングと広告の心理学」朝倉書店

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会行動の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAd444		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針1、2に該当する。人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の領域では、自己意識、印象形成、対人魅力、コミュニケーション等と関わる応用領域である。社会心理学の基礎的知識がある程度必要であり、対人関係の心理学、コミュニケーションの心理学などとの関連がある。

科目の概要

なぜ人は装うのか、装うことでどのような効果が得られるのか、人々の装いを決定する要因は何かなどが、被服・化粧の心理学として扱われてきたテーマである。人々は自分自身のため、もしくは他者からの印象や評価を向上させるため被服や化粧を用いて装う。また、被服や化粧などの装いの適切さは、社会や文化の影響を多分に受けている。そのため、社会から影響を受ける心について研究する「社会心理学」の研究手法が有効なのである。そこで、本科目では隣接学問分野にも配慮しつつ、社会心理学的手法を用いて明らかにされてきた研究を紹介し、被服・化粧行動を科学的に理解することを目的とする。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心としているが、各授業内で2～3回、テーマに関連した課題について自分の考えをリアクションペーパーに書いてもらい、授業中に意見の共有を行なう。また、授業後にも感想や疑問点を書いてもらい、教員が次の授業でフィードバックを行なう。【リアクションペーパー】

到達目標

- (1)被服・化粧にまつわる心理現象について、社会心理学の知見に基づいた客観的な説明ができる
- (2)被服行動・化粧行動に興味を持ち、心理学的に明らかにする具体的な方法を考えることができる
- (3)講義で得た被服・化粧に関する知識を実生活で活用する方法を探究できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -4「心理学の理論・概念・技能の活用の理解」、 -2「分析的思考」、 -2「知識・理解を活用する意欲」

内容

1	なぜ人は装うのか(ガイダンス) 【リアクションペーパー】
2	被服による自己と感情の調整 【リアクションペーパー】
3	化粧による自己と感情の調整 【リアクションペーパー】
4	「美しさ」とは何か～外見的魅力 【リアクションペーパー】
5	「美しさ」とは何か～外見的魅力 【リアクションペーパー】
6	被服による対人認知と印象管理 【リアクションペーパー】
7	化粧による対人認知と印象管理 【リアクションペーパー】
8	中間まとめ(ミニテスト)
9	被服の対人的コミュニケーション効果 【リアクションペーパー】
10	化粧の対人的コミュニケーション効果 【リアクションペーパー】
11	被服と対人行動 【リアクションペーパー】
12	適応力としての化粧 【リアクションペーパー】
13	被服と文化 【リアクションペーパー】
14	化粧と文化 【リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会心理学の基礎的知識を、これまで受講した授業の教科書やプリントを基に復習し、ノートにまとめる(各授業に対して30分)

【事後学修】被服や化粧に関するニュースやデータ等を収集し、授業で解説された内容の理解を深める(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

【評価方法および評価の基準】

(1)被服・化粧にまつわる心理現象について、社会心理学の知見に基づいた客観的な説明ができる(ミニテスト15%、期末テスト30%、平常点5%)

(2)被服行動・化粧行動に興味を持ち、心理学的に明らかにする具体的な方法を考えることができる(ミニテスト10%、期末テスト10%、平常点5%)

(3)講義で得た被服・化粧に関する知識を実生活で活用する方法を探求できる(ミニテスト10%、期末テスト10%、平常点5%)

総じて、期末テスト50%、中間テスト35%、平常点15%により評価を行い、60点以上を合格とする。満たさない場合には、単位は取得できない。

【フィードバック】

毎回、リアクションペーパーに返答し、学習理解を深めるようにする。中間テストについては試験終了時に答え合わせをする。中間テストの成績については期末試験前に必ず返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて、授業時に資料を配布する。

【推薦書】高木修(監)大坊郁夫・神山進(編)被服と化粧の社会心理学 北大路書房
越智啓太 美人の正体 実務教育出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

* 被服や化粧は個人の好みだけではなく、社会的な環境や文化などによっても左右される行動である。普段からニュースや他者の言動に興味を持ち、情報収集する意欲を持っている学生が望ましい。

* 再試験はしない

科目名	キャリア発達心理学		
担当教員名	杉本 英晴		
ナンバリング	KAd445		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

本科目は、グループワークを通して生涯のキャリアを歩む人間、および、その発達に対する多面的な見方を獲得するとともに、他者のキャリアへの共感的理解を深め対人コミュニケーション能力も身に付ける。グループダイナミクスや産業心理学、職場のメンタルヘルス（産業・組織心理学）などに関連のある社会科目である。

科目の概要：

キャリアとは、職業人や家庭人、地域社会の一員など様々な役割を果たす過程の中で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねである。そのため、キャリアについて考える際、単純にどのような仕事の経歴があるかということだけでなく、たとえば、ある仕事に就くまでに、職業活動を通して、そして仕事と家庭の両立を通してなど、自身や関係性の発達に目を向ける必要がある。そこで本授業では、私たちがどうやって職業を選択しどうやって職業人となっていくのか、働くことの意味は何か、ワークライフバランスを保つためにはどうすればよいのかなどの社会的な問題を考える。

授業の方法 (ALを含む)：

毎回の授業で講義をもとにグループでディスカッションを行い、自分の考え方を客観視しつつ明確化する【ディスカッション】【グループワーク】。

到達目標：

- (1) これまで学んできた心理学の知識をキャリアという領域に応用しながら、キャリア心理学について理解を深め説明できる。
- (2) 就職を目前に控えた受講生にとって自身の職業選択や職業生活、家庭生活のイメージを具体化し、自分の考えを述べることができる。
- (3) 自分自身に対する理解から、今後の大学生活を充実させる目標を立て、行動計画を立てることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解
- 2 分析的思考
- 1 興味・関心、主体的な姿勢

内容

基本的には講義形式での授業を行うが、個人ワークやグループワークを通しての自己理解や職業理解も取り入れる。

1	オリエンテーション【グループワーク】
2	キャリアとは何か【グループワーク】【討論・議論】

3	キャリア発達の理論【グループワーク】【討論・議論】
4	進路の意思決定プロセス【グループワーク】【討論・議論】
5	キャリアにおける社会的問題【グループワーク】【討論・議論】
6	現代の就職活動【グループワーク】【討論・議論】
7	ライフ・キャリア・レインボー【グループワーク】【討論・議論】
8	キャリア自己効力感と社会認知的キャリア理論【グループワーク】【討論・議論】
9	職業興味【グループワーク】【討論・議論】
10	働くことの価値観とキャリア・パースペクティブ【グループワーク】【討論・議論】
11	ワーク・ライフ・バランス【グループワーク】【討論・議論】
12	キャリアに対する関心【グループワーク】【討論・議論】
13	計画された偶発性理論【グループワーク】【討論・議論】
14	ワーク・モチベーション【グループワーク】【討論・議論】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業でとりあげるテーマについて、現在の自分の考えを書き出しておく（2時間）。

【事後学習】授業内容について、家族や友人などに説明する（2時間）。

評価方法および評価の基準

授業内レポート・課題50点、最終課題・レポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標（1）授業内レポート・課題（20/50）、最終課題・レポート（15/50）

到達目標（2）授業内レポート・課題（20/50）、最終課題・レポート（15/50）

到達目標（3）授業内レポート・課題（10/50）、最終課題・レポート（20/50）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	家族心理学（社会・集団・家族心理学）		
担当教員名	大野 祥子		
ナンバリング	Kad378		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目では、家族という営みに現れる大人・子ども双方の発達や、家族内の対人関係について実証的な研究成果に基づき検討していきます。現代の家族がおかれた社会的な状況について理解を深めると同時に、異なる家族体験・異なる信念を持つ他者を理解することを目指します。

科目の概要

この科目では、家族心理学の基本的な理論と概念を学び、実証的な研究結果に基づいて現代の家族の問題を客観的・分析的に考えていきます。家族の問題を、親 - 子、また男性 - 女性双方の視点から、さらにBio - Psycho - Socialという各方面から多角的に眺めながら、家族という集団の持つ性質を理解し、人間の発達の間としてどのような関係・機能が求められているかを考えます。

あわせて家族システムのダイナミズムを理解し、発達を支えるコミュニケーションについて考えます。

授業の方法（ALを含む）

授業は講義形式を中心とし、一部ワークやグループディスカッションを取り入れます。調べものやレポートの宿題を課すこともあります。

各回の呈示資料・配布資料は授業後にLive Campusを通して共有するので、授業時間外の復習・発展的学習に活用してください。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【グループワーク】【実技】

到達目標

1. 家族という営みに現れる家族メンバー間の関係を多角的に理解する視点を持つ。
2. 現代の家族をとりまく社会・文化的状況を把握し、家族が抱える問題とその背景を理解する。
3. 人間の発達にとっての家族の意味・機能を考え、自分の家族体験や家族観を相対化する視点を持つ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解、
- 2分析的思考

内容

1	家族とは何か：構造と機能、歴史（テキスト1,3,4章）
2	現代の家族（テキスト2,5,6,7章）
3	母性神話を再考する（テキスト21章）【レポート（知識）】
4	育児ストレス（映像資料視聴）【グループワーク】
5	育児ストレスはなぜ起こるか（テキスト14,18章）
6	子育て期の家庭生活（テキスト8,9章）【レポート（知識）】
7	子育て期の夫婦関係（テキスト10,11章）
8	男女共同参画社会と家族（テキスト12,13,30章）
9	家族にふりかかるストレス（テキスト29章）
10	現代の親子関係（テキスト14,15,16,17章）
11	家族をシステムとして見る（テキスト23,25章）【実技】
12	家族に対するカウンセリング
13	家族コミュニケーション
14	家族と自己
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストからその回の内容に該当する章を読み、わからない用語を調べておくこと。その他に準備してほしいことがある場合は前の回に指示する。（60分）

【事後学修】授業ノートをふり返り、授業内容を理解したか確認すること。自分の意見はどうかを考えること。授業中に紹介された参考資料にあたり、発展的な学習をすること。（60分）

評価方法および評価の基準

授業内での提出物（リアクションペーパー含む）60%、最終課題40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

提出物は翌週以降の授業で講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

【推薦書】柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学〔第2版〕』有斐閣ブックス

根ヶ山光一『発達行動学の視座： 個 の自立発達の人間科学的探究』金子書房

【参考図書】授業中に紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	産業心理学（産業・組織心理学）		
担当教員名	高口 央		
ナンバリング	KAd379		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、社会心理学などの知見をもとに、産業場面、組織場面での人の心理、行動について扱う応用領域の心理学である。

科目の概要

本科目では、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、組織における人の行動、リーダーシップ、職場のストレスなどを扱う。社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象について講義を行う。

授業の方法（ALを含む）

3回に1回程度、リアクションペーパーを活用して理解度の確認を行いつつ授業内容の補足説明を行う。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 集団・組織という複数人で協働する場面で生じる社会的な手抜きといった現象について説明できる。
2. 報酬の両価的な意味なども踏まえて仕事への動機づけについて理解し説明できる。
3. 対人葛藤などに起因する職場のストレスについて説明できる。
4. リーダーシップの諸理論を基にしながら組織の中での自身の今後の活動の仕方について述べることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4心理学の理論・概念・技能の活用の理解、 -1実証的・科学的思考、 -2知識・理解を活用する意欲

内容

講義は、下に示す内容に沿って、パワーポイント資料をスクリーンに提示し、解説を加え進行する。

なお、提示するパワーポイント資料をもとに作成するノート用配布資料も毎回の講義時に配布する。

また、3回に1回程度、リアクションペーパーを活用して理解度の確認を行いつつ授業内容の補足説明や全体共有を図りつつ、学びを深めていく。

また、両資料については、LiveCampusの授業共有ファイルとして、受講生の復習用資料として供する。

1	産業・組織心理学とは何か？ - ガイダンス -
2	ホーソン研究：物理的環境か心理的要因か
3	作業に関わる心理学：社会的手抜きと補償【リアクションペーパー】
4	仕事への動機づけ研究1：欲求階層・ERG理論
5	仕事への動機づけ研究2：内発的動機・外発的動機
6	仕事への動機づけ研究3：報酬【リアクションペーパー】
7	組織における人の行動：公正感と自発的行動
8	組織コミットメントと役割外行動(組織市民行動)
9	組織の中でのコミュニケーション：集団分極化【リアクションペーパー】
10	対人葛藤：プラスの効果・バーンアウト
11	リーダーシップ1:偉人論・特性論
12	リーダーシップ2：PM理論・ライフサイクル理論【リアクションペーパー】
13	上司と部下の関係構築：投資モデルの援用
14	職場での行動の獲得・学習：PDCAサイクル
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業予定内容について、推薦図書などの資料を調べ予習に取り組む。(各授業について[30分])

【事後学修】学習内容について授業資料を整理し復習をする。(各授業について[60分])

評価方法および評価の基準

講義3回に1回程度で課すリアクションペーパー(計40点)、期末試験(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.リアクションペーパー(10%/40%)期末試験(15%/60%)

到達目標2.リアクションペーパー(10%/40%)期末試験(15%/60%)

到達目標3.リアクションペーパー(10%/40%)期末試験(15%/60%)

到達目標4.リアクションペーパー(10%/40%)期末試験(15%/60%)

【フィードバック】期末試験については、講義の成績評価をもって代える。授業時に求めるリアクションペーパーについては、代表的な意見や興味深い指摘をとりあげ、授業の中で返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

使用しない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

【推薦書】

山口裕幸/金井篤子(編)・「よくわかる産業・組織心理学」・ミネルヴァ書房

田尾雅夫(編)・「組織行動の社会心理学」・北大路書房

小口孝司/楠見孝/今井芳昭(編)・「仕事のスキル」・北大路書房

原マサヒコ・「トヨタのPDCA」・あさ出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	司法・犯罪心理学		
担当教員名	高野 光司		
ナンバリング	KAd380		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「司法・犯罪心理学」は、司法・矯正領域は公認心理師の職業領域である基幹5領域の1つであり、公認心理師受験資格取得のために必要な司法・矯正領域の心理学に関する基礎的な知識の習得が目指される科目である。また当該科目は、人間発達心理学科の専門科目のうち社会科目に属し、同科目群のグループダイナミクスや社会行動の心理学などと関連する、学科の基礎科目である。

科目の概要

1. 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識について理解する。
2. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解する。
3. 犯罪予防についての基本的知識について理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、リアクションペーパーを取り入れた授業を行う。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現代日本における司法・犯罪の概観を説明することができる。
2. 犯罪に関する各種の理論について説明することができる。
3. 司法・犯罪分野の問題に対する各種の心理的支援について説明することができる。
4. 犯罪予防に関する理論について説明でき、かつ今後の方向性について述べることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解 -1 実証的・科学的思考 -1 興味・関心、主体的な姿勢

内容

この授業は講義を基本とする。各授業回でリアクションペーパーの記入を求める。そこで出された感想、意見、質問などを全体で共有しながら学びを深めていく。授業内で小グループでのディスカッションを行う場合がある。

1	犯罪とは何か【リアクションペーパー】
2	心理学における主要な犯罪研究【リアクションペーパー】
3	犯罪・非行についての基本的知識（社会的視点）【リアクションペーパー】
4	犯罪・非行についての基本的知識（生物学的・心理学的視点）【リアクションペーパー】
5	犯罪・非行についての基本的知識（発達の視点・被害体験）【リアクションペーパー】
6	犯罪・非行についての基本的知識（被害者および家事事件）【リアクションペーパー】
7	司法・矯正領域における心理学活用の概観【リアクションペーパー】

8	司法・犯罪分野における問題への心理的支援（療法・アプローチ）【リアクションペーパー】
9	司法・犯罪分野における問題への心理的支援（施設における教育）【リアクションペーパー】
10	エビデンスから見た効果的な矯正教育のあり方【リアクションペーパー】
11	司法・犯罪分野における問題への心理的支援（犯罪被害への支援）【リアクションペーパー】
12	犯罪予防（社会的コントロール）【リアクションペーパー】
13	犯罪予防（フォーマル・コントロールとインフォーマル・コントロール）【リアクションペーパー】
14	犯罪予防（今後の日本の方向性）【リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、A4用紙1枚程度にまとめる（各授業に対して30分）。キーワードは授業毎に次の授業について指示する。

【事後学修】授業で取り扱った事柄について、紹介したHP、制度、図書などを参考にして調べ、まとめておく（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

各授業回に行うリアクションペーパー（20%）と筆記試験（80%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．リアクションペーパー（5% / 20%）、筆記試験（20% / 80%）

到達目標2．リアクションペーパー（5% / 20%）、筆記試験（20% / 80%）

到達目標3．リアクションペーパー（5% / 20%）、筆記試験（20% / 80%）

到達目標4．リアクションペーパー（5% / 20%）、筆記試験（20% / 80%）

【フィードバック】各授業回の最初に前回授業で提出されたリアクションペーパーに記された質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。授業毎に資料を配布する。

【推薦書】松浦直己（2015）．非行・犯罪心理学－学際的視座からの犯罪理解－ 明石書店

【参考図書】必要に応じて授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	職場のメンタルヘルス（産業・組織心理学）		
担当教員名	尾崎 健一		
ナンバリング	KAd481		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

会社員、人事担当、組織でのメンタルヘルス対応の経験があり、職場のメンタルヘルスに関して実例を交えながら、講義・演習を進める。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

労働者のストレス、メンタルヘルスについて学び、働く人のストレスとその現状を理解し、自らストレスケアできることを到達目標とする。「健康心理学」や「産業・組織心理学」との関連が強い。

科目の概要

労働者を取り巻く社会の現状、ストレスが心身に及ぼす影響、ストレスとの付き合い方について学ぶ。「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」資格試験に合格する知識と実際のセルフケアスキルを身につけることができる。

授業の方法（ALを含む）

講義のみならず、事例検討，グループワーク，ディスカッション，リアクションペーパーを活用し、能動的気づきに結び付く学修を目指す。

到達目標

- ・働く人の多様なストレスを知り、その悪影響を述べることができる
- ・職場でのストレス場面を具体的にイメージし、自分でも実践できる
- ・メンタルヘルス・マネジメント検定 種の合格レベルの基礎知識を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

-1基本的理念・概念の理解， -2分析的思考， -1興味・関心、主体的な姿勢

内容

講義方針：各回に事例、課題を提示し、個人ワーク、グループワークにより理解を深める。

1	オリエンテーション～労働者のストレスの現状	
2	職場・産業組織分野の制度・法律	【レポート（知識）】
3	産業組織分野の倫理/労働者の作業改善・安全衛生	【討議】
4	職業性ストレスとメンタルヘルス、過労・バーンアウトの防止	【グループワーク】

5	人事・ヒューマンリソースマネジメント	
6	キャリア形成、職業選択、ワークライフバランス	【レポート（表現）】
7	産業組織分野における心理学的アセスメント・ストレスチェック	【レポート（知識）】
8	産業カウンセリング、職場のストレス予防とストレスマネジメント	【討議】
9	職場のダイナミクス、チームワーク、コミュニケーション	【グループワーク】
10	リーダーシップとメンバーの心理、ワークモチベーション、職場適応	【グループワーク】
11	メンタルヘルスケアの意義とそのために必要なこと	【レポート（知識）】
12	セルフケアの実践、気づきと対処、自発的相談、活用できる資源	
13	産業カウンセリングの実際	【レポート（表現）】
14	メンタルヘルス・マネジメント検定対策	【レポート（知識）】
15	まとめ	【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】講義で扱うテキストの該当ページを読んで、重要と思われるキーワードをノートに書きだしておく（60分）。疑問があれば講義中に解決すること。

【事後学修】その回の講義内容とテキスト該当部分を振り返り、講義中に出される課題の答えをまとめる（60分）。次回講義ではその答えを検討材料とする。

評価方法および評価の基準

出席および平常点（20%）、講義内で提示する課題の結果（30%）、筆記試験（50%）で評価し、総合評価の60点以上を合格とする。

到達目標1. 平常点（10%/20%）、課題の結果（10%/30%）、筆記試験（20%/50%）

到達目標2. 平常点（5%/20%）、課題の結果（10%/30%）、筆記試験（10%/50%）

到達目標3. 平常点（5%/20%）、課題の結果（10%/30%）、筆記試験（20%/50%）

【フィードバック】各前回の質問について、講義内で回答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

・大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース（第4版）」中央経済社

・春日未歩子著「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース 過去問題集（2019年度版）」中央経済社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

上記2冊の教科書をもとに講義、グループワークを進める。事前にフジシヨップまたは書店にて購入し、必ず持参すること。（手元にないと演習・ワークができません）

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名			
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に確実に身につけるため、習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で授業を進める。

授業の方法（ALを含む）

各学生の習熟度に合わせて、少人数クラス指導で展開する。

到達目標

- ・心理学を学ぶ上で自分自身の課題を自覚し、取り組むことができる。
- ・科学的な文章を読解し、主題について分析・評価できる。
- ・心理学的な統計の基礎知識を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解
- 3客観的・科学的な解釈
- 2知識・理解を活用する意欲

内容

第1回 授業の概要説明 数学または国語のコース選択の実施

第2回～第14回まではクラスに分かれて下記の内容で展開する。

<数学・基礎クラス>

学科の学修に必要なとなる数学の内容に特化して理解する。

<数学・補充クラス>

数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。

<国語クラス>

心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。

第15回目は各クラスとも、まとめを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分自身の課題を把握して授業に臨む（60分）。

【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする（60分）。

評価方法および評価の基準

平常点3割、総合試験7割とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．平常点(10%)、総合試験(10%)

到達目標2．平常点(10%)、総合試験(30%)

到達目標3．平常点(10%)、総合試験(25%)

【フィードバック】課題はコメントを記入し講義内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】講義中に適宜、紹介する。

【参考図書】中・高等学校で使用した教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

苦手意識を持たず、積極的に講義に参加すること。

科目名	心理学リテラシー		
担当教員名			
ナンバリング	KAe047		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、学生の習熟の程度に合わせきめ細かく指導を行い、心理学を学ぶ基礎となるリテラシーを高めることをねらう授業である。

科目の概要

心理学を学ぶ基礎となるリテラシーの要素として、心理学に関係する文章の正確な読み取りと、統計処理の能力がある。これらを、初年度に確実に身につけるため、習熟の程度に合わせて、コース選択を行い、少人数で授業を進める。

授業の方法（ALを含む）

各学生の習熟度に合わせて、少人数クラス指導で展開する。

到達目標

- ・心理学を学ぶ上で自分自身の課題を自覚し、取り組むことができる。
- ・科学的な文章を読解し、主題について分析・評価できる。
- ・心理学的な統計の基礎知識を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本的理念・概念の理解
- 3客観的・科学的な解釈
- 2知識・理解を活用する意欲

内容

第1回 授業の概要説明 数学または国語のコース選択の実施

第2回～第14回まではクラスに分かれて下記の内容で展開する。

<数学・基礎クラス>

学科の学修に必要なとなる数学の内容に特化して理解する。

<数学・補充クラス>

数学の基礎的な内容から復習し、学科の学修に必要な内容を理解する。

<国語クラス>

心理学に関係する文例を取り上げ、文章を読み取る力をつける。

第15回目は各クラスとも、まとめを行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業のテキストの内容を確認し、自分自身の課題を把握して授業に臨む（60分）。

【事後学修】テキストの確認問題に取り組み、理解をより確実なものとする（60分）。

評価方法および評価の基準

平常点3割、総合試験7割とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．平常点(10%)、総合試験(10%)

到達目標2．平常点(10%)、総合試験(30%)

到達目標3．平常点(10%)、総合試験(25%)

【フィードバック】課題はコメントを記入し講義内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】講義中に適宜、紹介する。

【参考図書】中・高等学校で使用した教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

苦手意識を持たず、積極的に講義に参加すること。

科目名	子どもの発達と環境		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAe248		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

子どもを取り巻く環境に注目して子どもの発達を捉えることをねらいとしているため、基礎となる「発達心理学概論」を履修済であることが望ましい。

科目の概要

子どもは産まれた瞬間から、子どもを取り巻く環境と相互作用しながら発達していく。子どもの発達に重要な環境は、物理的な環境だけでなく、養育者をはじめとする身近な大人や仲間などの人的な環境、また、より包括的な社会環境や文化的背景など、幅広い。また、現代では子どもを取り巻く環境は、大きくそして急速に変化している。本講義では、子どもの発達に重要な様々な環境についてトピック的に取り上げ、発達と環境の相互作用について考察していく。

授業の方法

講義形式の授業に加えてグループでディスカッションをしたり、発表課題を行う。また、毎回ワークシートに記入しながら授業に参加することで、主体的な学びを促す。【リアクションペーパー】【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

学修目標

1. 子どもを取り巻く環境にはどのようなものがあるかを知る。
2. 子どもを取り巻く環境が子どもの発達にどのように関与するのかについて理解を深める。
3. 現代の子どもたちを取り巻く状況に対して問題意識を持って、望ましい環境のあり方を考える。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することが目標とする。

- 4 心理学の理論・概念・技能の理解 -2分析的思考 -3課題発見・解決

内容

講義形式の授業に代えてグループワークや討論を予定している。受講人数によって内容が変更になる場合がある。

1	人間の発達の特異性：子どもの発達をとらえる[リアクションペーパー]
2	子どもの発達における環境との相互作用[リアクションペーパー]

3	親子関係の発達：アタッチメントとは[リアクションペーパー]
4	親子関係の発達：家族というシステム[リアクションペーパー][討論・討議]
5	現在の子育て事情[リアクションペーパー][グループワーク]
6	少子化社会の家族・地域[リアクションペーパー][プレゼンテーション]
7	文化的背景と子育て[リアクションペーパー]
8	言語の発達と環境：前言語期[リアクションペーパー]
9	言語の発達と環境：言語の発生[リアクションペーパー]
10	言語の発達と環境：学校の中での言語[リアクションペーパー]
11	子どもの文化：遊びの中にある学び[リアクションペーパー]
12	子どもとメディア[リアクションペーパー][討論・討議]
13	集団と遊び体験[リアクションペーパー][グループワーク]
14	子どもの発達に資する環境とは[リアクションペーパー][プレゼンテーション]
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】提示されたトピックについて自分の経験を振り返ったり調べたりして考えをまとめておく（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内で紹介した知見や考え方をふまえて、疑問点を調べたり、考察を深めたりすること（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

講義内での課題や小レポート（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）とし、総合得点60点以上で合格とする。

到達目標 1 講義内での課題（10/40） 中間レポート（10/30） 最終レポート（10/30）

到達目標 2 講義内での課題（15/40） 中間レポート（10/30） 最終レポート（10/30）

到達目標 3 講義内での課題（15/40） 中間レポート（10/30） 最終レポート（10/30）

【フィードバック】レポート課題は授業内で講評を行う。中間レポート・最終レポートはコメントを記載して返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【参考図書】授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識を日常的な場面で活用することを意識してグループワークやレポートに取り組むことを望みます。

科目名	認知心理学		
担当教員名	安田 哲也		
ナンバリング	KAe349		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・人間発達心理学科の学位授与方針1・2に該当する。
- ・心理専門科目 (選択必修) および公認心理師対応科目 (知覚・認知心理学) のひとつである。
- ・心理必修科目「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

- ・人間の情報処理のプロセス (感覚・知覚、人間の記憶や注意、思考などの認知機能) について、心理学的なモデルや理論を平易に解説する。
- ・授業では、映像や簡易実験などを用いて、体験的理解を促すと同時に、科学的視点を養う。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・知覚認知心理学の基礎的知識を習得し、認知心理学における研究内容を理解する。
- ・現象のメカニズムモデルや理論を理解し、日常行動との対応関係等を説明できるようになる。
- ・認知心理学における研究法の理解から、問題や課題の発見・研究デザインの考案につなげる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

1	ガイダンス
2	認知の神経的基盤
3	視覚の神経的基盤
4	視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
5	視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
6	認知心理学研究法
7	注意 - 選択的注意
8	注意 - 注意と記憶

9	記憶と学習 - 記憶の構造と理論
10	記憶と学習 - 記憶のプロセス
11	知識表現 - 意味ベースの知識表現
12	知識表現 - 知覚ベースの知識表現
13	思考と言語 - 演繹的推論
14	思考と言語 - 帰納的推論
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（60分程度）

【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（60分程度）

評価方法および評価の基準

中間テスト（2回程度、総合得点の50％）と期末試験（1回、総合得点の50％）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業の最初に、前回の授業の質疑・感想等を取りあげ、学習に対する理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	恋愛と結婚の科学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAe350		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の領域でも親密な異性関係の進展と崩壊について考える。社会心理学の基礎的知識がある程度必要であり、対人関係の心理学、コミュニケーションの心理学などとの関連がある。

科目の概要

社会心理学は、人と人との関係について扱う心理学の分野の1つである。青年期になると同性から異性へと親密な関係が拡大し、恋愛関係への関心も高まっていく。しかし、異性との親密な関係には同性との関係とは異なるルールやコミュニケーション方法、進展と崩壊のプロセス等が存在することが明らかになっている。先行研究で明らかとなっているこれらの結果を実証的なデータを示しながら紹介し、恋愛関係が持つ様々な機能について解説する。また近年、若者の恋愛離れに始まり、未婚や非婚率も増加している。近年の結婚に関する価値観の変化や夫婦関係で生じる問題等についても解説する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心としているが、各授業内で2~3回、テーマに関連した課題について自分の考えをリアクションペーパーに書いてもらい、授業中に意見の共有を行なう。また、授業後にも感想や疑問点を書いてもらい、教員が次の授業でフィードバックを行なう。【リアクションペーパー】

到達目標

- (1) 親密な異性関係特有の心理現象について、社会心理学の知見に基づいた客観的な説明ができる
- (2) 恋愛関係や夫婦関係で生じる問題に興味を持ち、心理学的に明らかにする具体的な方法のアイデアを提案できる
- (3) 恋愛離れが指摘されている世代を対象とした講義であるため、社会環境が自らの親密な関係に与える影響に気づき、講義で得た知識を実生活で活用する方法を探求できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -4「心理学の理論・概念・技能の活用の理解」、 -2「分析的思考」、 -2「知識・理解を活用する意欲」

内容

この講義は講義を基本に、リアクションペーパーを活用した全体共有やディスカッションを取り入れながら、学びを深めて

いく。

1. ガイダンス：恋とは何か？愛とは何か？【リアクションペーパー】
2. 愛を測定する方法【リアクションペーパー】
3. 恋愛のタイプと相性【リアクションペーパー】
4. 恋に落ちる！【リアクションペーパー】
5. 恋する脳 - 男女差に着目して - 【リアクションペーパー】
6. 告白の成功率【リアクションペーパー】
7. 恋する2人の独特な世界【リアクションペーパー】
8. 中間まとめ（ミニテスト）
9. 恋愛関係が破綻する時【リアクションペーパー】
10. 恋愛関係崩壊と新しい関係の探索【リアクションペーパー】
11. 近年の結婚事情 - 結婚する？しない？【リアクションペーパー】
12. 結婚生活と仕事【リアクションペーパー】
13. 夫婦関係と子育て【リアクションペーパー】
14. 夫婦関係のダークサイド（DV、離婚等）【リアクションペーパー】
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会心理学の基礎的知識を、これまで受講した授業の教科書やプリントを基に復習し、ノートにまとめる（各授業に対して30分）

【事後学修】恋愛や結婚に関するニュースやデータ等を収集し、授業で解説された内容の理解を深める（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【到達目標の評価方法】

- (1) 親密な異性関係特有の心理現象について、社会心理学の知見に基づいた客観的な説明ができる（ミニテスト15%、期末テスト30%、平常点5%）
 - (2) 恋愛関係や夫婦関係で生じる問題に興味を持ち、心理学的に明らかにする具体的な方法のアイデアを提案できる（ミニテスト10%、期末テスト10%、平常点5%）
 - (3) 恋愛離れが指摘されている世代を対象とした講義であるため、社会環境が自らの親密な関係に与える影響に気づき、講義で得た知識を実生活で活用する方法を探求できる（ミニテスト10%、期末テスト10%、平常点5%）
- 総じて、期末テスト50%、中間テスト35%、平常点15%により評価を行い、60点以上を合格とする。満たさない場合には、単位は取得できない。

【フィードバック】毎回、リアクションペーパーに返答し、学習理解を深めるようにする。中間テストについては試験終了時に答え合わせをする。中間テストの成績については期末試験前に必ず返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストを購入する必要はない。適宜プリントを配布しながら、講義を進める。ただし、参考書などについては授業を進めながら紹介していく。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

* 可能であれば、対人関係の心理学を受講してから履修することを推奨する

* 恋愛関係や夫婦関係について、小説、映画、漫画、音楽などを題材にとりあげることが多いため、普段から興味を持つことができる学生が望ましい

* 再試験はしない

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAe351		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

SAJスノーボード指導員としての検定と運動学習の理論とを関連付ける

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

心理学科の選択科目である。心や意識、記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく、身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって、からだ」なのである。

科目の概要

「心は脳」と考える立場もあるが、より広く、柔軟に心を考える。

身体との入出力関係がなければ、脳は頭蓋骨に覆われた「タンパク質のかたまり」である。

身体、そして運動が心の礎としていかに機能しているのか、解説していく。

授業の方法 (ALを含む)

ワークシートにある問題に取り組みながら、講義を進める。

毎週1つのトピックについて、実習を交えながら講義を進める。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

【リアクションペーパー】【グループワーク】

到達目標

- より柔軟な視点で人間を観る
- 身体の歴史や構造の基礎知識をもとに、心について深く考える
- 身体運動 (制御と学習) と心理学との関わりから、多様な心の有り様を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4心理学の理論・概念・技能の活用の理解
- 3課題発見・解決、 -4理論・概念・知能・技能の主体的活用

内容

講義を中心とするが。随時、課題を設け、個人・集団で取り組みながら学びを深める。

14、15回を除くすべての講義で【リアクションペーパー】を課す。

予定講義内容

- 1：イントロダクション。心を考えるとときに身体に注目すべき3つの理由
- 2：身体の構造と歴史。二足歩行から考える身体の進化
- 3：心の進化その1。道具の使用。火の使用。言語能力
- 4：心の進化その2。大きな脳の短所と長所。文化的/生物学的遺伝子
- 5：筋骨格系の基礎。骨の代謝・結合・関節。無重力と加齢による筋萎縮
- 6：身体活動と消費カロリー。遅筋と速筋。カロリー計算。NEATと生活習慣【グループワーク】
- 7：運動と食事。体重の恒常性。運動と睡眠。エネルギー代謝と進化
- 8：身体と脳のつながり。視覚優位性。遠心コピー。神経細胞
- 9：脳内ネットワークのシミュレーション。分散表現。教師あり学習。初期値【グループワーク】
- 10：動機づけと心構え。内発的動機。原因帰属。褒め方と心構え
- 11：運動の制御と学習。記憶の分類。技能の定義。運動学習の過程
- 12：運動の発達。学習との違い。PHV年齢。運動能力の発達と運動指導
- 13：身体が心を動かす。利他行為を支える動機と認知。【グループワーク】
- 14：振り返り。こころとからだ。こころはからだ。
- 15：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回講義での優れたエッセイを載せたプリントを予め配布するので、それを精読し、理解や考えを深めておく（各授業について15分）。

【事後学修】講義を通じて1)理解できたこと、2)理解できなかったことや疑問、を文章としてまとめる練習をする（各授業について15分）。

評価方法および評価の基準

毎回の授業でエッセイの提出を求める。到達目標a), b)についてはエッセイで、c)については筆記試験に対する回答で評価する。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、総合評価合計で60%以上を合格とする。【フィードバック】エッセイにはコメントを付け、次の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

ジャービス著、工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については、授業の中で随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	知覚心理学		
担当教員名	安田 哲也		
ナンバリング	KAe352		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科DPの1, 2を満たす。

心理選択科目における選択必修の一つである。心理学の中でも、基礎的な心のはたらきについて扱う。

科目の概要

知覚とは、感覚器官を通して外界からの情報を受け取り、認識する機能である。本講義では、五感の基本的なはたらきを学ぶことで、私たちが知覚している世界についての理解を深める。本講義は、講義資料を用いた講義を行うと共に、逐次グループワークにより、研究から得られた知見を解釈するための議論を行うことを予定している。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- 1) 五感に関わる基本的な神経構造について理解する。
- 2) 人間の知覚特性や、それを測定する実証的方法について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	知覚心理学の概観
2	知覚心理学に用いられる実験手法
3	感覚・知覚の基本的特性
4	視覚の特性
5	錯視の知覚
6	形や運動等の知覚
7	視知覚に関するまとめ
8	聴覚の特性
9	音声コミュニケーションの特徴

10	音声知覚
11	視線知覚
12	顔認知
13	時間知覚
14	マルチモダリティーと知覚
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】逐次、授業内容に関連した配布プリントがあるのでそれを読んでおく[1.0時間]。

【事後学修】授業内容に関する内容についての復習を行う[1.0時間]。

評価方法および評価の基準

平常点（計15点）、中間試験（計25点）、期末試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。配布資料等で行う。

【推薦書】授業内で適宜指示する。

【参考図書】授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	健康心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe453		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

・公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック・大学病院での職員相談室と小児科外来を担当した経験から、各回内容に応じて実践例を紹介しながら授業を進める。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持つが、「基礎心理学」を活用する点では他の応用心理学と変わらない。「臨床心理学」と同様の事例を扱いながら違う手法を用い、かつ多くの身体疾患にも対応する点に注目し理解を深めていく。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム（健康管理組織）・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれる。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴となる。

授業の方法：

本科目では、講義による解説を中心として、授業内外の疑問の解消のため毎回のリアクションペーパーを、知識の定着・確認を図るべく段階に応じたレポートを、それぞれ実施する。【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

到達目標

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解できる。
- 2) 人の心身に隠れている良い資源を発見・活用し、より良い存在へ成長させる技術を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な問題を解決するポイントを評価・実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解 -2 分析的思考 -4 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この授業は座学による講義により理論・技法を学ぶことを基本に、学びを深めていく。

講義内容は「基礎・応用理論」と「査定・支援の実践技法」を一体に学ぶことを目指した一連の内容となり、各内容に応じた臨床例を紹介するため、全ての回に出席することを推奨する。

1	はじめに 講義の進め方
2	健康心理学とは何か 「健康」と「病気」、それを「心理学」で対応する意義を考える 【リアクションペーパー

	】
3	健康心理学におけるアセスメントと支援 健康心理学的アセスメントと支援の方法 【リアクションペーパー】
4	健康心理学の実際 ストレスについて理解を深め、どう対応するかを学ぶ 【リアクションペーパー】
5	健康心理学の実際 健康心理学における心理的支援とその実際 【レポート】
6	医療心理学とは何か 医療における「心理学」の位置づけと役割を理解する 【リアクションペーパー】
7	医療心理学におけるアセスメントと支援 医療心理学的アセスメントと支援の方法 【リアクションペーパー】
8	医療心理学の実際 精神科・心療内科 【リアクションペーパー】
9	医療心理学の実際 小児科、児童精神科 【リアクションペーパー】
10	医療心理学の実際 緩和医療 【リアクションペーパー】
11	医療心理学の実際 産業精神保健 【レポート】
12	地域保健活動 地域の中で心理職が機能するには 【リアクションペーパー】
13	災害心理学 災害化で心理職が機能するためには 【リアクションペーパー】
14	多職種協働と医療連携 医療チームの中で心理職が機能するためには 【レポート】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

テーマごとにレポートを課す（3回×10点＝30点）。筆記試験（期末試験）を70点とする。

総合評価60点以上が合格とする。

到達目標1．レポート（5/30），筆記試験（10点）

到達目標2．レポート（15/30），筆記試験（40点）

到達目標3．レポート（10/30），筆記試験（20点）

【フィードバック】毎回の授業開始時に、前回授業で受けた質疑について学生全体を対象に応答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫 編『公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学』2018
医歯薬出版

【参考図書】 日本健康心理学会 編『健康心理学概論』2002 実務教育出版

小林芳郎 編著『健康のための心理学』2006 保育出版社

森 和代・石川利江・茂木俊彦 編『よくわかる健康心理学』2012 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・公認心理師受験者は必修となる科目です。授業は、2回目以降は毎回、指定教科書を使用します。
- ・合格点に満たない場合は再試験を、公欠・忌引き・交通機関の遅延運休等の場合は追試験を実施します。

科目名	脳と心の科学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe454		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・心理専門科目 (選択必修) および公認心理師対応科目 (神経・生理心理学) のひとつである。
- ・心理必修科目「心理学概論」や「知覚・認知心理学」での理解を踏まえて本科目を履修する必要がある。

科目の概要

- ・神経科学など関連諸分野における実験や臨床 (機能障害、精神疾患など) の研究紹介を交え、人間が外界を認知する情報伝達の神経・生理的仕組みを概説する。
- ・感覚・知覚といった無意識のレベルから、記憶や感情といった意識的レベルまでの生理学的な発生メカニズムを学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

- ・画像や映像、簡易的な実験デモを提示しながら、具体的かつ体験的な理解を促す。
また、受講生自ら課題を発見し探究する力 = 科学的視点も養いたい。
- ・講義を基本に「グループワーク」や「ディスカッション」を適宜取り入れ、思考の交流を図る。

到達目標

- ・脳神経系の構造・機能、および、情報伝達における生理学的機序を理解する。
- ・実験や臨床データに基づき、脳と心の関係を理解を深める。
- ・研究の知見と社会とのつながり (研究成果と社会とのリエゾン) について考察する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 - 実証的・科学的思考
- 2 - 分析的思考
- 3 - 興味・関心、主体的な姿勢

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

1	ガイダンス
2	脳の構造
3	神経の基盤
4	遺伝と環境【グループワーク】
5	知覚機能と脳の関係
6	知覚に関する症例を通して
7	言語と脳の関係【グループワーク】
8	言語に関する症例を通して
9	記憶と脳の関係
10	記憶に関する症例を通して
11	情動と脳の関係
12	情動に関する症例を通して【ディスカッション】
13	コミュニケーションと脳の関係
14	コミュニケーションに関する症例【グループワーク】【ディスカッション】
15	まとめ【グループワーク】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（授業ごとに45分以上）
- 【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（授業ごとに45分以上）

評価方法および評価の基準

- 【評価方法】中間および期末試験・授業時ワーク等の提出物
- 【評価基準】評価方法のなかで到達目標の配分を下記の通り設定し、総合評価60点以上を合格とする
 - ・脳神経系の構造・機能、および、情報伝達における生理学的機序を理解する：50%
 - ・実験や臨床データに基づき、脳と心との関係を理解を深める：30%
 - ・研究の知見と社会とのつながり（研究成果と社会とのリエゾン）について考察する：20%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・1～2年時の心理学関連の必修科目を履修済であること。
また、知覚・認知心理学（2年時～選択科目）を履修済であることが望ましい。
- ・リフレクション（＝振り返り）の時間を設けます。自身の考えをアウトプットしてください。
- ・リフレクションを共有する（＝思考の交流）を通して、理解をより深めてほしいと思います。

科目名	文化と心理学		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

臨床現場での文化的現象について教授する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

心理学や心理療法の観点から文化的現象を解釈して理解する。

本講義はこれまで受けてきた心理学教育を応用して、より高度な学問的施策を行おうとするものである。したがって、これまでの講義について復習をしてから参加することが必須。特にディプロマポリシー 「心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる」を目指す授業

科目の概要

本年度は文化の中でも特にコロナウィルスに伴う社会的変動に関連した講義を行う。つながりによって感染が拡大するコロナウィルスは現在私たちの社会を大きく変化させ、私たちの心に大きな影響を及ぼしている。それは心と心がつながることがケアになるとしていた従来の臨床心理学を考え直させるものだ。オンラインでのカウンセリングはどうなのか、ロックダウンはメンタルヘルスにいかなる影響を及ぼすのか。様々な課題があるので、それをリアルタイムで生きる学生たちと議論していきたい。教員自身も戸惑っているので、一緒に知を鍛えることができれば。そのようにして、これまで学習してきた臨床心理学の基本的前提がどこまで今でも妥当で、どこからは妥当ではないのかを再考する。

授業の方法 (ALを含む)

授業予定に従い、様々な美的現象を取り上げながら、それらを心理学的に理解していくことを試みる。講義の後に毎回クラス内でのディスカッションを行い、理解を高める。

到達目標

心理学や心理療法の観点から、コロナウィルスで生じた問題を理解することができるようになること。特に臨床心理学的視点を、一般文化現象に適用し、自分で意見を言えるようになることを目指す。

具体的には 学生が普段の生活の中のコロナの影響を心理学的にとらえる構えを習得すること、 学生がコロナにかかわる心理学的な知見専門用語について概略を理解すること、 学生が自分なりの言葉でコロナについて語るができるようになること、が目標である。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業では、アクティブラーニングの要素を取り入れるために、トピックの変わり目ごとにグループワークを取り入れ、ディスカッションを促す。

1. イントロダクション コロナ時代の臨床心理学
2. 感染する関係性 つながりを再考する
3. 見通しが立たない 心の健康を再考する
4. 現金給付 生活を再考する
5. ロックダウン 社会を再考する
6. ZOOM 1 カウンセリングを再考する
7. テキストメッセージ 対面を再考する
8. ZOOM 2 自助グループを再考する
9. コロナうつ 病気を再考する
10. コロナ離婚 親密性を再考する
11. コロナ虐待 親子を再考する
12. 生徒のいない学校 スクールカウンセリングを再考する
13. リスクの格差 心理教育を再考する
14. オンラインの心 臨床心理学を再考する
15. まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】文献の該当箇所を読んでくる（各授業につき60分）

【事後学修】現代の心理学的事象について体験してくる（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

毎回のレポート提出20点と、最後の大レポート80点によって評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業末にリアクションペーパーと、Google formを用いて質問や意見などを受付、双方向的な講義を実践する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書 東畑開人 「美と深層心理学」 京都大学学術出版会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	臨床現場の心理学		
担当教員名	青山 有希		
ナンバリング	KAe456		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、これまで学んできた様々な心理学領域のなかでも、とくに臨床現場に特化した心理学を中心に扱う。主に扱う臨床現場は、教育・福祉・発達の3領域である。本科目はこの3領域において、臨床現場での事例をもとにした理解と知識を深める。

科目の概要

現在、心理職者が仕事をしているのは、産業・労働、司法・法務・警察、教育、福祉、医療・保健、私設心理相談、大学・研究所等様々な領域である。そのなかでも、本科目は教育、福祉、発達の3領域の心理学に焦点をあて、事例や実際の心理職者のあり方を理解する。

授業の方法 (ALを含む)

各回のねらいに応じて、自主ワーク・ペアワーク・討議・事例検討を行う。授業の最後にミニレポートを実施する。(ディスカッション・グループワーク・リアクションペーパー)

到達目標

1. 事例へのアプローチ方法を理解し、説明できる。
2. 自分が現場にいたらどのようにアプローチをとるかを考え、説明できる。
3. 他者のアプローチ方法を理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 4 心理学の理念・概念・技能の活用の理解
- 3 課題発見・解決

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション：臨床現場の心理学の学び方
2	身近な心理職について振り返る
3	教育領域における心理 スクールカウンセラー

4	教育領域における心理	緊急対応
5	教育領域における心理	特別支援教育
6	教育領域における心理	教育相談
7	教育領域における心理	適応指導教室
8	教育領域における心理	就学相談
9	発達領域における心理	乳幼児健診（1歳6か月健診・3歳6か月健診）
10	福祉領域における心理	虐待
11	福祉領域における心理	虐待（カンファレンス）
12	福祉領域における心理	虐待（他機関との連携）
13	福祉領域における心理	特別支援学校
14	福祉領域における心理	就労支援
15	ふりかえりとまとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて新聞やニュース等で調べ、ノートにまとめる。（各授業に対して60分）【事後学習】他の学習者や講師の意見等で学びが深まったことをノートにまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業中の参加度およびリアクションペーパー（75%）発表内容（25%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

1. 事例へのアプローチ方法を理解し、説明できる。（授業中の参加度およびリアクションペーパー25%、発表内容10%）
2. 自分が現場にいたらどのようにアプローチをとるかを考え、説明できる。授業中の参加度およびリアクションペーパー25%、発表内容10%）
3. 他者のアプローチ方法を理解し、説明できる。授業中の参加度およびリアクションペーパー25%、発表内容5%）

【フィードバック】毎回、授業の最初に前回授業の質問や他の学習者の学びが深まる意見を伝え、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】講義前半に指示します。

【推薦書】忙しい人のための公認心理師試験対策問題集 上下巻 青山有希・喜田智也・小湊真衣著 明誠書林
その他必要に応じて図書等について、授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	感情・人格心理学		
担当教員名	角尾 美奈		
ナンバリング	KAe282		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

心理学科の選択科目であり、近接領域の様々な科目の基礎となる。公認心理師資格に対応する科目である。

科目の概要

感情・人格心理学は、私たちそれぞれが持つ「その人らしさ」を対象とする学問である。感情や人格について学ぶことは、自分自身のみならず他者への理解を深めることであり、自他の存在を尊重しながら社会生活を構成する態度を養う作業とも言えるだろう。本授業では、感情や人格に関する基礎的・概論的な知識について学修する。

授業の方法（ALを含む）

基本的に講義形式の授業だが、適宜質問を投げかけ、能動的な学修を促す。また、必要に応じ映像を取り入れたり、授業内容に関連した心理尺度なども実施する。【実技】【リアクションペーパー】【レポート】【ミニテスト】

到達目標

1. 感情・人格心理学における基礎的理論や概念を理解し、説明できる。
2. 感情・人格に関する様々な経験について、主観的理解と科学的理解を区別して判断できる。
3. 日常生活での体験や身近な現象に関心を持ち、主体的に調べ考察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解
- 1 実証的・科学的思考
- 1 興味・関心、主体的な姿勢

内容

1	イントロダクション（授業の目的、内容、評価方法等の説明）【リアクションペーパー】
2	感情の基礎【リアクションペーパー】

3	感情の理論 【リアクションペーパー】
4	感情と行動 【リアクションペーパー】
5	感情のコントロール 【実技】【リアクションペーパー】
6	感情の測定 【実技】【リアクションペーパー】
7	まとめ 【ミニテスト】
8	人格の概念 【リアクションペーパー】
9	知的機能の個人差 【リアクションペーパー】
10	人格の形成と変容 【リアクションペーパー】
11	人格の理論 【リアクションペーパー】
12	人格と対人関係 【レポート】
13	感情・人格の障害 【リアクションペーパー】
14	感情・人格とメンタルヘルス 【リアクションペーパー】
15	まとめ 【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回授業で取り上げるトピックについて調べておく（30分）

【事後学修】授業で学修した内容を復習し、知識を定着させ理解を深める（60分）

評価方法および評価の基準

期末試験50%（到達目標1、2を評価）+ミニテスト30%（到達目標1、2を評価）+リアクションペーパー10%（到達目標1～3を評価）+レポート10%（到達目標1～3を評価）により評価する。総合得点60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーとレポートは授業内で返却し全体講評を行う。ミニテストは採点の上返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】【参考図書】適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容は、履修者の状況や授業の進捗状況により多少変更する場合がある。

科目名	知覚・認知心理学		
担当教員名	安田 哲也		
ナンバリング	KAe383		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・人間発達心理学科の学位授与方針1・2に該当する。
- ・心理専門科目 (選択必修) および公認心理師対応科目 (知覚・認知心理学) のひとつである。
- ・心理必修科目「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

- ・人間の情報処理のプロセス (感覚・知覚、人間の記憶や注意、思考などの認知機能) について、心理学的なモデルや理論を平易に解説する。
- ・授業では、映像や簡易実験などを用いて、体験的理解を促すと同時に、科学的視点を養う。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・知覚認知心理学の基礎的知識を習得し、認知心理学における研究内容を理解する。
- ・現象のメカニズムモデルや理論を理解し、日常行動との対応関係等を説明できるようになる。
- ・認知心理学における研究法の理解から、問題や課題の発見・研究デザインの考案につなげる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

1	ガイダンス
2	認知の神経的基盤
3	視覚の神経的基盤
4	視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
5	視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
6	認知心理学研究法
7	注意 - 選択的注意
8	注意 - 注意と記憶

9	記憶と学習 - 記憶の構造と理論
10	記憶と学習 - 記憶のプロセス
11	知識表現 - 意味ベースの知識表現
12	知識表現 - 知覚ベースの知識表現
13	思考と言語 - 演繹的推論
14	思考と言語 - 帰納的推論
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（60分程度）

【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（60分程度）

評価方法および評価の基準

中間テスト（2回程度、総合得点の50％）と期末試験（1回、総合得点の50％）をあわせて、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業の最初に、前回の授業の質疑・感想等を取りあげ、学習に対する理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	健康・医療心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング	KAe484		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

・公認心理師・臨床心理士として、精神科クリニック・大学病院での職員相談室と小児科外来を担当した経験から、各回内容に応じて実践例を紹介しながら授業を進める。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持つが、「基礎心理学」を活用する点では他の応用心理学と変わらない。「臨床心理学」と同様の事例を扱いながら違う手法を用い、かつ多くの身体疾患にも対応する点に注目し理解を深めていく。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム（健康管理組織）・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれる。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴となる。

授業の方法：

本科目では、講義による解説を中心として、授業内外の疑問の解消のため毎回のリアクションペーパーを、知識の定着・確認を図るべく段階に応じたレポートを、それぞれ実施する。【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

到達目標

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解できる。
- 2) 人の心身に隠れている良い資源を発見・活用し、より良い存在へ成長させる技術を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な問題を解決するポイントを評価・実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-4 心理学の理論・概念・技能の活用の理解 -2 分析的思考 -4 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この授業は座学による講義により理論・技法を学ぶことを基本に、学びを深めていく。

講義内容は「基礎・応用理論」と「査定・支援の実践技法」を一体に学ぶことを目指した一連の内容となり、各内容に応じた臨床例を紹介するため、全ての回に出席することを推奨する。

1	はじめに 講義の進め方
2	健康心理学とは何か 「健康」と「病気」、それを「心理学」で対応する意義を考える 【リアクションペーパー

	】
3	健康心理学におけるアセスメントと支援 健康心理学的アセスメントと支援の方法 【リアクションペーパー】
4	健康心理学の実際 ストレスについて理解を深め、どう対応するかを学ぶ 【リアクションペーパー】
5	健康心理学の実際 健康心理学における心理的支援とその実際 【レポート】
6	医療心理学とは何か 医療における「心理学」の位置づけと役割を理解する 【リアクションペーパー】
7	医療心理学におけるアセスメントと支援 医療心理学的アセスメントと支援の方法 【リアクションペーパー】
8	医療心理学の実際 精神科・心療内科 【リアクションペーパー】
9	医療心理学の実際 小児科、児童精神科 【リアクションペーパー】
10	医療心理学の実際 緩和医療 【リアクションペーパー】
11	医療心理学の実際 産業精神保健 【レポート】
12	地域保健活動 地域の中で心理職が機能するには 【リアクションペーパー】
13	災害心理学 災害化で心理職が機能するためには 【リアクションペーパー】
14	多職種協働と医療連携 医療チームの中で心理職が機能するためには 【レポート】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストに目を通し、当該週の学習ポイントを確認しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】板書・プリント・テキストの内容を統合し、学習内容をしっかり身につける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

テーマごとにレポートを課す（3回×10点＝30点）。筆記試験（期末試験）を70点とする。

総合評価60点以上が合格とする。

到達目標1．レポート（5/30），筆記試験（10点）

到達目標2．レポート（15/30），筆記試験（40点）

到達目標3．レポート（10/30），筆記試験（20点）

【フィードバック】毎回の授業開始時に、前回授業で受けた質疑について学生全体を対象に応答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫 編『公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学』2018
医歯薬出版

【参考図書】 日本健康心理学会 編『健康心理学概論』2002 実務教育出版

小林芳郎 編著『健康のための心理学』2006 保育出版社

森 和代・石川利江・茂木俊彦 編『よくわかる健康心理学』2012 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・公認心理師受験者は必修となる科目です。授業は、2回目以降は毎回、指定教科書を使用します。
- ・合格点に満たない場合は再試験を、公欠・忌引き・交通機関の遅延運休等の場合は追試験を実施します。

科目名	神経・生理心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAe485		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

- ・心理専門科目 (選択必修) および公認心理師対応科目 (神経・生理心理学) のひとつである。
- ・心理必修科目「心理学概論」や「知覚・認知心理学」での理解を踏まえて本科目を履修する必要がある。

科目の概要

- ・神経科学など関連諸分野における実験や臨床 (機能障害、精神疾患など) の研究紹介を交え、人間が外界を認知する情報伝達の神経・生理的仕組みを概説する。
- ・感覚・知覚といった無意識のレベルから、記憶や感情といった意識的レベルまでの生理学的な発生メカニズムを学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

- ・画像や映像、簡易的な実験デモを提示しながら、具体的かつ体験的な理解を促す。
また、受講生自ら課題を発見し探究する力 = 科学的視点も養いたい。
- ・講義を基本に「グループワーク」や「ディスカッション」を適宜取り入れ、思考の交流を図る。

到達目標

- ・脳神経系の構造・機能、および、情報伝達における生理学的機序を理解する。
- ・実験や臨床データに基づき、脳と心の関係を理解を深める。
- ・研究の知見と社会とのつながり (研究成果と社会とのリエゾン) について考察する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 - 実証的・科学的思考
- 2 - 分析的思考
- 3 - 興味・関心、主体的な姿勢

内容

講義を基本に、グループワークやディスカッションを適宜取り入れ、思考の交流を図る。

1	ガイダンス
2	脳の構造
3	神経の基盤
4	遺伝と環境【グループワーク】
5	知覚機能と脳の関係
6	知覚に関する症例を通して
7	言語と脳の関係【グループワーク】
8	言語に関する症例を通して
9	記憶と脳の関係
10	記憶に関する症例を通して
11	情動と脳の関係
12	情動に関する症例を通して【ディスカッション】
13	コミュニケーションと脳の関係
14	コミュニケーションに関する症例【グループワーク】【ディスカッション】
15	まとめ【グループワーク】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】事前に指示した課題（調べもの、配布プリントを読むなど）に取り組む（授業ごとに45分以上）
- 【事後学修】確認テストなどを通して復習（自身の理解に対するふりかえり）を行う（授業ごとに45分以上）

評価方法および評価の基準

- 【評価方法】中間および期末試験・授業時ワーク等の提出物
- 【評価基準】評価方法のなかで到達目標の配分を下記の通り設定し、総合評価60点以上を合格とする
 - ・脳神経系の構造・機能、および、情報伝達における生理学的機序を理解する：50%
 - ・実験や臨床データに基づき、脳と心の関係を理解を深める：30%
 - ・研究の知見と社会とのつながり（研究成果と社会とのリエゾン）について考察する：20%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

授業で使用するパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントして授業時に必ず持参すること。

【参考図書・推薦図書】必要に応じて、授業のなかで適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・1～2年時の心理学関連の必修科目を履修済であること。
また、知覚・認知心理学（2年時～選択科目）を履修済であることが望ましい。
- ・リフレクション（＝振り返り）の時間を設けます。自身の考えをアウトプットしてください。
- ・リフレクションを共有する（＝思考の交流）を通して、理解をより深めてほしいと思います。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAf157		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

教育委員会の常設委員会委員および公立小中学校の学校評議員・学校運営協議会委員としての実務経験を生かし、教師の職務遂行に必要な心理学的知見の解説と活用方法を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目「教育・保健科目」領域に配置された選択科目である。初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す。同時に、養護教諭教職課程における教職に関する科目のうちの教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。特別な支援を必要とする児童生徒の理解についても扱う。受講生は指導のもとに学修活動に取り組む学生であるが、授業では「教える」「学ばせる」「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育活動や指導職務をとらえる視点を育むことも目指す。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心として、リアクションペーパーおよびグループワークを取り入れた授業を行う。

到達目標

到達目標 1 . 教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解する

到達目標 2 . 教育心理学的な考え方や知識に基づいて、個々の児童生徒を理解していく手法を考える

到達目標 3 . より良い学習活動を展開するための工夫や特別な支援のあり方を、学修内容にもとづいて、具体的に作り出すことができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 : 基本的理論・概念の理解、 - 2 : 分析的思考、 - 4 : 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

- 1 . 教育心理学と学校教育
- 2 . 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求【グループワーク】
- 3 . 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 4 . 学習の基礎理論【リアクションペーパー】
- 5 . 教授学習における学習理論
- 6 . 協同学習の理論と実践 【グループワーク】

7. 学級の心理学【リアクションペーパー】
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価【リアクションペーパー】
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定【グループワーク】
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育【リアクションペーパー】
15. 学習のまとめと確認

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

2～14回 各授業回に示された事項についてテキストを読んで概要を認識する [20分]。15回 本科目での学修を振り返り、獲得した知識や技法を適切に活用できるようにしておく [90分]。

【事後学修】

1回 心理学に対する自己の素朴な認識と学修内容の差違を明確にする [20分]。2～3回 やる気を高めるの教師の取り組みや心構えを文章にまとめる [40分]。4～5回 できるようになることの仕組みを文章にまとめる [40分]。6～8回 授業運営と学級経営に重要な事項を文章にまとめる [40分]。9回 評価と指導の表裏一体の意義を文章にまとめる [40分]。10～14回 児童生徒を多面的に理解する方法を文章にまとめる [40分]。15回 本科目で学び得たものを振り返る。 [20分]

評価方法および評価の基準

授業内課題（リアクションペーパーなど）への取り組み(15%)、まとめの筆記試験(85%)を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 授業内課題(5 % / 15 %)、まとめ試験(30% / 85%)

到達目標 2 . 授業内課題(5 % / 15 %)、まとめ試験(25% / 85%)

到達目標 3 . 授業内課題(5 % / 15 %)、まとめ試験(30% / 85%)

【フィードバック】授業内課題は授業内で全体に対してコメントする、まとめの筆記試験については必要に応じて評価結果を返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 櫻井茂男（編）『改訂版・たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの生活と保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf358		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

病院・学校での実務経験を活かし、臨床に沿った内容で講義展開をしていく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置し、心理学領域に加え、自らおよび周囲の人々の心と身体の健康を保持増進するために、専門的な知識・技能を習得し、それらを活用しようとする意欲を育成することを修得する。

科目の概要

本講義は、子どもの健康を守る生活や環境について、乳幼児期から児童期に分けて段階的に学ぶ。
この講義を受講することで、妊娠時から子どもの健康を守る視点を持ち、子どもの成長発達に伴う身体的特徴や病気・事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケアについて習得することができる。

授業の方法（ALを含む）

本科目は基礎的知識の講義の他に【ロールプレイ】や【プレゼンテーション】、【実技】を通し体験的な授業を行う。

到達目標

- ・乳幼児期から児童期までの発育・発達について理解できる。
- ・基本的な子育ての技術を習得できる。
- ・子どもが健康に成長できる環境について考えることができる。
- ・子どもの病気や事故について理解し、対応ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1実証的・科学的思考
- 3課題発見・解決
- 4理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

本講義では実技演習も行います。そのため受講生が多数の場合は受講人数を制限（40名以内）します。

1	オリエンテーション、子どもの生活と保健とは
2	子どもの成長発達（形態機能の発達）

3	子どもの成長発達（生理機能の発達）
4	子どもの成長発達（脳神経・運動機能の発達）
5	乳児と栄養（調乳と離乳食）【実技】
6	乳児の生活と養護（抱っこ・衣服・排泄）【実技】
7	乳児の生活と養護（沐浴実習）【実技】
8	乳児の生活と養護（沐浴実習）【実技】
9	子どもの病気と看護（小児感染症）
10	子どもの病気と看護（子どもによくみられる症状に対する看護）【ロールプレイ】
11	グループワークプレゼンテーション（子どもの発達・しつけに関するテーマ）【プレゼンテーション】
12	グループワークプレゼンテーション（子どもの育児環境と社会問題に関するテーマ）【プレゼンテーション】
13	子どもの応急手当【実技】
14	子どもの安全管理【実技】
15	妊娠・出産・育児を取り巻く環境と保健サービス、まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次週の内容についてこれまでの経験や学習をふまえて疑問に感じていること等をノートに整理しておく（60分）。授業内で問いかけ応じられるように準備する。

【事後学修】単元ごとに授業で得た知識をふまえて乳幼児を観察し、そこでの気付きについてノートに記載する（60分）。さらに育児中の母親の想いについて考え、記載する。

評価方法および評価の基準

グループワーク等を行うので積極的に参加し意欲的に取り組むこと。到達目標の評価は、講義への参加状況20%、プレゼンテーション20%、レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑に返答し、学習理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大西文子編著「子どもの保健演習」中山書店

【推薦書】巷野悟郎監修「最新 保育保健の基礎知識」日本小児医事出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため受講者の積極的な参加を望みます。

科目名	生徒指導		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAf459		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

公立中学校のスクールカウンセラーとして3年間勤務

実務経験および科目との関連性

公立中学校での勤務経験が授業内容に活かされる

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科生の教職科目の1つで、必修科目である。また学位授与方針の2「心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける

科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

授業の方法（ALを含む）

毎回の授業はパワーポイントによる講義を中心に行う。また授業のふりかえりと感想や疑問について教員学生間で共有するために、グーグルフォームもしくは紙媒体の相互コミュニケーションツールを用いてアクティブラーニングを行う。

到達目標

生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1. 専門教育で習得した心理学の理論・概念・技能を生活で活用していく方法を理解できる
2. 心理学全般または主な領域（発達、臨床、社会、生活、教育、保健）のうち特定領域に対して興味・関心をもち、自ら調べ考えようとする態度を備えることができる
3. 制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における課題を見出すとともに、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもちいて、その解決に臨む意欲をもつことができる

内容

1	1. はじめに（学生の小中学校時の生徒指導上の体験）
2	2. 生徒指導で児童生徒につけたい力とは

3	3 . 生徒指導上の問題発生時の指個別指導とは
4	4 . 生徒指導上の問題発生時の集団指導とは
5	5 . 生徒指導上の問題の再発防止、予防的指導、組織的な指導とは
6	6 . 生徒指導のねらいである、健全な成長を促すための指導とは
7	7 . 「生徒指導は児童理解に始まり、児童理解に終わる」とは
8	8 . 生徒指導を活かした、より良い授業の在り方とは
9	9 . 生徒指導を活かした、授業以外の場面での指導の在り方とは
10	10 . 教師による「懲戒」と「体罰」とは
11	11 . いじめ問題の対応とは
12	12 . 保健室経営に係る生徒指導上の課題とは
13	13 . 担任や学年との連携の在り方とは
14	14 . 埼玉県の生徒指導上の施策と学校・家庭・地域とは
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】主体的な学びに向け、教科書の予習を行い、不明な用語などについては予め調べておくこと（各授業90分）

【事後学習】パワーポイント等の授業教材を復習し、理解が不十分であることについては各自で調べてノートなどにまとめておくこと（各授業90分）

評価方法および評価の基準

試験60%、平常の参加態度、出席日数、提出物で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業後に行う小レポートに基づいて、次回冒頭でフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生きる力を育む生徒指導」平成30年4月 藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子・市川雄一郎（編） 福村出版

「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省 以下URLからダウンロード可能である。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm

書籍購入の場合は、教育図書から¥298で販売されている。Amazon等で購入できる。

いずれの教科書も授業中に参照できるように各自準備すること。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

覚悟をもち、主体的に学ぶことを求めます。

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAf460		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

カウンセラーとして教育現場に従事していた経験をもとに、教育相談の理論や技法について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

近年、学校現場では、不登校やいじめ、校内暴力といった問題に加えて、発達障害や小児うつ、心身症など心理学的課題も増加している。それらに適切に対処するためには、教育相談に係る基本的知見の獲得が求められる。そこで、本科目は教育・保健領域の1科目として「生徒指導」等と関連させながら児童生徒への教育相談活動について学ぶ。

科目の概要

教育相談の理論や技法に関する基礎的知識について、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学ぶ。また、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

本講義では、講義による解説を中心として、各授業回に感想や疑問点、要望等の提出を求め、次回にフィードバックを行う。また、実際の事例を教材として対応方法について検討を行う。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】

到達目標

- ・学校教育における教育相談の重要性を認識する。
- ・児童生徒を指導するために身につけておくべきカウンセリング理論や技法などの基礎知識を習得する。
- ・個々の児童生徒の状況を把握し評価するための基礎知識を習得する。
- ・地域・社会・家庭との連携について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 心理学の理論・概念・技能の活用の理解、
- 2- 分析的思考、
- 3- 課題発見・解決

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	教育相談の歴史と今日的課題【リアクションペーパー】
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割【リアクションペーパー】

3	相談援助における児童生徒の理解【リアクションペーパー】
4	児童期的人格形成と適応【リアクションペーパー】
5	思春期・青年期的人格形成と適応【リアクションペーパー】
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論【リアクションペーパー】
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法【リアクションペーパー】
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障害【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応【リアクションペーパー】【ケースメソッド】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】予告した次回の講義内容について、関連図書などで事前学習をする。(各授業に対して60分)

【事後学修】学習した知識の定着を行い、実際場面での活用方法についてまとめる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への取り組みおよび課題(30%)、筆記試験(70%)、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への取り組みと課題(5%)、筆記試験(15%)

到達目標2．授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(30%)

到達目標3．授業への取り組みと課題(10%)、筆記試験(15%)

到達目標4．授業への取り組みと課題(5%)、筆記試験(10%)

【フィードバック】提出されたレポート等は、翌週以降の授業内にフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

小林正幸他編 「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ 2008

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

・合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

・専門用語の使用が多いため、自己学習を要することがあります。

・ケース検討などへの参加態度も評価の対象とします。まじめに取り組まましょう。

科目名	学校保健		
担当教員名	岡山 睦美		
ナンバリング	KAf161		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭として現場経験のある教員が学校保健の実務に沿った講義を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

科目の概要

学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心に、小グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う。【ミニテスト】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

学校教育における学校保健の意義や機能について説明できる。

学校保健における基礎的事項について述べることができる。

学校保健における養護教諭の役割について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基礎理念・概念の理解

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク・プレゼンテーションを取り入れながら学びを深めていく。

1	学校教育と学校保健
2	現代における子どもの健康問題【グループワーク】
3	学校保健の歴史とヘルスプロモーション

4	学校保健の意義と関連法規
5	学校保健経営計画と学校保健計画【グループワーク】
6	子どもの発育発達と学校保健
7	健康観察の意義と方法【ロールプレイング】
8	健康診断の意義と方法
9	養護教諭が行う健康相談【小テスト】
10	健康教育の内容と意義
11	学校における疾病の管理と学校感染症予防
12	学校安全の概要と学校安全計画【プレゼンテーション】
13	学校環境衛生
14	学校保健組織活動の目的と内容【小テスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に示してあるテキストの章を読み、理解しておく。[60分]

【事後学習】授業中に指示したテキストの練習問題を解く。[60分]

評価方法および評価の基準

学校教育における学校保健の意義や機能について説明できる。[筆記テスト20%、平常点10%]

学校保健における基礎的事項について述べることができる。[筆記テスト20%、レポート10%、平常点10%]

学校保健における養護教諭の役割について説明できる。[筆記テスト20%、平常点10%]

【フィードバック】提出されたレポート・試験は翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東山書房 養護教諭必携シリーズ 新版学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション

【推薦書】南山堂 学校保健マニュアル

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

科目名	健康相談活動		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf462		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭・看護師の実務経験がある教員が担当し、学校現場に即した講義内容を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

専門教育で習得した理論・概念・知識・技術により、生活支援能力や身体のケア能力を身につける。具体的には子どもの健康問題に関して、医学的な知識をもとに発達心理学で学んだ知識・技能も活用しながら心身の問題に対して、的確なアセスメント及び支援能力を身につける。

科目の概要

「学校保健」「養護概説」で学んだ健康相談に関する答申や法律、養護教諭の職務の特質、健康相談のプロセス等を再度確認する。その上で養護教諭として子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントの視点、対応方法を演習に取り入れながら学習する。さらに、学級担任や保護者との連携方法も演習を取り入れながら具体的に学習をする。

授業の方法（ALを含む）

学校現場で起こる問題に対して、解決策を検討し、対応を具体的に学ぶPBL方式にて授業を展開する。【PBL】

到達目標

- 到達目標1. 健康相談の基本的なプロセスを理解できる
- 到達目標2. 各事例に応じて子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントができる
- 到達目標3. 健康相談を行う際の対応方法を考えることができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3養護教諭としての知識・技能
- 4心理学の理論・概念・技能の活用の理解
- 4理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

1	健康相談の重要性と法的根拠（講義とGW）
2	学校における健康相談の基本的事項（講義）

3	学童期における心身の健康問題の特徴（講義とGW）
4	青年期における心身の健康問題の特徴（講義とGW）
5	健康相談における養護教諭、学級担任、学校医等の役割（講義とGW）
6	健康相談のプロセス1 問題の把握 アセスメント（GWと全体討議）
7	健康相談のプロセス2 アセスメント 対応（GWと全体討議）
8	健康相談における基本的な技術及び留意点（講義）
9	PBL 課題解決型学習の解説
10	役割演技による相談の実際（PBL1）【PBL】
11	役割演技による相談の実際（PBL2）【PBL】
12	役割演技による相談の実際（PBL3）【PBL】
13	学校における健康相談の進め方と支援体制づくり（全体討議）
14	事例検討会の進め方と実際（GW）
15	まとめ（試験）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】2年次までに取得している「養護概説」の健康相談に関する内容をまとめておくこと。毎時間1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】関連科目とのつながりも含めて授業で学んだことをまとめる。1時間程度の復習が必要である。

評価方法および評価の基準

筆記試験7割、演習に対する取り組み課題を3割として総合評価60点以上を合格とする。到達目標1～3.課題レポート提出（各10%/30%）、筆記試験（70%）【フィードバック】講義内で提示する課題はコメント記入し、次回の講義で返却をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】講義内で提示する。

【参考図書】「教職員のために子どもの健康相談及び保健指導の手引」文部科学省 平成23年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

養護教諭一種免許状取得に必要な科目である。免許取得希望者は履修すること。

総合評価60点未満の場合は再試験を実施する。再試験の日程はLive Campusにて通知する。

科目名	免疫学		
担当教員名	ハク ランラン		
ナンバリング	KAf163		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理に関する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー・免疫学講義 (日本図書館協会推薦図書)」によって学ぶ。

科目の概要

免疫とアレルギーについて教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド (PowerPoint) で説明する。尚使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク【フォルダUドライブ】に開示して学習の参考に供する。

授業の方法は講義形態

授業内容をより分かりやすいように例を用いて説明する。
外国の生活環境・習慣で異なる免疫力ができることについての情報の提供をする。
中間筆記テストと期末筆記テスト、かつ授業の積極的な態度に基づく評価を行う。

到達目標

- 免疫とアレルギーの基礎を理解することを学修目標とする。
1. 高校で学んだ免疫とアレルギーの知識を整理することができる。
 2. 免疫とアレルギーの歴史について理解することができる。
 3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶことができる。
 4. 感染症とワクチンについて理解することができる。
 5. 免疫異常とアレルギー型別について学ぶことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、心理学科の免疫とアレルギーの基礎の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1. 基本的理念・概念の理解
- 4. 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容	
1	I部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2	自然免疫システム

3	免疫を担当する器官と細胞
4	獲得免疫システム
5	サイトカイン・エフェクター細胞
6	感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7	II部：免疫異常・アレルギー。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患
8	アレルギー・アナフラキシー
9	アレルギー対策・予防・検査法
10	アレルゲン
11	花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー
12	アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹
13	小児アレルギー・気管支喘息
14	食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス
15	職業アレルギー・心理免疫アレルギー。まとめ。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】「チェックポイント」の全体把握。セルフチェック問題集A選択問題予習。学内LANパワーポイント予習。

所要時間は30分。

【事後学修】「復習」の内容把握。「研究課題」解答。セルフチェック問題集B記述問題解答。学内LANパワーポイント解説。所要時間は15分。

評価方法および評価の基準

中間筆記テスト（40点）、期末筆記テスト（40点）、授業態度（20点）によって評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（2007）

【推薦書】扇元敬司 訳、K.Vedhara, M. Irwin著「心理免疫学概論」川島書店（2008）

扇元敬司 著「やさしいバイオのための微生物学」講談社（2012）

扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

合格点に満たなかった場合は課題に関するレポートに基づき評価を行う。

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAf466		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

養護教諭として現場経験のある教員が実際に環境衛生検査など実務に沿った講義内容で展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている選択科目である。

教員免許取得希望者、社会福祉主事任用資格取得希望者を中心として授業を進める。

科目の概要

公衆衛生は「公の衆の生を衛る」という意味であり、集団における健康を社会や環境との関連の中で、疾病の予防と健康の保持・増進を図るためにはどうするかを考えていく学問である。

健康と疾病との関係について予防対策を軸に、関連統計情報や社会的報道等を資料として、教員や社会福祉主事になった際に応用できる身近な学問としての公衆衛生学を展開していく。

授業の方法（ALを含む）

本講義は講義で得た知識や技術、方法を学生が実際に行うことを通じて学びを深めていく【実技・実験】

到達目標

- ・健康とはどのような状態であるか説明できる。
- ・健康づくりのための予防医学の方策を具体的に説明できる。
- ・保健統計の数値とその意義を適切に説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 養護教諭としての知識・技能
- 5 客観的・理論的解釈
- 3 課題発見・解決

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク・実験を取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション 公衆衛生学序論
2	保健統計
3	保健統計
4	疫学

5	疾病予防と健康管理（グループワーク）
6	疾病の予防
7	疾病の予防
8	健康政策と衛生行政
9	環境保健【実験・実技】
10	環境保健【実験・実技】
11	母子保健・学校保健
12	産業保健
13	高齢者保健
14	国際保健医療
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新聞やニュースなどの官公庁が発表する公衆衛生データを読んでおくこと（60分）

【事後学修】授業の理解と定着のために毎授業ごとにノート整理等の短時間の復習が必要（60分）

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法は、授業への参加と筆記試験により評価する。授業への参加度20%、筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】提出されたレポート・試験はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】シンプル衛生公衆衛生学2021（南江堂）

講義に応じたプリントをその都度配布する。

【推薦書】厚生労働統計協会「国民衛生の動向」

【参考図書】高校で使用した保健体育科の教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点未満の場合は再試験を実施する。実施日・教室等はLive Campusの授業連絡にて行う。

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf367		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護学の概論を講義するものであり、臨床現場での実践を踏まえ、看護について科学的根拠をベースに講義展開をする

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護支援の基礎的知識を学習する。

授業の方法（ALを含む）

この授業は講義を基本に、個人ワークと討論も適宜盛り込み進めていく。【リアクションペーパー】【グループワーク】

到達目標

- 1．看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
- 2．看護における観察の意味について説明できる。
- 3．日常生活において、人間のニード充足のための看護支援が理解できる。
- 4．体調の不調を訴えた際の基本的な看護支援が説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3養護教諭としての知識・技能、 -1実証的・科学的志向、 -1興味・関心、主体的な姿勢

内容

1	看護の本質と看護の対象【リアクションペーパー】
2	人間の尊厳と健康【リアクションペーパー】
3	疾病予防と看護【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	看護における観察【リアクションペーパー】
5	日常生活における看護 安楽と環境調整と睡眠・休息【リアクションペーパー】
6	日常生活における看護 栄養・食事と排泄【リアクションペーパー】
7	日常生活における看護 身体の清潔保持【リアクションペーパー】

8	看護学概論（総論）のまとめ
9	不調を訴えた人への看護 発熱、痰・咳、呼吸困難のある人への看護【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	不調を訴えた人への看護 嘔気嘔吐、排便障害のある人への看護【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	不調を訴えた人への看護 脱水のある人への看護と熱中症の予防と対策【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	不調を訴えた人への看護 浮腫、腫脹、褥瘡のある人への看護【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	不調を訴えた人への看護 発疹のある人、アナフィラキシーの人への看護【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	不調を訴えた人への看護 疼痛のある人への看護【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	看護学概論（各論）のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定の単元に関して教科書を読み、ノートにまとめ、授業中の問いかけにこたえられるように準備しておく（1時間）。日頃から健康に関するTV番組（授業中に指示）を見て、関連の知識を深めておく。

【事後学修】配布した資料を独自のノートに貼付しコメントをつけ整理し授業を振り返る（90分）。

評価方法および評価の基準

授業の参加貢献（10点）、2回の筆記試験（45点+45点＝90点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.参加貢献（1/10）、2回の筆記試験（10/90）

到達目標2.参加貢献（1/10）、2回の筆記試験（10/90）

到達目標3.参加貢献（4/10）、2回の筆記試験（30/90）

到達目標4.参加貢献（4/10）、2回の筆記試験（40/90）

【フィードバック】授業の初めに質疑に対する返答をし、学習理解を促す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】萱場一則編著 『暮らしの看護』建帛社

【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』ニューヴェルヒロカワ

坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』ニューヴェルヒロカワ

薄井坦子著 『科学的看護論』日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、後期の「看護援助方法」の前提条件としています。履修を予定している学生は、本科目単位を修得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

本科目は総合評価が60点未満の場合は再試験を実施しますが、その際は筆記試験のみの点数で60%以上の獲得で合格とします。

本科目で配布した資料と教科書を照らし合わせて、自作の学習ノートをつくりましょう。今後の看護系の授業にも役に立ちます。

解剖生理学の復習もしておくと、より看護学概論がわかりやすくなりますのでお勧めします。

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf368		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

授業内容の単位によっては、看護師として臨床で経験した事例を個人情報保護のもと紹介し、リハビリテーションについて理解を深めていく

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

本学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられ、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。また、他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を發揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式を基本とするが、DVD等を視聴し、内容についての意見交換も行き、学びを深めていく。【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート (表現)】

到達目標

1. リハビリテーションの理念について説明することができる。
2. 障がいの受容プロセスについて説明することができる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLについて説明することができる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割について説明することができる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5客観的・抽象的解釈、 -1興味・関心、主体的な姿勢、 -3課題発見・解釈

内容

本授業は講義形式を基本とするが、DVD等を視聴し、内容について意見交換も行き、学びを深めていく。

1	リハビリテーションとは【リアクションペーパー】
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	障がいの概念とリハビリテーション【リアクションペーパー】

4	障がいの受容過程【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	ライフサイクルと【リアクションペーパー】
6	死別とグリーフワーク【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識【リアクションペーパー】
8	子どものリハビリテーション 障がい児のきょうだい支援【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	子どものリハビリテーション 脳性麻痺【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
10	子どものリハビリテーション 発達障害【リアクションペーパー】
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害【リアクションペーパー】
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	地域におけるリハビリテーション【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	リハビリテーションのまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定の単元に関して教科書を読み、ノートにまとめ授業中の問いかけに応えられるように準備しておく（60分）。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにして、知識を深めておく。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておく（60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（20点）、レポート（10点）、筆記試験（70点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.参加状況（4/20）、筆記試験（10/70）

到達目標2.参加状況（4/20）、筆記試験（10/70）

到達目標3.参加状況（4/20）、レポート（10/10）、筆記試験（20/70）

到達目標4.参加状況（4/20）、筆記試験（10/70）

到達目標5.参加状況（4/20）、筆記試験（20/70）

【フィードバック】授業の初めに前回授業のリアクションペーパーの内容を紹介してコメントしたり、質問に回答し、学習理解が深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

今年は東京オリンピック、パラリンピックがあります。授業が開講されている前期は、障がい者スポーツ当の特番などTVで紹介される機会が多くあります。是非視聴して、障がいのある方々のパワーと彼らに寄り添うということはどういうことなのか、学生としてできる支援は何か考えてみて下さい。

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護を具体的に展開するためのスキルを学ぶ科目であり、臨床現場での実践を踏まえた講義展開をする

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護支援技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本に、実技演習も行い技術の習得を目指します。【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントを適切に行うことができる。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3養護教諭としての知識・技能、 -5客観的・論理的解釈、 -3課題発見・解決

内容

1	看護技術とは【リアクションペーパー】
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）【リアクションペーパー】
3	バイタルサイン（体温・意識）【リアクションペーパー】
4	バイタルサイン（測定実習）【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	フィジカルアセスメント（総論）【リアクションペーパー】
6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）【リアクションペーパー】

7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）【リアクションペーパー】
8	感染防御（基礎知識）【リアクションペーパー】
9	感染防御（滅菌消毒方法）【リアクションペーパー】
10	感染防御（消毒薬の用途）【リアクションペーパー】
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】
12	看護過程とSOAP【リアクションペーパー】【実技】
13	多様な急性期症状のアセスメント【リアクションペーパー】
14	救急時の対応【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】
15	看護援助方法のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になる。単元ごとに教科書をよく読んで、疑問点をピックアップして、授業に参加する（60分）。

【事後学修】配布された資料等を独自のノートに張り付けて、学びノートを作成する（90分）。

評価方法および評価の基準

平常点（10点）、レポート（10点）、2回の筆記試験（40点+40点=80点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1. 平常点（2/10）、レポート（10/10）、筆記試験（20/80）

到達目標2. 平常点（3/10）、筆記試験（20/80）

到達目標3. 平常点（2/10）、筆記試験（20/80）

到達目標4. 平常点（3/10）、筆記試験（20/80）

【フィードバック】授業の初めに質疑に対する返答をし、学習理解を促す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』 東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできません。また、「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

配布した資料と教科書を照らし合わせて、自作の学習ノートを作りましょう。看護系の授業や今後の養護教諭として実践の場で役に立ちます。

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf369		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護を具体的に展開するためのスキルを学ぶ科目であり、臨床現場での実践を踏まえた講義展開をする

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護支援技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本に、実技演習も行い技術の習得を目指します。【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントを適切に行うことができる。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護過程が展開できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3養護教諭としての知識・技能、 -5客観的・論理的解釈、 -3課題発見・解決

内容

講義を基本に、実技演習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」の単位を修得していない学生は、この科目は履修できない。

1	看護技術とは【リアクションペーパー】
2	バイタルサイン（呼吸・脈拍・血圧）【リアクションペーパー】
3	バイタルサイン（体温・意識）【リアクションペーパー】
4	バイタルサイン（測定実習）【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	フィジカルアセスメント（総論）【リアクションペーパー】

6	フィジカルアセスメントと看護（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）【リアクションペーパー】
7	フィジカルアセスメントと看護（各論：胸部・腹部・四肢・脳神経）【リアクションペーパー】
8	感染防御（基礎知識）【リアクションペーパー】
9	感染防御（滅菌消毒方法）【リアクションペーパー】
10	感染防御（消毒薬の用途）【リアクションペーパー】
11	感染防御（嘔吐物の処理実習）【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】
12	看護過程とSOAP【リアクションペーパー】【実技】
13	多様な急性期症状のアセスメント【リアクションペーパー】
14	救急時の対応【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】
15	看護援助方法のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前期の「看護学概論」と比べると、より専門的になる。單元ごとに教科書をよく読んで、疑問点をピックアップして、授業に参加する（60分）。

【事後学修】配布された資料等を独自のノートに張り付けて、学びノートを作成する（90分）。

評価方法および評価の基準

平常点（10点）、レポート（10点）、2回の筆記試験（40点+40点=80点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1. 平常点（2/10）、レポート（10/10）、筆記試験（20/80）

到達目標2. 平常点（3/10）、筆記試験（20/80）

到達目標3. 平常点（2/10）、筆記試験（20/80）

到達目標4. 平常点（3/10）、筆記試験（20/80）

【フィードバック】授業の初めに質疑に対する返答をし、学習理解を促す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】山内豊明監修『保健室で役立つステップアップ フィジカルアセスメント』 東山書房
日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

【参考図書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社
植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできません。また、「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

配布した資料と教科書を照らし合わせて、自作の学習ノートを作りましょう。看護系の授業や今後の養護教諭として実践の場で役に立ちます。

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf470		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

授業は小児看護学を専門としたものであり、臨床経験や看護教員経験が大いに関わる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

人間発達心理学科の専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護支援を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

授業の方法（ALを含む）

講義形式を基本に進めていくが、個人ワークとグループディスカッションを適宜盛り込み、学びを深めていく。【リアクションペーパー】【グループワーク】【ミニテスト】

到達目標

1. 学校感染症の特徴と看護について説明できる。
2. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と看護について説明できる。
3. 子どもの主な慢性疾患の病態と看護について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 養護教諭としての知識・技能、
- 1 興味・関心、主体的な姿勢、
- 4 理論・概念・知識・技能の主体的な活用

内容

1	子どもの身体の解剖生理（筋骨格・目・耳・歯）【リアクションペーパー】【ミニテスト】
2	子どもの身体の解剖生理（内臓の生理機能）【リアクションペーパー】【ミニテスト】
3	子どもの身体の解剖生理（脳神経の生理機能）【リアクションペーパー】
4	学校感染症（第1種）【リアクションペーパー】
5	学校感染症（第2種）【リアクションペーパー】
6	学校感染症（第3種）【リアクションペーパー】
7	子どもの健康状態の把握【リアクションペーパー】【グループワーク】【ミニテスト】
8	子どものアレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）【リアクションペーパー】【グループワーク】

9	子どものアレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	子どもの腎疾患（糸球体腎炎・尿路感染症）【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	子どもの腎疾患（ネフローゼ症候群・尿検査）【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	子どもの心疾患（先天性心疾患）【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	子どもの心疾患（川崎病・不整脈と心電図）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	子どもの糖尿病と肥満【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	小児保健看護学のまとめ【ミニテスト】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業の單元ごとに関連する解剖生理学領域を復習し、自作のノートにまとめる（60分）。また授業の中で指定した資料（文部科学省HP・厚生労働省HPの報告書等）については、各自でインストールして印刷し、授業に持参すること。

【事後学修】配布資料と教科書等をまとめたノート作りをする（90分）。

評価方法および評価の基準

授業に対する意欲・関心（10点）、3回の筆記試験（90点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。総合評価が60点に満たない場合は、再試験を1回実施し、筆記試験の得点のみにて評価する。

到達目標1.授業に対する意欲・関心（3/10）、筆記試験（30/90）

到達目標1.授業に対する意欲・関心（2/10）、筆記試験（20/90）

到達目標1.授業に対する意欲・関心（5/10）、筆記試験（40/90）

【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑や感想に返答し、理解を深めることができるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の中で指示をする。「看護援助方法」で使用した教科書も使う。

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義『こどもの病気の地図帳』講談社 493.9/K

満留昭久『学校の先生にも知ってほしい慢性疾患の子どもの学校生活』慶應義塾大学出版会

【参考図書】村田光範・浅井利夫編『小児疾患生活指導マニュアル』南江堂

坂井建雄・橋本尚詞『ぜんぶわかる人体解剖図』成美堂出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価が60点に満たない場合は、再試験を1回実施し、筆記試験の得点のみにて評価する。

この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

慢性疾患を持っている子どものことを学校内で誰よりも理解でき、寄り添い、適切な看護が展開できる養護教諭になってほしいです。

科目名	家庭の応急手当		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAf371		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小児科看護師としての臨床経験に基づき、家庭での応急手当の方法について科学的根拠を提示しながら授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目であり、専門科目の区分としては、教育・保健科目に設定されている。資格に関わる科目ではない。

科目の概要

日常生活の中で遭遇する傷病に対して、一市民として実践できる応急手当について学ぶ。また、乳幼児から高齢者までの疾病予防、怪我予防についても学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義形式以外に実技演習も実施する。さらに、グループワークの形式もとり、学生によるプレゼンテーションも行う。【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 一次救命処置が実践できる。
2. 身近で遭遇する可能性の高い傷病に対して、適切な応急手当の方法が説明できる。
3. 疾病予防・怪我予防の対策を講じることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 興味・関心、主体的な姿勢、
- 4 理論・概念・知識・技術の主体的活用

内容

1	応急手当の体験を語る【リアクションペーパー】
2	応急手当の基本・心肺蘇生・AED【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】
3	心肺蘇生演習【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】
4	止血・傷の手当て、筋肉・骨・関節の怪我と応急手当【リアクションペーパー】
5	三角巾を使った固定法【リアクションペーパー】【実技】【グループワーク】
6	中毒・熱傷について【リアクションペーパー】
7	高齢者の事故予防【リアクションペーパー】【レポート(表現)】
8	急病・怪我の応急手当 頭痛・胸痛・呼吸困難・意識障害・けいれん【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

9	急病・怪我の応急手当 腹痛・嘔気嘔吐・下痢便秘【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
10	急病・怪我の応急手当 発熱・熱中症【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
11	急病・怪我の応急手当 キャンプ・海水浴・スキー場等での事故と怪我【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
12	急病・怪我の応急手当 目に関する病気・怪我【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
13	家庭の救急箱と常備薬、薬の飲み方【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
14	乳幼児の事故対策【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	乳幼児の応急手当【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に指定していた応急手当での映像や資料を確認し、ポイントをまとめておく（60分）。【事後学修】授業で実践し学んだことを振り返り、そのポイントを教科書に書き足したり、メモを張り付けたりする（60分）。

評価方法および評価の基準

平常点（10点）、グループワークによる取組（40点）、レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 平常点（2/10）、グループワークによる取組（10/40）、

到達目標2. 平常点（4/10）、グループワークによる取組（15/40）、レポート（25/50）

到達目標3. 平常点（4/10）、グループワークによる取組（15/40）、レポート（25/50）

【フィードバック】授業の初めに、前回授業の質疑に返答し、学習理解が深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山本保博監修『図解 応急手当ハンドブック アウトドア・レスキュー・家庭』日本文芸社

【参考図書】萱場一則『暮らしの看護』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業を効果的に展開するために、人数制限を設ける場合があります。教職志望者は、他の教職科目で同じような内容のものを学ぶ機会があるため、教職課程を志望していない学生を優先します。実技演習を伴う授業であり、授業に参加する場合には、パンツスタイルが望ましい。

本科目受講中あるいは受講後に、地域の消防署で実施している救急講習を受講することをお勧めします。

科目名	学習・言語心理学		
担当教員名	安田 哲也		
ナンバリング	KAf286		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科DPの1, 2を満たす。

心理学の中でも、学習心理学と言語心理学の領域について扱う。

科目の概要

本講義では、人の行動や言語が学習等によって変化する過程について取り上げます。

講義では、配布資料や提示資料をもとに講義を行う他、CHILDESデータを利用したコーパス分析をグループワークで行う予定です。また、重要な単元においては、問題解決型学習を利用した講義を行う予定です。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- 1) 人間の学習過程について理解する。
- 2) 人間の言語獲得についての機序を理解する。
- 3) ヒトにおける言語の性質や、それを学習するための理論や実際のデータについて理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	学習心理学と言語心理学の概観
2	行動の測定と実験デザイン
3	古典的条件付け
4	道具的条件付け
5	刺激性制御と強化
6	学習のまとめ
7	言語の4領域と言語発達のアプローチ
8	語彙発達

9	コーパスを利用した分析1：語彙カテゴリー
10	コーパスを利用した分析2：平均発話長
11	文法発達
12	生得性と臨界期
13	言語の系統発生的起源
14	コミュニケーションにおける言語と言語障害
15	言語のまとめと語用論

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】逐次、授業内容に関連した配布プリントがあるのでそれを読んでおく[1.0時間]。

【事後学修】授業内容に関する内容についての復習を行う[1.0時間]。

評価方法および評価の基準

平常点(20点)、中間課題(計30点)、期末課題(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。配布資料等で行う。

【推薦書】授業内で適宜指示する。

【参考図書】授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	福祉心理学		
担当教員名	小山 望		
ナンバリング	KAf287		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は公認心理師カリキュラムにおける「実践心理学」科目の1つである。

子どもから高齢期の人まで幅広い発達期の人を支援対象とするため、「発達心理学概論」及び「障害者心理学」を踏まえて本科目を理解する必要がある。また支援の方法として心理学的技法を用いることから「臨床心理学概論」と関連性がある。

科目の概要

福祉心理学とは福祉に関する問題を心理学的に研究し、福祉を要する人々に対して心理学的な技法を用いて介入、支援を行っていく学問である。福祉分野関連の法・制度、福祉心理学の基本的知識、さらには、福祉分野における心理支援のあり方を学び、人が安心・安定して生活するために何が必要か考える。

授業の方法（ALを含む）

本科目では講義による解説を中心として行う。知識の定着の確認のため適宜 グループワークを用いたり、事例の検討や応用問題を解くなど講義内容をより深く理解するためのワークを実施する。また、

到達目標

児童福祉、高齢者福祉をはじめ多岐にわたる福祉分野の心理社会的問題およびその支援について理解を深める。特に、公認心理師としての素養を涵養するため以下の3点の理解を目指す。

1. 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する
2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解する
3. 虐待および認知症についての基本的知識について理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 基本的理念・概念の理解 -1 興味・関心，主体的な姿勢 -3 問題発見・解決

内容

この授業は講義を基本に事例検討等のワークを取り入れながら，学びを深めていく。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション/福祉心理学の概要と意義 |
|---|-----------------------|

	社会福祉の対象者と支援者
2	日本における社会福祉の歴史と動向
3	福祉分野における心理支援について
4	暴力被害者への支援 DVとは何か
5	子どもと親への支援 児童福祉の法・制度
6	子どもと親への支援 子育て支援
7	子どもと親への支援 児童虐待
8	障害とは、ICFの概念 障害者権利条約、障害者総合福祉法・制度
9	様々な障害児(者)の心理と支援について 視覚障害、聴覚障害、身体障害など
10	知的障害児(者)と発達障害児(者)の心理と支援について
11	障害のある人と家族への支援
12	精神障害者の心理と支援について
13	ひきこもりへ心理支援について
14	高齢者への支援 認知症】について
15	生活困窮者への支援について

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

第1回にて各回のキーワードを提示する。キーワードについて調べ、ノートにまとめておく。

また第1回，第6回，第9回に自習テーマを提示する。テーマについて各自学習を進めておく。[各授業に対して60分以上]

【事後学修】

授業については復習することを必須とし，授業時に紹介された法律や政策，図書等について各自で内容を理解し，深められるよう，復習ノートを作成しておく。[各授業に対して60分]

評価方法および評価の基準

授業への参加度および毎回のワークやリアクションペーパー（30%），小テストと自習ノート提出（30%），筆記試験（40%）で総合的に評価を行い，総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)ワーク・リアクションペーパー(10/30)，筆記試験(15/40)

到達目標(2)小テストと自習ノート(30/30)，ワーク・リアクションペーパー(5/30)，筆記試験(10/40)

到達目標(3)ワーク・リアクションペーパー(15/30)，筆記試験(15/40)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し，学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず，毎回レジュメを配布する。

【推薦書】授業時に紹介する。

【参考図書】中島健一編 公認心理師の基礎と実践 福祉心理学 ちとせプレス

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

福祉心理学がカバーする範囲は広範であるため，積極的な態度での受講と自主学習を求めます。

また，日頃からニュース等で情報を収集し，関心をもって講義に臨んでください。

科目名	卒業研究		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	卒業研究		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAg572		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

4年次の必修科目である。3年次までの講義や研究法の授業の中で培ってきた心理学的知識や心理学に基づく研究手法を用いて卒業研究を行う。3年次後期の人間発達演習での取り組みを活かして、計画的に、自主的に研究を進めることを求める。

科目の概要：

4年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、1年をかけて、問題意識を追究する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。

授業の方法：

担当教員の指導を受けながら、各自自分のテーマに沿って卒業論文を作成する。【論文】

到達目標：

1. 科学的思考に基づいた研究展開ができる。
2. 自己の研究のオリジナリティが説明できる。
3. 研究論文が執筆できる。

ディプロマポリシーとの関係：

この科目は、心理学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 理論・概念・知識・技能の主体的活用

内容

この講義は、担当教員ごとにゼミ形式あるいは個別指導によって、卒業研究を進めていく。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、研究テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

なお、卒業研究の提出にあたっては中間報告書を提出する必要がある。

論文の提出期限は12月中旬を予定。

論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する必要がある。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(5%)

到達目標2：論文の成果(15%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(15%)

到達目標3：論文の成果(20%)、論文作成にあたっての取り組み(10%)、卒業研究発表会への参加及び発表(0%)

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・履修条件が設定されている科目です。
- ・論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導教員が指導を行います。

科目名	関係行政論		
担当教員名	松浦 宏明		
ナンバリング	KAe288		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、公認心理師養成課程カリキュラムにおける科目の一つである。公認心理師として、社会において活動する上で必要となる施策や法律、制度、そしてその基盤となる考え方を身に付けられるようにすることが求められている。

科目の概要

保健医療分野，福祉分野，教育分野，司法・犯罪分野，産業・労働分野の5領域の法律や制度等について理解する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心として、リアクションペーパー及びミニテスト等を取り入れた授業を行う。【リアクションペーパー】【ミニテスト】

到達目標

1. 5領域の法律と制度について、基本的な理論や概念を説明することができる。
2. 各領域で生じる心理臨床的課題について、法律や制度との関わりにおいて、的確な理解をし、意見を述べることができる。
3. 私達の生活における法律や制度の意義と役割について、的確な理解をし、意見を述べるができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1基本理念・概念の理會 -1興味・関心，主体的な姿勢 -2知識・理解を活用する意欲

内容

1	法・制度の基本と公認心理師【リアクションペーパー】
2	公認心理師の法的立場と多職種連携【リアクションペーパー】
3	公認心理師の各分野への展開【リアクションペーパー】【ミニテスト】
4	保健医療分野に係る法律・制度 [医療全般]【リアクションペーパー】
5	保健医療分野に係る法律・制度 [精神科医療]【リアクションペーパー】
6	保健医療分野に係る法律・制度 [地域保健]【リアクションペーパー】【ミニテスト】
7	福祉分野に係る法律・制度 [児童福祉]【リアクションペーパー】

8	福祉分野に関係する法律・制度 [障害者・障害児福祉]【リアクションペーパー】
9	福祉分野に関係する法律・制度 [高齢者福祉]【リアクションペーパー】【ミニテスト】
10	教育分野に関係する法律・制度【リアクションペーパー】【ミニテスト】
11	司法・犯罪分野に関係する法律・制度 [刑事]【リアクションペーパー】
12	司法・犯罪分野に関係する法律・制度 [家事]【リアクションペーパー】
13	司法・犯罪分野に関係する法律・制度 [少年非行]【リアクションペーパー】【ミニテスト】
14	産業・労働分野に関係する法律・制度【リアクションペーパー】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業前にあらかじめ、各領域において私達の生活と法律や制度がどのように関わるか、各自の考えを整理し、どのような課題があるのか考えておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業については復習することを必須とし、授業時に紹介された法律や制度等について各自で内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成しておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

毎回の授業への参加度及びリアクションペーパー(60%)、筆記試験(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.リアクションペーパー(20%/60%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標2.リアクションペーパー(20%/60%)、筆記試験(20%/40%)

到達目標3.リアクションペーパー(20%/60%)、筆記試験(10%/40%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】心の専門家が出会う法律 - 臨床実践のために[新版] 株式会社誠信書房

【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人体の構造と機能及び疾病		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング	KAe389		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科ディプロマポリシーのうち、「1.心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間及び人間の発達に対する多角的な見方ができる。」を達成するために1．人体の階層構造の理解 2．器官系の構造と機能の理解 3．病態の基礎の理解を目標とする。

科目の概要

正常な人体の構造（つくり）や機能（はたらき）について、細胞、組織、血液、循環、呼吸、消化器、運動系、泌尿器、内分泌、生殖、神経系の各分野に分類し、各部の名称や構造と機能、および人体の恒常性の維持について理解する。また、これらの構成単位の知識に基づいて、がんや難病などをはじめとした、心理に関する支援が必要な様々な疾病についての理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

正常な人体の構造（つくり）・機能（はたらき）を学修する講義科目であり、人間発達心理学科の専門科目のうち公認心理師関連科目に属します。

公認心理師受験資格取得のために必要な心身機能と身体構造の基本を学び、疾病や障害について基礎的な知識の習得を目指します。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

教科書の解説を基本に、板書やスライドを用いて授業を進めていく。

1	はじめに
2	細胞と組織
3	消化器系
4	血液・造血器・リンパ系
5	循環器系
6	呼吸器系
7	腎・尿路系
8	生殖器系

9	骨格系
10	筋肉系と運動機能
11	内分泌系
12	神経系
13	感覚器系
14	免疫系
15	皮膚組織・体温調節・まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に提示した事項について、教科書を参照して予習する。

【事後学修】授業内容に基づく演習問題により復習する。

評価方法および評価の基準

授業への参加度 2割（20%）、筆記試験8割（80%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】志村二三夫・岡 純・山田和彦（編著）栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』、羊土社

【推薦書】田中越郎「イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき第2番」医学書院

【参考図書】坂井建雄・橋本治詞「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	公認心理師の職責		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAe390		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

公立中学校のスクールカウンセラーとして3年間勤務

実務経験および科目との関連性

公認心理師の職域のひとつである教育領域の職務経験が授業内容に活かされている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は公認心理師の受験資格を得るための必修科目です。学科ディプロマ・ポリシーの1および2に該当します。公認心理師を希望するもの、将来的な取得を検討している人は必ず受講してください。公認心理師という資格の全体像を理解するガイダンスとしての内容も含まれます。

科目の概要

公認心理師という資格について、心理専門職が活躍する職域について、その倫理や職業的使命などについて解説します。

授業の方法（ALを含む）

毎回の授業はパワーポイントによる講義を中心に行います。また授業のふりかえりと感想や疑問について教員学生間で共有するために、グーグルフォームもしくは紙媒体の相互コミュニケーションツールを用いてアクティブラーニングを行います。

到達目標

公認心理師が有する職業的責任と公認心理師の職域について理解し、説明することができることが目標です。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1.心理学の主な領域（発達、臨床、社会、生活、教育、保健）における基本的な理論や概念を理解できる
- 2.心理学全般または主な領域（発達、臨床、社会、生活、教育、保健）のうち特定領域に対して興味・関心をもち、自ら調べ考えようとする態度を備えることができる

3.制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における課題を見出すとともに、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもちいて、その解決に臨む意欲をもつことができる

内容

1	オリエンテーション
2	公認心理師の役割
3	公認心理師の法的義務及び倫理
4	心理に関する支援を要する者等の安全の確保
5	情報の適切な取扱い
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務
9	司法分野における公認心理師の具体的な業務
10	産業分野における公認心理師の具体的な業務
11	自己課題発見・解決能力
12	生涯学習への準備
13	多職種連携
14	地域連携
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの該当箇所を読んで、不明な用語などについては各自で調べてノートにまとめておくこと（各授業90分）

【事後学修】講義中に感じたことや学んだことを振り返り、ノートにまとめること。疑問点については各自で教科書や参考資料などに基づいて調べておくこと（各授業90分）

評価方法および評価の基準

期末試験80% 授業への参加度（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で行われる小レポートをもとに、その次の回の冒頭でフィードバックを行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】公認心理師エッセンシャルズ第2版 子安増生・丹野義彦（2018）有斐閣

【推薦書】特に指定しない

【参考図書】公認心理師の職責（公認心理師の基礎と実践） 野島一彦（監修）（2018） 遠見書房

毎回の授業で教科書を参照しながら受講できるように各自準備をすること

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

公認心理師を目指したい人、将来目指す可能性のある人は覚悟を持って、必ず履修してください。

科目名	精神疾患とその治療		
担当教員名	小島 一泰、布施 晴美		
ナンバリング	KAe391		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針 2 に該当する。

代表的な精神疾患の基礎知識を学び、「心を病む」とはどういうことかについて、精神医学的な観点から学習する。公認心理師を希望する場合、心理学関連科目に該当。

科目の概要

次の 3 点を扱いながら、精神医学について全般的な理解を深める。

1. 精神疾患総論
2. 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化
3. 医療機関との連携

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

援助者として知っておくべき精神疾患の基礎知識を習得する。また精神疾患を抱える人たちへの心理社会的支援や、それらと医学的治療との相違と連携についても扱う。これらの学習を通じ、心を病むとはどのようなことなのかを考え、各自が「心を病む」ことや「ひとを支援する」ということについて自分なりの考えを述べられるようになることを目指す。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

講義を中心に進める予定である。

授業への積極的な参加を促すため、適宜、短時間のグループ討議や、リアクションペーパーを介しての質疑応答などを取り入れていく。

1. 精神障害に関する基本的な考え方（成因、症状、経過、診断等）
2. 抑うつ障害
3. 双極性障害
4. 統合失調症
5. 神経症性障害（不安症、強迫症、身体症状症）
6. 神経症性障害（心的外傷およびストレス関連障害、解離症）
7. 物質関連障害および嗜癖
8. パーソナリティ障害
9. 睡眠・食行動・性に関する障害
10. 神経発達症群
11. 器質性精神障害
12. その他の精神障害（児童・青年期にみられる問題を含む）
13. 治療と支援（薬物療法含む）
14. 医療機関との連携
15. まとめと試験

（進行等に応じて、一部変更する可能性あり。）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】精神疾患とその治療について、現時点で抱いている疑問や問題意識について、自分なりに整理してくる。それらは初回講義時に聞き取り、その後の講義内容に反映する。（60分）

【事後学修】講義内容について復習を行うこと。その成果は毎回の小テストをもって確認する。（60分）

評価方法および評価の基準

毎回の講義冒頭で前回内容に関する小テスト（50%）、最終回の講義時間中に書く小レポート（50%）、以上の総合評価60点以上を合格とする。但し、最終回を含む3分の2の出席が必須。

【フィードバック】小テストの回答については、翌回の講義冒頭で解説する。また前回内容についての質疑にも翌回の講義前半で返答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は指定せず、パワーポイント資料を中心として講義を進める予定である。

【推薦書】・山下 格『精神医学ハンドブック 第7版 医学・保健・福祉の基礎知識』（日本評論社）

・上島、上別府、平島（編）『精神医学の基礎知識 第2版：サイコロジストとメディカルスタッフのために』

（誠信書房）

・姫井 昭男『精神科の薬がわかる本 第3版』（医学書院）

【参考図書】・『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』、『ICD 10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	心理的アセスメント		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KAe492		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師として臨床現場に長く従事した経験を活かして、心理的アセスメントの理論及び技法について解説を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目で、公認心理師受験資格取得に必要な科目である。

心理学的援助法、心理演習、心理実習などと関連が深い。

科目の概要

公認心理師に求められる心理的アセスメントに関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。

心理的アセスメントは、クライアントの現状を評価・診断するために必要な心理社会的情報収集に加えて、心理学的支援の立案、その具体的方法の検討と効果の判定に有用な情報収集を行うプロセスである。本講義では、心理的アセスメントの主要な方法である心理検査法や観察法を中心に、その特徴と具体例を学び、心理演習に必要な基本的知識の習得を目指す。

授業の方法 (ALを含む)

講義を中心に、実際のアセスメント事例を参考にしたグループ学習等を通して、アセスメントの基礎を身につけていく。【グループワーク】【ケースメソッド】

到達目標

- ・心理的アセスメントの定義、目的、主要な方法、倫理について理解する。
- ・心理検査の適応及び実施方法について理解し、正しく実施方法と検査結果の解釈について理解する。
- ・生育歴等の情報、行動観察及び心理検査の結果等を統合させた包括的な解釈について理解する。
- ・心理的アセスメントにおける留意点や配慮、適切な記録の仕方、報告、振り返りについて理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 客観的・論理的解釈、2- 客観的・科学的な解釈、3- 課題発見・解決

内容

1	心理的アセスメントとは
2	心理的アセスメントの方法

3	心理検査の基礎理論
4	心理的アセスメントの方法と実際 精神症状の測定【グループワーク】
5	心理的アセスメントの方法と実際 パーソナリティ検査（質問紙）【グループワーク】
6	心理的アセスメントの方法と実際 パーソナリティ検査（投影法）【グループワーク】
7	心理的アセスメントの方法と実際 発達検査【グループワーク】
8	心理的アセスメントの方法と実際 知能検査【グループワーク】
9	心理的アセスメントの方法と実際 社会的機能と適応行動の測定【グループワーク】
10	心理的アセスメントの方法と実際 認知機能の測定【グループワーク】
11	テストバッテリーと報告書作成までのプロセス
12	各分野における心理的アセスメントの実際 【ケースメソッド】
13	各分野における心理的アセスメントの実際 【ケースメソッド】
14	各分野における心理的アセスメントの実際 【ケースメソッド】
15	まとめ：心理的アセスメントの展開

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各心理検査の概要について調べ、理解を深める（各回60分程度）。

【事後学修】講義資料をもとに内容を復習する。補足資料がある場合には、次講義までに精読する。（各回60分程度）

評価方法および評価の基準

「毎回の授業への参加度(取組み)」60点と「課題レポート」40点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への参加度(15%)、レポート(10%)

到達目標2．授業への参加度(15%)、レポート(10%)

到達目標3．授業への参加度(15%)、レポート(10%)

到達目標4．授業への参加度(15%)、レポート(10%)

【フィードバック】講義中の質問に関しては、次週に回答を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜プリントを配布する

【推薦書】上里一郎（編）「心理的アセスメントハンドブック」（西村書店）

津川律子・遠藤裕乃（編）「心理的アセスメント」（遠見書房）

氏原寛・岡堂哲雄・亀口憲治・西村洲衛男・馬場禮子・松島恭子「心理査定実践ハンドブック」（創元社）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

心理アセスメントの習熟には相応の時間を有するため、事前学修、事後学修は確實かつ丁寧に実施すること。

なお、実習・演習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。

科目名	心理学的支援法		
担当教員名	永作 稔		
ナンバリング	KAe493		
学 科	人間生活学部（K）-人間発達心理学科（KC）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

公立中学校のスクールカウンセラーとして3年間勤務

実務経験および科目との関連性

公認心理師の職域のひとつである教育領域の職務経験が授業内容に活かされている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は公認心理師の受験資格を得るための必修科目です。学科ディプロマ・ポリシーの1および2に該当します。公認心理師を希望するもの、将来的な取得を検討している人は必ず受講してください。

科目の概要

心理学を応用した支援の方法やその技術、および関連職域との連携における注意点など、心理支援の具体的な理論と方法について学びます。

授業の方法（ALを含む）

毎回の授業はパワーポイントによるレクチャーと学生による発表を中心に行います。また授業のふりかえりと感想や疑問について教員学生間で共有するために、Googleフォームもしくは紙媒体の相互コミュニケーションツールを用いてアクティブラーニングを行います。

到達目標

心理学に基づく支援の方法について理解すること、また今後の実践を視野に入れながらその基礎知識について説明できることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1. 専門教育で習得した心理学の理論・概念・技能を生活で活用していく方法を理解できる
2. 心理学の基本的な理論や概念を、日常生活で経験したことの理解や分析に活用しようとする意欲をもつことができる

3. 制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における課題を見出すとともに、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもちいて、その解決に臨む意欲をもつことができる

内容

1	オリエンテーション
2	精神分析療法・力動的心理療法
3	芸術療法・表現療法
4	行動療法
5	認知療法・認知行動療法
6	ストレスと心の健康への支援法
7	来談者中心療法
8	グループカウンセリング
9	家族療法
10	コミュニティアプローチ
11	技法の選択と効果のエビデンス
12	訪問支援・地域支援
13	良好な人間関係を築くためのコミュニケーション技法
14	関係者に対する支援
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの該当箇所を読んで、不明な用語などについては各自で調べてノートにまとめておくこと（各授業90分）

【事後学修】講義中に感じたことや学んだことを振り返り、ノートにまとめること。疑問点については各自で教科書や参考資料などに基づいて調べておくこと（各授業90分）

評価方法および評価の基準

期末試験80% 授業への参加度（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で行われる小レポートをもとに、その次の回の冒頭でフィードバックを行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ケアする人の対話スキルABCD 堀越勝（2015）日本看護協会出版会

【推薦書】特に指定しない

毎回の授業で教科書を参照しながら受講できるように各自準備をすること

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

公認心理師を目指したい人、将来目指す可能性のある人は覚悟を持って、必ず履修してください。

科目名	心理演習		
担当教員名	加藤 陽子、永作 稔、東畑 開人		
ナンバリング	KAe494		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間発達心理学科 (KC)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理師として、臨床現場に長く従事した経験を活かして、RPや事例検討などを行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目で、公認心理師受験資格取得に必要な科目である。

心理学的援助法、心理アセスメント、心理実習などと関連が深い。

科目の概要

公認心理師としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。

医療機関・福祉施設・教育機関等での臨床心理士または心理専門職としての心理支援に関する実務経験をもとに具体的場面を設定した演習を実施する。

授業の方法 (ALを含む)

講義を中心に、実際の事例を参考にしたロールプレイングやグループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。
【グループワーク】【ケースメソッド】【ロールプレイ】

到達目標

- ・心理に関する支援を要する者等への理解やニーズの把握等に必要な技術を習得し、用いることができる。
- ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携の方法に必要な知識を習得し、説明できる。
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務に基づいた援助について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1- 心理学の理論・概念・技能の活用の理解、3- 知識・理解を活用する意欲、3- 課題発見・解決

内容

本講義は、意見交換・発表などグループワークやディスカッションを主とする講義形態をとる。

そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

またケースを取り上げるため、参加者全員が守秘義務を負う。

	対人支援者としての姿勢、公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する
2	コミュニケーション実習(1)非言語的交流【グループワーク】 姿勢、距離、アイコンタクト等の非言語的交流を意識し、相手が話を聴いてもらえていると感じる関わりについて学ぶ
3	コミュニケーション実習(2)傾聴と応答【グループワーク】 あいづち、短い言葉の応答のみを行いながら、相手の話しを傾聴し、気持ちや感情を理解する。
4	コミュニケーション実習(3)傾聴とストーリー理解【グループワーク】 傾聴の練習と、短い言葉での応答や確認、質問、焦点づけによって、相手の伝えたいストーリーを理解する。
5	コミュニケーション実習(4)傾聴とストーリー理解の伝え返し【グループワーク】 相手の伝えたい感情や内容を、相手の言葉を使いながら伝え返し関わり方について学ぶ。
6	心理面接のロールプレイング(1)【ロールプレイ】 クライアント役、カウンセラー役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、その後に話し合いのフィードバックを行う。
7	心理面接のロールプレイング(2)【ロールプレイ】 クライアント役、カウンセラー役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、その後に話し合いのフィードバックを行う。
8	心理面接のロールプレイング(3)【ロールプレイ】 クライアント役、カウンセラー役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、その後に話し合いのフィードバックを行う
9	心理検査のロールプレイング 【ロールプレイ】 心理検査の準備、ラポール、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役を設け、ロールプレイングを行う。
10	事例の理解(1)【ケースメソッド】 5領域の中からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
11	事例の理解(2)【ケースメソッド】 5領域の中からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
12	事例の理解(3)【ケースメソッド】 5領域の中からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
13	事例の理解(4)【ケースメソッド】 5領域の中からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
14	多職種連携と地域支援【ケースメソッド】 支援を要する者等に対するチームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解する。
15	総括・振り返り・達成度の評価 ここまでの授業内容の振り返りを行う。出題された授業内課題を各自行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】担当する役割に関して、設定する内容を考える

【事後学修】実習として行った内容の復習・練習を行う、出題された事後課題を実施する

評価方法および評価の基準

「毎回の授業への参加度(取組み)」70点と「課題レポート」30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業への取組みと課題(25%)、レポート(10%)

到達目標2．授業への取組みと課題(25%)、レポート(10%)

到達目標3．授業への取組みと課題(20%)、レポート(10%)

【フィードバック】課題レポートは、最終講義にてフィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】プロカウンセラーの聞く技術、東山紘久著、創元社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

履修の手引きの条件を満たすもののみ受講可能。

なお、実習・演習授業のため、原則、遅刻・欠席は認めない。